

ボスニア・ヘルツェゴビナ
地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成 29 年 4 月
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構
社会基盤・平和構築部

基盤
JR
17-069

ボスニア・ヘルツェゴビナ
地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成 29 年 4 月
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構
社会基盤・平和構築部

序 文

独立行政法人国際協力機構は、ボスニア・ヘルツェゴビナの要請を受け、地方開発による民族和解を目的として、2014年1月から2017年3月までの3年2カ月間、「地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト」を実施してきました。

プロジェクトの終了を控えた2016年8月27日から同年9月18日までの間、終了時評価調査を実施し、活動実績や目標達成状況等について、総合的な評価を行いました。これらの評価結果は、調査団とボスニア・ヘルツェゴビナ側関係者による協議を経て評価レポートとしてまとめられ、協議議事録（M/M）の署名・交換を行いました。本報告書は、同調査団による協議及び評価調査結果等をまとめたものです。

本調査の実施にあたり、ご協力とご支援を頂いた関係各位に対し、心から感謝の意を表します。

2017年4月

独立行政法人国際協力機構

社会基盤・平和構築部長 安達 一

目 次

序 文

目 次

地 図

略語表

評価調査結果要約表（和文・英文）

第1章 終了時評価の目的と手順	1
1-1 背景と目的	1
1-2 評価の手順	1
1-3 評価の対象	2
1-4 合同評価チームメンバー	2
第2章 プロジェクトの概要	3
2-1 プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）	3
2-2 プロジェクトの期間・ターゲットグループ・対象地域	3
第3章 プロジェクトの実績	4
3-1 投入	4
3-2 活動	5
3-3 成果	5
3-4 プロジェクト目標	8
3-5 上位目標	9
第4章 プロジェクト実施プロセス	11
第5章 評価5項目による評価	13
5-1 妥当性	13
5-2 有効性	15
5-3 効率性	16
5-4 インパクト	18
5-5 持続性	19
第6章 結論	21
第7章 提言・教訓	22
7-1 提言	22
7-2 教訓	22

第8章 総括	24
--------------	----

付属資料

1. 調査日程	29
2. 面談記録	30
3. Project Design Matrix (PDM)	52
4. 協議議事録 (M/M)・合同評価報告書	55
5. 終了時評価グリッド	101

地 图



略 語 表

略 語	正 式 名 称	日 本 語
BiH	Bosnia and Herzegovina	ボスニア・ヘルツェゴビナ
C/P	Counterpart	カウンターパート
D-HOPE	Decentralized Hands-On Program Approach	分散・体験型見本市アプローチ
EU	European Union	欧州連合
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
KM	Convertible Mark	兌換マルク（ボスニア・ヘルツェゴビナ通貨）
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
MOA	Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management	農林業・水管理省
MZ	Mjesna Zajednica [Local community (Original in local language)]	市の下に位置づけられる行政区（住民自治組織）
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	実施計画
R/D	Record of Discussions	討議議事録
RS	Republic of Srpska	スルプスカ共和国
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ボスニア・ヘルツェゴビナ	案件名：地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト
分野：平和構築	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：社会基盤・平和構築部	協力金額（評価時点）：約 3 億 1,000 万円
協力期間	2014 年 1 月～2017 年 3 月
	先方関係機関： スルプスカ共和国（Republic of Srpska : RS）農林業・水管理省（Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management : MOA） ブラトナツ市、ロガティツァ市、スレブレニツァ市
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト
1-1 協力の背景と概要	
<p>ボスニア・ヘルツェゴビナ（Bosnia and Herzegovina : BiH）は、包括的和平合意後 20 年以上が経過したが、中央政府のもとに、ムスリム（ボシュニアック）及びクロアチア系住民が中心の「ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦」とセルビア系住民が多数でボシュニアックも居住する「スルプスカ共和国（Republic of Srpska : RS）」の 2 つのエンティティ（高度な自治権をもつ行政主体）が存在し、国内の民族融和はなかなか進んでいない。</p> <p>JICA では、農業・農村開発による民族和解を目的として「スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト」（2008 年 9 月～2013 年 11 月）を実施した。同プロジェクトでは、ハーブ生産・加工、野菜栽培、養蜂、児童保育施設運営などの事業を展開し、コミュニティ社会の再構築と住民の経済的自立のための協力を実施した。その結果、裨益住民の収入の向上、多民族社会の安定化に必要な情報公開・交換による透明性の向上等が確認された。</p> <p>これを高く評価した RS の農林業・水管理省（Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management : MOA）の要請を受け、2014 年 1 月より JICA は、対象地域をスレブレニツァ市と隣接するブラトナツ市、ロガティツァ市の 3 市へ広げ、前プロジェクトと同様の事業を実施するとともに、裨益効果の持続性を図る観点から市役所の関与を高め、住民融和が促進されることを目的として、「地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」と記す）を実施している。</p>	
1-2 協力内容	
<p>本プロジェクトは、ブラトナツ市、ロガティツァ市、スレブレニツァ市を対象として、農業・農村開発事業、市役所の能力機能強化、RS の MOA との情報共有を通じ、対象地域における包括的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制の強化を図り、もって住民の融和の促進をめざすものである。</p>	

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) プロジェクト目標

【指標】

1. プロジェクト終了時まで、市役所主体による活動事例の数・種類がプロジェクト開始時と比較して増加する。
2. 対象地域住民のコミュニティ開発に係る行政サービス（農業関連支援、情報提供、その他サービス）への満足度が上昇する。
3. 対象地域住民の収入が増加する。

【実績】

プロジェクト目標は達成されつつある。指標のうち、1と2は達成される見込みである。3については、終了時評価時点では住民の収入の増加が必ずしも明確でないが、今後達成される見込みはある。

1. 市役所主体による活動事例がいくつかみられる。ブラटनाッツ市では、ラズベリーの苗木を栽培して配付するためのラズベリー・ナーサリーを設立した。同事業にあたっては、市役所がナーサリー（苗床）のための土地を提供し、JICAがラズベリーの種苗を供与、ドナー協調の一環としてUNDPがナーサリーの周囲のフェンスを提供した。ナーサリーを運営する団体では、ラズベリー栽培を始める住民に苗木を配付している。同市では、数年のうちにナーサリー団体が財政的に自立できるようにしていく計画である。ブラटनाッツ市のナーサリー設立に続き、スレブレニツァ市でも同様のナーサリー団体の設立を計画している。ログティツァ市では、ヒツジの飼育センターを設立する計画を進めている。
2. 終了時評価でのインタビューによれば、受益者の大半はプロジェクトが支援した事業に関する市役所のサービスに満足している。プロジェクトの活動を通じ、市役所とのコミュニケーションが向上したとコメントする住民もいた。C/Pのなかにも、地域住民から市役所に対し助言を求められる機会が増えたとする者がいた。プロジェクト活動の実施においては、地域住民間で問題が起こった際に市役所が重要な役割を果たすこともあった。これらのことにより、市役所のコミュニティ開発に係る行政サービスに対する地域住民の満足度と信頼は向上していると判断される。
3. エンドライン調査によれば、ログティツァ市では、2014～2016年の間に、収入が3,000KM以上の世帯の割合は、52%から85%と顕著に増加している。スレブレニツァ市では、2013～2016年の間に、1,000KM～6,000KMの収入の世帯の割合が、45%から51%と若干増加しているものの、6,000KM以上の収入の世帯の割合は53%から43%に減少している。スレブレニツァ市においては2006年よりJICAの支援を行っているため、本プロジェクト開始時の2013年には一定程度の収入増加を既に達成していた。そのため、本プロジェクト期間の顕著な収入増加はみられない。インタビューでは、3市とも、受益者の多くが、プロジェクトで導入した活動により収入が増加したと回答していた。

(2) 成果

1) 成果 1

【指標】

1-1. 市役所、MZ^{*}、住民グループ、現地 NGO 等、関連組織による活動の実施状況

〔*MZ：市の下に位置づけられる行政区（住民自治組織）〕

【実績】

PDM では指標の目標値が明示されていないものの、3 市で農業・農村開発事業が実施されていることから成果 1 は達成される見込みである。

1-1. C/P 機関、日本人専門家、関連する NGO/農民組織/農業組合の協力により、3 市において、ラズベリー栽培、果樹栽培、野菜栽培、家畜飼育、牧草地再生、小規模インフラ建設等の農業・農村開発事業が実施された。農業・農村開発事業を通じ、約 2,500 人の住民が裨益した。牧草地再生や農業機械供与等コミュニティ全体に裨益する活動を含めると、受益者の数はさらに増加する。受益者の選定にあたっては、セルビア系・ボシュニャック両民族の割合に配慮した。

2) 成果 2

【指標】

2-1. RS の MOA への対象地域からの補助金申請件数が増加する。

2-2. 対象地域農家・農民組織から市への申請されるプロポーザル件数が増加する。

2-3. 申請案件中、採択されるプロポーザルの割合が増加する。

2-4. 市役所によって農業・農村開発活動に関する情報が収集され、記録される。

2-5. 市役所による入札や事業対象者の選定・募集等情報普及活動が少なくとも 1 年に 1 回以上実施される。

【実績】

市役所の組織能力強化は進捗しており、成果 2 は達成されつつあると判断される。

2-1. 対象地域における補助金の申請件数は、増加している。地域で農業に従事する農民は、一定以上の生産高を上げると RS の MOA からの補助金を申請できることになっている。これら補助金は、ラズベリー栽培農家やウシ飼育者らにも適用されている。インタビューでは、プロジェクトでの活動により、農牧業の生産高が増加していることから、補助金申請数が増加していると見込まれる。市役所では、農民に対して、補助金申請のプロセスを円滑にするための支援を行っている。

2-2. 対象地域農家・農民組織から市への申請されるプロポーザル件数は増加している。農民は、必要に応じ市役所に対して事業のプロポーザルを申請している。ログティツァ市では、農業分野における投資事業に関して一般からプロポーザルを募集し、承認されたものは市の予算案に組み込んでいる。これは、市役所において住民の意向を取り入れた事業を展開する方針とそのための体制ができていたためと思料される。

2-3. 申請案件中、採択されるプロポーザルの割合は増加している。インタビューでは、ログティツァ市で非営利団体として地域開発にも関与するツーリズム団体によるプロポーザルが承認され、2016 年度の予算案に採用されたということであった。

2-4. 対象 3 市とも、農業・農村開発に関する情報を収集している。ブラトナツ市とログティツァ市では、活動のモニタリング結果がデータベースに記録され保存されている。

る。スレブレニツァ市では、同様のデータベースは、終了時評価時点では構築されていない。

2-5. 対象3市では、入札や受益者選定等に関する情報公開を定期的に行っている。さらに各市では、地域の住民や農民組織に対し技術的な助言を行っている。ブラトナツツ市では、現場で活動を行っているラズベリーの専門家と協力して技術的助言を行っている。

3) 成果3

【指標】

3-1. RSのMOAへの各市役所からの事業進捗にかかる報告が定期的実施される。

【実績】

成果3は達成されつつある。

3-1. 対象3市では、RSのMOAと情報交換を行っており、RSのMOAと各市の間で情報が共有されている。MOAとの情報共有にあたっては、各市においてC/Pが中心的な役割を担っており、このC/Pを核として今後も情報共有が進展していくものと考えられる。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

プロジェクトの妥当性は、おおむね高い。

プロジェクト実施のニーズは高い。対象地域には紛争の影響を受けた被害者が多く居住しており、その多くが依然として経済的困難を抱えている。セルビア系とボシュニアクの間で紛争があったことから、地域社会のキャパシティを高めるためには、民族間の融和を図り、地域社会の住民間の信頼を醸成することが求められている。さらに農村開発を継続的に実施していくためには、市役所の能力開発が必要である。対象の3市では、目立った産業がなく雇用機会が限られており、雇用の創出が困難であることから、住民の多くは農業に依存している。

本プロジェクトは、BiHと対象3市の政策と合致している。RSの農業・農村開発の戦略計画（2015～2020年）では、「ビジョン」として、食品加工業も含めた農業分野が重要な経済セクターであると記載されている。また、同「ビジョン」では、農村部において、すべての社会階層が平等な基盤に基づき生活環境を享受できることを掲げている。これは、民族間の信頼醸成の必要性を示唆しているといえる。対象3市の開発計画では、農業が優先分野になっている。プロジェクトの農業・農村開発事業で実施した活動は、いずれも各市の戦略的な農産品と合致している。

本プロジェクトは、BiHに対する日本の政府開発援助（Official Development Assistance : ODA）と合致している。同国に対する国別援助方針では、基本方針（大目標）として「社会の安定化と経済発展に向けた側面的支援」が挙げられている。この大目標の下、重点分野として、「平和の定着・民族の和解」と「環境に配慮した持続可能な経済成長」の2点が挙げられており、本プロジェクトは、「平和の定着・民族の和解」の重点分野のなかに位置づけられている。

プロジェクトの計画は、おおむね適切であるが、計画段階で正確な情報が不足していた

ことにより、一部の指標が適切に設定されなかった。

(2) 有効性

有効性は、比較的高い。

成果 1（農業・農村開発事業の実施）、成果 2（対象市役所の農業・農村開発支援能力機能化）、成果 3（RS の MOA との情報共有）のそれぞれの指標は達成されつつある。また、プロジェクト目標の指標の 1（市役所主体による活動事例の数・種類がプロジェクト開始時と比較して増加）、2（対象地域住民のコミュニティ開発に係る行政サービスへの満足度が上昇）が達成される見込みであり、3（対象地域住民の収入が増加）に関しては修了時評価時点では明確ではないものの、インタビューでは受益者の多くが、プロジェクトで導入した活動により収入が増加したと答えていることから、今後達成の見込みがある。これにより、「対象地域において、包摂的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制が強化される」というプロジェクト目標は達成されつつあると思料される。

成果からプロジェクト目標に至るロジックはある程度適切といえる。成果 1（農業・農村開発事業）と成果 2（対象市役所の組織能力）は、いずれも、プロジェクト目標である公平で包摂的な地域開発の実施体制を実現するために必要なコンポーネントである。成果 3（市役所機能強化及び地域住民生計向上の取り組みが RS の MOA と情報共有される）は、地域開発の実施体制を強化するために重要ではあるが、実際には、MOA のプロジェクトへの関与は技術的助言にとどまっており、MOA からの技術的助言自体は重要ではあるものの、MOA との情報共有が対象 3 市におけるプロジェクト目標の達成にどの程度貢献したかは明確でない。

PDM に記載された成果以外にも、プロジェクトの活動によりいくつかの効果が発現している。例えば、3 市の間でのコミュニケーションが促進されたことにより、スレブレニツァ市がロガティツァ市からヒツジを購入したのは、対象市間の協調した活動といえる。また、スレブレニツァ市の予算により、スケラニのプロジェクト事務所の隣にある古い校舎が蜂蜜加工工場に改装された。さらに、前プロジェクトの期間中に日本の草の根・安全保障無償資金協力により建設された家畜市場において、2016 年 9 月に農業祭が開催された。

(3) 効率性

効率性は、おおむね高い。

投入は BiH 側・日本側で適切に行われた。3 市で 18 名の C/P の配置、2 名の日本人専門家の派遣、農業・農村開発事業に必要な資器材の供与、本邦研修、BiH 側及び日本側からの必要な経費の支出など、投入の質・量・タイミングとも適切であり、成果の発現に貢献した。これらから、効率性はおおむね高いといえる。また、3 つの成果はいずれも達成されつつある。

投入から成果に至るロジックは適切である。活動に必要な投入が行われ、成果の発現につながった。

成果発現のための 2 つの外部条件（自然災害と病虫害）が設定されているが、これら外部条件により、成果の発現が若干の影響を受けたものの、プロジェクト全体の成果を大きく阻害するようなことはなかった。

(4) インパクト

インパクトは、大きい。

上位目標は達成される見込みである。対象地域における民族間の信頼醸成は進んでいる。プロジェクトの活動を通じ、住民は、共同で作業を行い、機材を共同で利用し、互いに交流を図っている。対象地域の住民の間での信頼醸成に加え、住民と市役所の間での信頼も向上している。さらに信頼醸成を促進するためには、住民が共同で作業できるような事業を対象市役所のイニシアティブにより継続的に実施していくことが必要である。今後上位目標の達成を阻害する要因となり得るのは、社会経済状況の変化や治安の悪化である。

プロジェクト目標から上位目標に至るロジックは適切である。信頼醸成のために農業・農村開発事業を実施することは適切であり、これら事業を継続的に実施するためには、対象市役所の実施体制を強化することが必要となる。

その他のインパクトがいくつか認められる。まず、プロジェクトで農業・農村開発事業を導入した後、収入基盤ができたことから、雇用を求めて他の地域に流出する人が減少している。また、プロジェクトに関する情報が対象3市以外の地域にも普及しており、プロジェクトのことは対象地域以外でも広く知られるところとなっている。対象地域における信頼醸成の経験が全国的に紹介されれば、民族融和に向けた意識が一層高まることが期待される。

(5) 持続性

持続性は、中程度である。

政策面の持続性は高い。RSのMOAにおいても、市においても、農業・農村開発を重視する政策は継続していくものと考えられる。

組織面での持続性はある程度見込まれる。C/P機関の運営能力は、向上している。プロジェクトの活動を通じ、対象3市で、受益者選定やモニタリング等の実施手順が導入され、ほぼ確立されている。プロジェクトで導入された手順に基づきC/P機関が専門家の支援なしで業務を実施していけば、組織面での持続性は期待できる。懸念材料としては、2016年10月初めに選挙が予定されており、C/P機関で組織改編の可能性がある。

財政面での持続性はあまり高くない。ブラトナツツ市のラズベリー・ナーサリーは、将来的な財政面での持続性を視野に入れ運営を計画しており、こうした問題に取り組むための好事例になると考えられる。プロジェクトの支援により、受益者は初期投資としての資機材を供与され、これを元に生産を拡大するための活動を展開している。初期投資に充てる資機材があれば、農民が継時的に自立できる見込みは高い。しかしながら、この初期投資を十分に行うための資金を用意することが、農民にとっては困難となっている。プロジェクト期間中は、苗木や家畜などを配付することで初期投資を支援してきたが、プロジェクト終了後に各市でこうした支援を行う十分な予算が確保できるかは明確でない。

技術面での持続性はある程度見込める。プロジェクト期間中に、C/Pは計画・実施・モニタリングの能力を向上させ、プロジェクト終了後も引き続き業務に取り組む意思を有している。地域住民は、プロジェクトで実施したワークショップ・研修に参加し、プロジェクトによるモニタリング/スーパービジョンを受けることで、活動に必要な知識や技術を習

得しており、また、今後も活動を継続していく意思を有している。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・プロジェクトの活動計画のうち、農業に関する活動は植付けや収穫のサイクルを考慮して計画された。農牧業の生産高の増加につながっていると考えられる。これにより農業・農村開発事業の実施が促進されていると思料される。
- ・プロジェクトで実施する農業・農村開発事業の計画が適切に選択された。活動はすべて、地域のニーズに適しており、受益者にとって魅力あるもので、多くの場合、利益につながった。
- ・受益者に負担事項を課したことで、コストと責任が分担され、地域住民のオーナーシップが醸成された。例えば、ラズベリー栽培のケースでは、苗の供与を受ける者は、その前に自分で土地を用意し耕作をしておかなければならないなどである。
- ・住民が共同して参加できる事業を計画・実施した。事業実施のために、地域住民が共同で作業を行うことで、住民間のコミュニケーションや信頼関係が促進された。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・受益者選定やモニタリングのしくみなど、前プロジェクトでの経験を本プロジェクトの実施に適切に活用することができた。これにより、対象地域の住民の間での信頼醸成に加え、住民と市役所の間での信頼も向上していると考えられる。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし

(2) 実施プロセスに関すること

- ・納入業者の一部とトラブルがあり、農業・農村活動に必要な資機材を予定どおりに納入できなかった。このため、急ぎよ他の業者を探して対応した。
- ・小規模インフラ建設活動で、コミュニティのインフラ建設のために土地を明け渡さない住民がいたため、建設地を変更した。
- ・こうした要因はあったが、プロジェクトの進捗プロセス全体に大きな支障はなかった。

3-5 結論

プロジェクトは、おおむね順調に進捗した。

プロジェクトは対象地域のニーズと政策、日本の BiH に対する ODA 政策と合致しており、妥当性はおおむね高い。プロジェクト目標が達成されつつあり、有効性は比較的高い。投入は適切に行われ成果もある程度達成されつつあることから、効率性はおおむね高い。対象地域では、C/P 機関、MZ、NGO/農民組織/農業組合等関係者の中で信頼醸成が促進されていると判断され、インパクトは大きい。持続性は、財政面と組織面で若干の懸念材料があるため、中程度である。

期待された効果が達成されつつあることから、プロジェクトは予定どおり終了する。

3-6 提言

- (1) 3市は、プロジェクトで導入した事業を継続して実施すること。そのために、プロジェクト期間中に予算と人員を確保しておくことが必要である。
- (2) 3市は、支援を必要とする地域住民に必要なサポートを行うこと。そのためには、初期投資となる資機材を供与するための予算を確保することが不可欠である。適切な技術的助言を行うことも必要である。
- (3) C/P 機関は、現状調査に基づき、今後に向けた包括的な地域開発のための戦略的で実施可能なアクションプランを策定すること。
- (4) 3市は、関係機関と協力のうえ、農業祭のような活動を引き続き開催していくこと。こうした活動は、地域住民の交流、意識の向上、地域の伝統の継承に資するものと考えられる。

3-7 教訓

- (1) 本プロジェクトの対象地域では、政府のガバナンスが脆弱で、それが地域開発や住民の信頼醸成の推進にも影響している。前プロジェクトで住民に対する直接的支援を中心に行い、本プロジェクトでは、市役所の能力強化に重点を置いた。紛争影響国で相手国政府のガバナンスが脆弱な場合は、まず政府のかかわりは最小限にとどめ住民へ直接支援する事業を実施することで、住民の生活環境を安定させ、その次に政府主導の事業実施環境を整えていくことが効果的な場合もある。
- (2) 本プロジェクトでは、農業・農村開発事業の受益者は、資機材を供与される際に何らかの義務を負うこととした。コミュニティ支援の活動では、受益者に一定の負担事項を負わせることにより、オーナーシップが醸成され、活動を適切に実施し、裨益効果を出すことができる場合がある。
- (3) 本プロジェクトでは、選定した農業・農村開発事業を実施するなかで地域住民の信頼を高めていった。地域住民や民族間の信頼醸成には、住民や民族グループが協働して参加できる「場」や「機会」を提供していくことが効果的で、具体的な活動を実践していくことで信頼醸成が促進される。活動が地域住民の経済基盤の強化につながるものであれば、住民は積極的に参加する。
- (4) 本プロジェクトでは、対象地域の農業・農村開発事業に関する支援として、個別の事業者へ資機材を配付し支援した。住民は配付された資機材を活用して積極的に事業に取り組み、収入を得ることができた。このように、個別住民への投入の伴う活動が、住民の事業への参加を促進し、好ましい結果を産む場合もある。その際、収入の増加につながるよう、

地域の経済の核となるような分野の事業を適切に選択して支援を行うことが重要である。

- (5) 対象住民の間で信頼醸成を図るには、受益者選定は、公平で透明性とアカウンタビリティをもつものでなければならない。これは、紛争の影響を受けた国や地域では特に重要である。本プロジェクトでは、受益者選定のプロセスを確立することで、信頼醸成の促進が可能になった。C/P 機関が受益者選定を継続して適切に行うため、プロジェクト期間中に受益者選定の手続きを確立したうえ、その手続きを C/P 機関だけで実施できるよう、C/P の能力強化を図ることが必要である。

3-8 総括

スレブレニツァとその周辺 2 市の安定化をめざす本プロジェクトは期待された成果を上げ、予定どおりに終了させることが妥当であると思料される。いずれの市でも、農業を中心とした生産活動が軌道に乗り、受益者の経済状況が改善。人心は安定し、平時には他民族に対する排他的な言動が影を潜めた。若年層を含む勤労世代の農村回帰もみられるようになったという。一方で、依然としてハイ・ポリティックスの影響を受けやすいスレブレニツァ市では、開発援助による平和構築の限界が改めて浮き彫りになった。「2 年に一度の選挙が和解の最大の阻害要因」（スレブレニツァ副市長）という同市では今なお、国及びエンティティ・レベルの政治対立がそのまま市議会に持ち込まれ、指導層の分断が解消できない状況が続いている。政治家の意向がそのまま行政に反映する市役所への住民の不信感も強い。プロジェクトを通じてコミュニティに再構築された住民間の信頼関係が今後、選挙結果に反映し、民族分断政治を乗り越えていくことができるか否か。コミュニティの紐帯の強靱性が、プロジェクト終了後に問われ続けることになる。

紛争影響国において、コミュニティ安定の要諦は①行政の統治能力（健全な行政サービス提供を通じて得られる統治の正統性と運用能力）②住民の帰属・連帯意識（コミュニティの一体感、排他的プロパガンダに抗する強靱性）③自立できる生計手段の確保である。本プロジェクトは、住民の経済活動を行政主導で促進することを通じ、これらすべての課題にアドレスするものであった。

ブラトゥナツ市では、両民族の計約 3,000 世帯がラズベリー栽培に従事するようになり、2016 年は市全体で約 4,000t を産出。計 1,500 万 KMC の収益をもたらし、「ボスニアの中でもラズベリー栽培のリーダー的存在となった」（市長）という。世銀が RS の 3 市のみで実施する灌漑プロジェクトの対象にも選定され、エンティティ政府と分担してローンを返済していくと言い、財政基盤も安定している。同市では経済局が全農業従事者のデータベースを作成してニーズを特定し、プロジェクト専門家と協力して裨益者を選定。民族を越えたクライテリア（選定基準）の遵守により、民族間関係は安定している。

紛争中、多くのボシュニャック被害者を出し、現在の住民すべてが帰還民である「ジェパ」を抱えるロガティツァ市でも民族間の融和が進んだ。同地域プロジェクトで、養蜂業の支援を受けた受益者は「セルビア系の講師から指導を受けで事業を始めた。既に民族間のわだかまりはない」という。同ボシュニャック地域の子どもたちはキリル文字を使ったセルビア語の教科書を使用し、セルビアのカリキュラムで教育を受けているといい、民族教育へのこだわりは存在しない。

これら2市では、受益者選定の公平性・公正性により市役所が信頼を獲得、民族間の関係も改善したうえ、受益者の住民が自立可能な収入を得るようになり、共同体が安定を回復した。

スレブレニツァ市でも、農業生産が向上し住民間の信頼醸成が進んだ。前プロジェクト開始前には年間50tだったラズベリーの収穫高が約16倍の800tまで増加。ジャガイモ加工工場や蜂蜜加工工場も完成し、経済活動が著しく改善された。これらの活動に参加する住民に民族による差別は存在しない。ラズベリー栽培農家には民族の分け隔てなく、両民族の業者が果実の買い取りに回っている。「どの業者に売るかは価格次第。民族には無関係」（ブレジャニ地区住民）という。

その一方で、スレブレニツァ市では市役所に対する住民の不信感は依然として根強い。「議会が承認した予算を、市行政が執行する段階で不正が発生する」（スーチェスカ地区住民）、「プロジェクトは市を排除して行うべき」（サセ地区住民）等の声も聞かれた。前プロジェクトのC/Pによると、市予算はセルビア系とボシュニアックの間で二分され、それぞれの指導者が恣意的に住民に配分する状況が継続している。人口比には無関係の政治決着であり、現場のニーズは斟酌されない。現在、セルビア系勢力は独立社会民主同盟（SNSD）、ボシュニアック勢力は民主行動党（SDA）の影響下にあり、市行政は民族別に分断されて各民族政党の「統治」を甘受している。市長が市幹部を任命する際も、これら政党が政治的にポストを配分する。両党は相互不可侵の関係にあり、各党の自民族地域支配を容認し合っている。こうした環境下、住民が政治勢力の統治の正統性を受け入れるのは困難であり、ドナーによる開発援助が短・中期的に対応し得る領域を超えているともいえよう。

結論として、今回のプロジェクトはプラトゥナツ市、ロガティツァ市では上記した安定のための3つの要素すべてを満たすに至り、スレブレニツァ市でも現在の政治環境では開発援助で対応が困難な「行政の統治能力」以外の課題をクリアした。プロジェクトとしての成果は十分であり、成功裡に事業を遂行したと評価できるだろう。

最後に、今回の調査中、スレブレニツァ市の将来に期待を抱かせる動きがみられたことを付言しておく。奇しくも両民族の受益者から異口同音に同じ内容の決意表明がなされたのである。「今後、中道勢力として政治活動に従事し、民族主義政党主導の政治環境を打破していく」という。プロジェクトがコミュニティに蒔いた「安定」の種が、次第に根づいて開発の枠組みを超え、いずれは政治をも動かす健全な市民社会を形成することに寄与するかもしれない。長期的視点に立って、近い将来、本プロジェクトに対する再度の評価を仰ぎたい。

Summary of Terminal Evaluation

I. Outline of the Project	
Country : Bosnia and Herzegovina	Project Title : The Project for Confidence-Building through Rural Development
Sector : Peacebuilding	Cooperation Scheme : Technical Cooperation Project
Department in Charge : Office for Peacebuilding and Reconstruction, Infrastructure and Peacebuilding Department	Cooperation Amount (At the time of evaluation) : Approximately 310 million yen (1US\$=¥103.2 as of 1 September, 2016)
Cooperation Duration : January 2014 – March 2017	Counterpart Organizations : Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management (MOA), Republic of Srpska (RS) Bratunac Municipality, Rogatica Municipality, Srebrenica Municipality
	Relevant Japanese Organizations : N/A
	Relevant Assurances : Project for Confidence Building in Srebrenica on Agricultural and Rural Enterprise Development
1-1 Background and Outline of the Project	
<p>It is more than 20 years since comprehensive peace agreement was made in Bosnia and Herzegovina (BiH). Under the central government of BiH, there are two entities (administrative entity with high autonomy); one is the Republic of Bosnia and Herzegovina, consisting of Muslims (Bosniaks) and Serbs, the other, the Republic of Srpska (RS), with the majority population of Serbs as well as some population of Bosniaks. The progress of reconciliation between two ethnicities, Bosniaks and Serbs, is still slow.</p> <p>To facilitate the reconciliation process through agricultural and rural development, JICA supported implementation of the Project for Confidence Building in Srebrenica on Agricultural and Rural Enterprise Development (September 2008 – November 2013). In the Project, a variety of development projects were implemented, including herb production/processing, vegetable cultivation, beekeeping, and operation of playroom for children, and cooperation was implemented for reconstruction of local communities and for financial independence of local people. As a result, it was confirmed that income of beneficiaries was improved and that transparency was improved through information disclosure and exchange, which is necessary for stabilization of multi-ethnic society.</p> <p>The Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management (MOA) of RS highly appreciated the results of the Project and sent a request for further cooperation. With this backdrop, JICA has been implementing the Project for Confidence-Building through Rural Development since January 2014. The target area is expanded to three Municipalities, namely, Bratunac, Rogatica, and Srebrenica. Activities similar to those of the previous project are implemented, with a focus more on the involvement of</p>	

Municipalities to enhance sustainability, and thus, to promote reconciliation among local population.

1-2 Contents of Cooperation

The Project is implemented in three target Municipalities (Bratunac, Rogatica, Srebrenica) to strengthen implementing system of Municipalities for inclusive and fair community development through agricultural and rural development, capacity development of Municipalities, and information sharing with RS MOA, and thus aims to contribute to confidence-building among the target population.

(1) Overall Goal: Confidence-building among the target population is promoted through strengthening the system of agricultural and rural development with inclusiveness and fairness.

(2) Project Purpose: Implementation system for inclusive and fair community development is strengthened in each target area.

(3) Outputs :

Output 1: Agricultural and rural development activities for improved livelihoods are implemented based on community needs.

Output 2: Institutional capacities of the target municipalities in supporting agricultural and rural development are strengthened.

Output 3: Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA.

(4) Inputs

Japanese side: Total cost approximately 310 million yen

Equipment: 9 million yen;

Long-term Expert: 2; Short-term Expert: 1

Trainees received: 14

Local Cost: 211 million yen (as of 31 July, 2016. Equivalent to 3,614,289.16KM:1KM=¥58.4)

BiH side

Counterpart: 18 (cumulative total);

Office and facilities: Office space for the Project, land for nursery

Cost for project: Cost for training and workshop, cost for construction of small-scale infrastructure, cost for rehabilitation of honey processing plant, other necessary expenditures for project activities

II. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	Japanese side
	1. Dr. Keiichi HASHIMOTO Senior Advisor (Peace-building), JICA
	2. Ms. Maki YAMAGISHI Special Advisor, Office for Peacebuilding and Reconstruction, Infrastructure and Peacebuilding Department, JICA
	3. Mr. Jun HIRASHIMA Project Formulation Advisor, Balkan Office, JICA
	4. Ms. Erika TANAKA Senior Researcher, Global Link Management, Inc.
BiH side	
1. Mr. Vladislav TRIFKOVIC Head of Department for Agriculture Policy and	

	<p>International Cooperation, Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management of Republic of Srpska</p> <p>2. Mr. Vladan MILOVANOVIC Director of Department of economy and development, Srebrenica Municipality</p> <p>3. Mr. Radenko RADOVIC Director of Department of economic and social affairs, Bratunac Municipality;</p> <p>4. Mr. Darko NOVAKOVIC Director of Department of economic and social affairs, Rogatica Municipality.</p>	
Period of Evaluation	27 August 2016 – 18 September 2016	Type of Evaluation : Terminal Evaluation
III. Evaluation		
3-1 Project Performance		
(1) Project Purpose		
Project Purpose: Implementation system for inclusive and fair community development is strengthened in each target area.		
(Indicator)		
1) The number of cases and types of agricultural and rural development activities initiated by the municipalities are increased by the end of the Project period.		
2) Satisfaction of community people in the target areas increased with public services (agricultural support, information service, others) relating to community development.		
3) The income of the targeted population is increased.		
(Achievement)		
The Project Purpose is being achieved. Out of the three Indicators, Indicator 1 and 2 are expected to be achieved. As to Indicator 3, the increase of income of beneficiaries is not clearly observed at the time of the terminal evaluation, but there is a prospect that the Indicator will be achieved.		
1) There are some examples of activities initiated by Municipalities. In Bratunac, the Municipality established a nursery organization to grow and distribute raspberry seedlings. In this activity, the Municipality provided the land for nursery and JICA provided initial seedlings. UNDP, as a part of donor collaboration, provided fences for the nursery area. Through the nursery organization, seedling will be distributed to those who start raspberry growing. Municipality is planning to get the nursery organization financially self-sufficient in a few years. Following the establishment of nursery by Bratunac, Srebrenica Municipality is also planning to establish a similar nursery organization. Rogatica is planning to establish a sheep breeding center on their own.		
2) According to the interviews during the terminal evaluation, most of the beneficiaries are satisfied with the activities supported by the Project. Some of them commented that the communication with Municipal office has been improved during the project activities. One C/P personnel commented that the Municipality has more request for advice from the community people. The Municipality also played an important role in solving the dispute among community people during		

the Project activities. These facts show that the satisfaction and trust toward the public service of the Municipalities is improving among community people.

- 3) According to the endline survey conducted by the Project, in Rogatica, the ratio of the number of household that has income more than 3,000KM clearly increased from 52% to 85% during the period from 2014 to 2016. In Srebrenica, the ratio of number of household that has income of 1,000KM to 6,000KM increased slightly from 45% in 2013 to 51% in 2016 but the ratio of household with more than 6,000KM decreased from 53% in 2013 to 43% in 2016. In Srebrenica, JICA's support has been implemented since 2006, therefore, in 2013, when the Project was started, increase of income had been already realized to some extent. This may be the reason why the increase of income in Srebrenica is not clearly observed. Most of the beneficiaries interviewed gained income increase through the activities introduced by the Project.

(2) Output

Output 1: Agricultural and rural development activities for improved livelihoods are implemented based on community needs.

(Indicator)

- 1-1) The number of activities implemented by the municipalities and related organizations such as MZs and NGOs (MZ: local community under municipality)

(Achievement)

The target of the Indicator is not clearly defined in PDM. As various agricultural and rural development activities are implemented, Output 1 is expected to be achieved.

- 1-1) In three target Municipalities, a variety of activities for agricultural and rural development were implemented in cooperation among C/P organizations, Japanese experts, and related NGOs/associations/cooperatives. Examples of activities are; raspberry cultivation, fruit tree cultivation, vegetable growing, cattle feeding, grass restoration, and construction of small-scale infrastructure. Approximately 2,500 people were benefitted through agricultural and rural development activities in total. In addition, there are more beneficiaries of activities for community in common, such as grass restoration and agricultural machines. In selection of beneficiaries, the Project took careful considerations to the ratio of ethnicities, Serbs and Bosniaks.

Output 2: Institutional capacities of the target municipalities in supporting agricultural and rural development are strengthened.

(Indicator)

- 2-1) The number of applications for "subsidies" from the target areas to RS MOA is increased.
2-2) The number of "project proposals" by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased.
2-3) The number of approved proposals from the target areas is increased.
2-4) Information of agriculture and rural development is collected and recorded by each Municipality.
2-5) Information dissemination activities are conducted by Municipalities at least once a year.

(Achievement)

The institutional capacities of the target municipalities are improving and it is estimated that Output 2 is being achieved.

2-1) The number of applications for “subsidies” from the target areas is increasing. Farmers engaged in the communities are eligible to apply for subsidies by RS MOA if they have a certain level of yields. This subsidy is applied to those growing raspberry and feeding cows. It is reported that, thanks to the Project activities, the yields of agricultural products have been increased, therefore, it is considered that the number of application for subsidies is increasing, according to the interviews. The Municipalities are providing farmers with necessary support to facilitate the process of application for subsidies.

2-2) The number of “project proposals” by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased. Local residents submit “project proposals” to the Municipalities when necessary. For example, Rogatica Municipality calls for public proposals on capital expenditures and the proposals can be incorporated into the Municipality budget plan, if approved. This shows that the Municipalities have policy to implement activities consistent with request by local people and system to implement them.

2-3) The number of approved proposals from the target areas is increased. During the interview, it was found out that the proposal presented by one non-profit organization, Tourist Organization, was approved and incorporated into the budget plan of 2016 in Rogatica.

2-4) Each Municipality is collecting information of agriculture and rural development. Also, in Bratunac and Rogatica, monitoring results of activities are recorded and stored in database. Srebrenica does not have such database at the time of the terminal evaluation.

2-5) Each Municipality regularly conducts information dissemination such as tender and beneficiary selection. In addition, the Municipalities provide technical advice to community people and associations. In Bratunac, the Municipality gives technical support in collaboration with a raspberry expert implementing field activities.

Output 3: Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA

(Indicator)

3-1) Reporting and sharing information to RS MOA at regular basis.

(Achievement)

Output 3 is being achieved.

3-1) Each Municipality exchanges information with RS MOA and information is shared between RS MOA and each Municipality. In each Municipality, C/P personnel plays a key role in sharing information with RS MOA.

3-2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

Relevance of the Project is high in general.

The needs of the Project is high. There are considerable number of conflict-affected people in the target area. The majority of those still have economic difficulties. Given the past conflict between the Serbs and the Bosniaks, confidence-building is required to strengthen the capacity of communities. In addition, to implement sustainable rural development, capacity development of municipalities is necessary. In target Municipalities, it is difficult to create employment as opportunities are still limited, and the majority of population depends on agriculture.

The Project is consistent with the policy of BiH government and target Municipalities. In the strategic plan for the development of agriculture and rural areas of the Republic of Srpska (2015-2020), in “Vision”, agriculture together with the food processing industry is described as one of the leading economic sectors. In Vision, it is also stated that in rural areas all the social classes should be able to perceive their living environment on equal footing. This may imply the needs for confidence-building among ethnicities. In the development plan of target Municipalities, agriculture is the priority area. The Project selected the activities related to agricultural products of strategic priority of each Municipality.

The Project is consistent with Japanese policy of Official Development Assistance (ODA) toward BiH. In the country assistance policy of BiH, the main objective is support to stabilization of society and development of economy. Under this main objective, there are two priority areas, one is continuous peacebuilding and ethnic reconciliation, and the other, sustainable economic development with consideration to environment. The Project is included in the programs under the priority of continuous peacebuilding and ethnic reconciliation.

The Project design is appropriate in general. Some Indicators are not appropriately defined due to lack of information in the planning stage.

(2) Effectiveness

Effectiveness is relatively high.

Indicators of output 1, 2, and 3 are being achieved. Indicator 1 and 2 of the Project Purpose are being achieved, and in terms of indicator 3 of the Project Purpose, the increase of income of the targeted population, it cannot clearly be observed at the point of the final evaluation of the project, yet according to the interviews, many interviewees answered that the income increased through the project. Thus indicator 3 is expected to be achieved. From the reasons above, it can be said that the Project Purpose is being achieved.

Logic from Output to Project Purpose is appropriate to some extent. Both Output 1 (agricultural and rural development activities) and Output 2 (institutional capacity of target Municipalities) are necessary components to achieve the Project Purpose, i.e., implementation system for inclusive and fair community development. Output 3, information sharing with RS MOA may be theoretically an important component to strengthen implementation system of community development. The involvement of RS MOA in the Project is practically limited to technical advice, and the significance of information sharing for the achievement of Project Purpose in the target municipalities is not clearly identified.

In addition to the Outputs described in PDM, there are some outputs produced by the project activities. First, as a result of enhanced communications among three Municipalities, new activities have been

launched. For instance, Srebrenica is planning to establish a raspberry nursery just like the one already done in the operation in Bratunac. Another example is that Srebrenica purchases sheep from Rogatica. In addition, one old school standing next to the project office in Skelani, Srebrenica, is renovated as a food processing plant by the budget of Srebrenica Municipality. Moreover, during the period of the terminal evaluation, Agricultural Fair took place at the livestock market constructed by Japanese Grant Assistance for Grassroots Human Security Project.

(3) Efficiency

Necessary inputs are implemented to conduct planned activities, and activities effectively produced outputs. Thus, efficiency is high in general. It is also noted that outputs are being achieved.

Logic between inputs and outputs is appropriate. Two Important Assumptions for the achievement of Output are defined. One is natural disaster, and the other is damage to crops by diseases and harmful insects. The achievement of Outputs was somewhat affected by the Important Assumptions. However, the influence was not so significant as to diminish the outputs of the Project as a whole.

(4) Impact

Impact is high.

Overall Goal is likely to be achieved. Confidence-building among ethnicities is progressed in target communities. Through the project activities, people are willing to work together, share equipment, and socialize with each other. In addition to building the confidence among local population, the confidence between municipality and local people is also increasing. In order to promote confidence-building further, it is necessary to implement activities where people can work together continuously, with the initiative of the target Municipalities. One of the potentially inhibiting factors for the achievement of Overall Goal is the change of social and economic situations as well as social securities.

The logic between Project Purpose and Overall Goal is appropriate. As described above, it is effective to implement appropriate agricultural rural development activities to build the confidence. To implement activities continuously, it is necessary to strengthen the implementation system of target Municipalities.

Various additional impacts are observed. First, after the introduction of agricultural and rural development activities by the Project, the number of people to migrate to other municipalities to seek employment is decreasing because their income is increased, according to some interviews. Another impact is dissemination of information of the Project to areas other than target Municipalities. If the experiences of confidence-building in target communities are disseminated nation-wide, it may further stimulate awareness toward reconciliation.

(5) Sustainability

Sustainability is medium.

Sustainability in policy aspect is high. The government policy to place importance on agricultural and rural development will be maintained both at RS MOA and municipality levels.

Organizational sustainability is expected to some extent. The management capacity of C/P organizations

is gradually improving. Through project activities, working structure such as beneficiary selection and monitoring was introduced and quite well established at target Municipalities. If C/P organizations continuously implement their duties in accordance with the working structure established during the Project, organizational sustainability is expected to sustain even and without support by Japanese experts. After the election planned to be held in the beginning of October, there is a possibility of organizational change in C/P organizations.

Financial sustainability is not very high. The raspberry nursery operated by Bratunac Municipality may be a good example to solve this problem in that the Municipality tries to get the nursery financially self-sufficient in the near future. Through the support of the Project, the beneficiaries have acquired initial resources and they are willing to work on the assets to enhance their productive activities. Once they secure the initial assets, there is a good chance for them to become financially self-sufficient. However, it is always difficult for farmers to get funds for sufficient initial investment. During the Project, JICA provided initial investment such as seedlings and livestock. After the project completion, it is not certain if the Municipalities have sufficient budget to provide such initial investment.

Technical sustainability is expected to some extent. During the project period, C/P personnel enhanced capacity of planning, implementation, and monitoring and they are willing to continue their work after the project period. Community people acquired knowledge and techniques to implement activities through workshops, training, and monitoring/supervision provided by the Project and they are willing to continue their activities.

3-3 Factors Promoting Better Sustainability and Impact

(1) Factors concerning the Planning

- Project implementation plan was carefully planned. For example, the implementation of agricultural activities was planned in accordance with sowing and harvesting cycle, and it led to increased output. This promotes the implementation of agricultural and rural development activities.
- Agricultural and rural development activities were carefully selected. Activities are consistent with the local needs, attractive to beneficiaries, and profitable in most cases.
- Beneficiaries are given obligations to obtain materials supplied by JICA. By doing this, sharing cost and obligation nurtured the sense of ownership among community people. For example, beneficiaries for raspberry growing should till their field before obtaining seedling.
- Activities are planned and implemented so that community people can participate in collaboration. Through the collaborative work, communication and confidence are promoted among community people.

(2) Factors Concerning the Implementation Process

- Experiences of the previous project were appropriately incorporated in the project implementation such as beneficiary selection and monitoring. This built up the confidence among local people and the trust between the community and the Municipalities.

3-4 Factors Inhibiting Better Sustainability and Impact

(1) Factors Concerning the Planning

Nothing special.

(2) Factors Concerning the Implementation Process

- There was a delay in procurement process because the supplier did not provide materials as planned. The Project had to find another supplier.
- In construction of small-scale infrastructure, some residents did not want to concede their land for the road construction in the community and the Project had to change the construction site.
- Despite these factors, overall the process of the project went well.

3-5 Conclusion

The Project has been implemented smoothly in general.

The Project is consistent with the needs and policy of the target area as well as Japanese ODA policy toward BiH. Therefore, relevance is general high. As the Project Purpose is being achieved, and effectiveness is relatively high. Inputs are implemented appropriately and the expected Outputs are achieved to some extent. Therefore it can be said that efficiency is high in general. It is considered that confidence-building is progressing in target communities and relevant stakeholders such as C/P organizations, MZ, and NGOs/associations/cooperative, and impact is high. Sustainability is medium because there are some concerns in financial and organizational aspects.

It is confirmed that the expected benefits are being achieved, consequently, the Project will be terminated as planned.

3-6 Recommendations

- (1) It is required that the three Municipalities continuously implement the activities introduced by the Project. To realize this, it is necessary to allocate necessary budget and personnel based on the plan prepared during the project period.
- (2) It is recommended that three Municipalities provide support to community people who need assistance. This should be implemented by securing budget to provide them with materials as initial investments. Appropriate technical advice is also necessary.
- (3) It is recommended that C/P organizations develop a feasible strategic action plan for the comprehensive local development based on the field survey.
- (4) It is recommended that three Municipalities, in collaboration with relevant organizations, continuously organize activities like Agricultural Fair, which will be beneficial to promotion of interaction of local population, improvement of awareness, and continuation of traditional activities.

3-7 Lessons Learned

- (1) In the Project, beneficiaries of agricultural and rural development activities are supposed to execute some obligations before obtaining materials. In the activities to support community, it is effective to give beneficiaries a certain obligations in order to enhance their commitment and to successfully implement activities.
- (2) In the Project, confidence among community people has been improved while they implement activities supported by the Project. For confidence-building among community people and/or between ethnicities, it is effective to offer “venue” or “opportunity” where community people and ethnic groups can participate in collaboration. Confidence-building will be promoted during the implementation of specific activities. If the activities are beneficial to strengthen economic foundations, people will actively participate.
- (3) To build the confidence among target population, it is required to secure fairness, transparency, and accountability in beneficiary selection. This is especially important in conflict-affected countries and regions. In the Project establishing the procedure for beneficiary selection led to confidence-building. In order for the C/P organizations to continuously implement appropriate beneficiary selection, it is necessary to establish the selection procedure during the Project period and to strengthen the capacity of C/P personnel to implement the procedure.

第1章 終了時評価の目的と手順

1-1 背景と目的

ボスニア・ヘルツェゴビナ（Bosnia and Herzegovina : BiH）は、包括的和平合意後 20 年以上が経過したが、中央政府のもとに、ムスリム（ボシュニャック）及びクロアチア系住民が中心の「ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦」とセルビア系住民が多数でボシュニャックも居住する「スルプスカ共和国（Republic of Srpska : RS）」の 2 つのエンティティ（高度な自治権をもつ行政主体）が存在し、国内の民族融和はなかなか進んでいない。

独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency : JICA）では、農業・農村開発による民族和解を目的として「スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト」（2008 年 9 月～2013 年 11 月）を実施した。同プロジェクトでは、ハーブ生産・加工、野菜栽培、養蜂、児童保育施設運営などの事業を展開し、コミュニティ社会の再構築と住民の経済的自立のための協力を実施した。その結果、裨益住民の収入の向上、多民族社会の安定化に必要な情報公開・交換による透明性の向上等が確認された。

これを高く評価した RS の農林業・水管理省（Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management : MOA）の要請を受け、2014 年 1 月より JICA は、対象地域をスレブレニツァ市と隣接するブラトナツ市、ロガティツァ市の 3 市へ広げ、前プロジェクトと同様の事業を実施するとともに、裨益効果の持続性を図る観点から市役所の関与を高め、住民融和が促進されることを目的として、「地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」と記す）を実施している。2017 年 3 月のプロジェクト終了を控え、プロジェクトの実績と実施プロセスを評価、確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び類似事業実施にあたっての教訓を導くことを目的として、終了時評価を実施した。

終了時評価は、日本側終了時評価調査団メンバーと BiH 側評価委員の合同評価チームで実施した。

終了時評価の目的は以下のとおりである。

- (1) プロジェクトの実績と実施プロセスを検証する。
- (2) プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix : PDM）と実施計画（Plan of Operations : PO）に基づき、プロジェクトの進捗と指標の達成度を確認し、評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）に基づき評価を行い、結果を合同評価報告書に取りまとめる。
- (3) プロジェクトに対する提言と今後の類似案件の参考となる教訓を取りまとめる。

1-2 評価の手順

評価項目をまとめた評価グリッドに基づき、BiH 側のカウンターパート（Counterpart : C/P）や日本人専門家、プロジェクト関連機関へのインタビュー及び文献のレビューを行い、合同評価チーム及び関連機関で協議を行った。合同評価チームで結果を分析し、プロジェクトの評価を取りまとめた。終了時評価のスケジュールは、付属資料 4. 協議議事録（M/M）中の合同評価報告書の Annex 3 を参照されたい。

1-3 評価の対象

評価は、プロジェクトの実績、実施プロセス、評価5項目の観点から行う。

(1) プロジェクトの実績

PDMに基づき、プロジェクトのこれまでの実績を、投入、成果、プロジェクト目標、上位目標の指標達成度から評価する。

(2) 実施プロセス

実施プロセスを、プロジェクト運営管理体制、関係者のコミュニケーション、ターゲットグループの参加度合い等の観点から評価する。また、プロジェクト進捗の貢献要因と阻害要因を分析する。

(3) 評価5項目による評価

以下の評価5項目によりプロジェクトの評価を行う。

項目	定義
妥当性	プロジェクト目標・上位目標の妥当性、相手国政府の政策・日本政府の援助方針との整合性、受益者のニーズとの整合性及びプロジェクトデザインの妥当性等をレビューする。
有効性	プロジェクト目標の達成度やプロジェクト目標と成果の間のロジックによって評価する。
効率性	プロジェクトの期間、投入の質・量等を基にした成果と投入の間の関係に焦点を当て、分析する。
インパクト	プロジェクトによって創出された直接または間接、正または負、予期したまたは予期していなかった影響を基に評価する。
持続性	プロジェクトの終了後にどのようにプロジェクトの達成度が維持されるのかについて、政策・制度、組織、財政、技術の側面から評価する。

1-4 合同評価チームメンバー

(1) ボスニア・ヘルツェゴビナ側

氏名	所属
Mr. Vladislav TRIFKOVIC	スルプスカ共和国 農林業・水管理省 農業政策・国際協力部長
Mr. Vladan MILOVANOVIC	スレブレニツァ市 経済開発部長
Mr. Radenko RADOVIC	ブラトナツ市 経済社会部長
Mr. Darko NOVAKOVIC	ロガティツァ市 経済社会部長

(2) 日本側

担当分野	氏名	所属
総括/平和構築	橋本 敬市	JICA 国際協力専門員 (平和構築)
評価企画	山岸 真希	JICA 社会基盤・平和構築部 平和構築・復興支援室 特別嘱託
評価企画	平島 淳	JICA バルカン事務所 企画調査員
評価分析	田中 恵理香	株式会社グローバルリンクマネジメント シニア研究員

第2章 プロジェクトの概要

2-1 プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) と実施計画 (PO) は、それぞれ、協議議事録 (付属資料4) の合同評価報告書の Annex 1 と Annex 2 を参照されたい。PDM は、2013 年 2 月に実施された詳細計画調査で計画され、2013 年 12 月署名の討議議事録 (Record of Discussions: R/D) で合意されたものである。PDM の上位目標、プロジェクト目標、成果は以下のとおりである。

(1) 上位目標

包摂的で公平な農業・農村開発事業の実施体制の強化を通じ、住民の信頼醸成が促進される。

(2) プロジェクト目標

対象地域において、包摂的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制が強化される。

(3) 成果

1. 現場のニーズを踏まえた生計向上に係る農業・農村開発事業が実施される。
2. 対象地域における市役所の農業・農村開発支援能力機能が強化される。
3. 市役所機能強化及び地域住民生計向上の取り組みが、RS の MOA に対し共有される。

2-2 プロジェクトの期間・ターゲットグループ・対象地域

(1) プロジェクト期間

2014 年 1 月～2017 年 3 月 (3 年 2 カ月)

(2) ターゲットグループ

ターゲットグループ：ブラトナッツ市役所、ロガティツァ市役所、スレブレニツァ市役所
最終受益者：対象地域の帰還民、母子家庭、戦争傷病者のいる家族を主とする対象地域の住民、貧困農民層、小農家

(3) 対象地域

ブラトナッツ市、ロガティツァ市、スレブレニツァ市

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入

プロジェクト開始以降、終了時評価時点までに、BiH 側・日本側の投入は、以下のとおり実施された。

3-1-1 BiH 側

(1) C/P の配置

RS の MOA と対象 3 市で延べ 18 名の C/P が配置された。詳細は付属資料 4. 合同評価報告書の Annex 4 を参照されたい。

(2) 施設・設備

スレブレニツァ市役所のスケラニ地区支所内にプロジェクト事務所が提供された。

(3) ローカルコスト

プロジェクト事務所の光熱費とワークショップ等に必要な経費が BiH 側から拠出された。そのほか、農業・農村開発事業の実施に必要な資機材や経費が C/P 機関から拠出された。詳細は付属資料 4. 合同評価報告書の Annex 8 を参照。

3-1-2 日本側

(1) 専門家派遣

長期専門家 2 名が派遣された。プロジェクト開始当初は、チーフアドバイザーが短期ベースで派遣された。長期専門家に加え、地域開発の短期専門家 1 名が派遣された。詳細は付属資料 4. 合同評価報告書の Annex 5 を参照。

(2) 本邦研修

C/P 本邦研修は、2014 年と 2015 年に実施された。2014 年には 6 名の C/P を派遣した。2015 年の本邦研修には、7 名の C/P に加え、日本でのコーディネーターとしてプロジェクトのローカルスタッフ 1 名を派遣した。2015 年の本邦研修には、タイでの研修も含まれた。詳細は付属資料 4. 合同評価報告書の Annex 6 を参照。

(3) 機材供与

農業・農村開発事業に必要な資機材、車両等、プロジェクト活動に必要な機材が供与された。総額は、約 917 万円相当 (156,975KM : 1KM=¥58.4)。詳細は付属資料 4. 合同評価報告書の Annex 7 を参照。

(4) ローカルコスト支援

計画に基づき、研修・ワークショップ費用、小規模インフラ建設費用、蜂蜜工場修復費用等、プロジェクト実施に必要な費用を負担した。総額は、約 2 億 1,100 万円相当 (2016 年 7 月 31 日時点、3.614.289.16KM)。詳細は付属資料 4. 合同評価報告書の Annex 9 を参照。

3-2 活動

活動は、PDM と PO に基づき実施された。予定していた活動はほぼ実施できている。

3-3 成果

成果の達成状況は以下のとおりである。

成果 1：現場のニーズを踏まえた生計向上に係る農業・農村開発事業が実施される。

指 標
1-1. 市役所、MZ（市の下に位置づけられる行政区：住民自治組織）、住民グループ、現地 NGO 等、関連組織による活動の実施状況。

PDM では指標の目標値が明示されていないものの、以下のとおり活動が実施されていることから、成果 1 は達成される見込みである。

1-1. 市役所、MZ、住民グループ、現地 NGO 等、関連組織による活動の実施状況

C/P 機関、日本人専門家、関連する NGO/農民組織/農業組合の協力により、以下のとおり農業・農村開発事業が実施された。農業・農村開発事業を通じ、約 2,500 人の住民が裨益した。牧草地再生や農業機械供与等コミュニティ全体に裨益する活動を含めると、受益者の数はさらに増加する。受益者の選定にあたっては、セルビア系・ボシュニャック両民族の割合に配慮した。受益者の詳細については、付属資料 4. 合同評価報告書の Annex 10 を参照されたい。

活動に際し、プロジェクトでは、セミナー、ワークショップ、研修を実施した。これらの実績については、付属資料 4. 合同評価報告書の Annex 11 を参照されたい。さらに、マニュアルやカタログを制作した。詳細は同 Annex 12 を参照。

表ー 1 プロジェクトで実施した農業・農村開発事業

市/年	2014		2015	
	活 動	受益者 (人)	活 動	受益者 (人)
ブラトナツ	ラズベリー	159	ラズベリー	84
	ブラックベリー	11	養蜂	33
	小規模インフラ	20 カ所	小規模インフラ	16 カ所
	(小計)	(170)	(小計)	(117)
ロガティツァ	果樹	43	果樹	45
	牧草地	56	ラズベリー	32
	養蜂	20	養蜂	20
	ウシ	40	ウシ	40
	ヒツジ	20	仔ウシ	36
	小規模インフラ (灌漑、給水、道路、橋)	2 カ所	ヒツジ	20
	農業機械	2 式	小規模インフラ (灌漑、給水、道路、橋)	3 カ所
	(小計)	(179)	(小計)	(193)

スレブレニツァ	ラズベリー	130	ラズベリー	74
	ブラックベリー	30	温室	69
	温室	69	野菜種子（トマト、パプリカ、キュウリ）	苗床 2 カ所
	野菜種子（トマト、パプリカ）	2	野菜苗	20×2 カ所
	野菜苗	40	養蜂	16
	養蜂	16	小規模インフラ（灌漑、給水等）	13 カ所（排水、公社修復含む）
	小規模インフラ（灌漑、給水等）	13 カ所（校舎修復含む）	ヒツジ飼育 1	10
	ヒツジ飼育	10	ヒツジ飼育 2	14
	果樹（リンゴ、ナシ、プラム）	50	家畜飼育	20
	果樹剪定研修	58	果樹（リンゴ、ナシ、プラム）	50
(小計)	(405)	(小計)	(293)	
その他（ブラトナツツ、スレブレニツァ）	牧草地再生	640	牧草地再生	393
	2014 年合計*	1,394	2015 年合計	996

* 小規模インフラや農業機械・苗床等共同で活用するものは、受益者の小計・合計に含まない。

出所：プロジェクト提供データ

成果 2：対象地域における市役所の農業・農村開発支援能力機能が強化される。

指 標
2-1. RS の MOA への対象地域からの補助金申請件数が増加する。
2-2. 対象地域農家・農民組織から市への申請されるプロポーザル件数が増加する。
2-3. 申請案件中、採択されるプロポーザルの割合が増加する。
2-4. 市役所によって農業・農村開発活動に関する情報が収集され、記録される。
2-5. 市役所による情報普及活動が少なくとも 1 年に 1 回以上実施される。

成果 2 では、対象地域の市役所の組織能力が向上することをめざしている。成果 2 の指標には、C/P 機関である市役所の現状に照らし、必ずしも適切とはいえないものが一部ある。本プロジェクトの前段階のプロジェクトでは、プロジェクト活動の効率的な運営とドナー調整を行うため、スレブレニツァ市役所に新ユニット（Local Integrated Development Unit）が設立されており、本プロジェクトでは同ユニットを強化することをねらっていた。しかしながら、前プロジェクトが終了した後、同ユニットに他部署と兼務で配属されていた人員は、経済開発部等関連する部署等に専属となり、同ユニットに想定されていた業務をそれぞれの部署で行うようになっており、前プロジェクト当時のようにユニットは機能しなくなっている¹。さらに、PDM の指標にある「補助金」や「プロポーザル」等は、プロジェクト計画段階で収集した情報に基づき想定されていた

¹ ブラトナツツ市、ロガティツァ市に関しては、もともとユニットが存在しなかったため、成果 2 では特に部署などを特定せず市役所の能力強化をめざすことを想定している。

ものと、関係者によっては理解が異なっていた²。このため、成果2の達成度については、この成果で当初期待されていたことを念頭に置き、3市における市役所の能力強化に関する状況を定性的に記述することとする。

以下のとおり、市役所の組織能力強化は進捗しており、成果2は達成されつつあると判断される。

2-1. RSのMOAへの対象地域からの補助金申請件数が増加する。

RSのMOAへの対象地域からの補助金申請件数は増加した。対象地域における補助金の申請件数は、増加している。地域で農業に従事する農民は、一定以上の生産高を上げるとRSのMOAからの補助金を申請できることになっている³。これら補助金は、ラズベリー栽培農家やウシ飼育者らにも適用されている。インタビューでは、プロジェクトでの活動により、農牧業の生産高が増加していることから、補助金申請数が増加していると思込まれるということであった。市役所では、農民に対して、補助金申請のプロセスを円滑にするための支援を行っている。

2-2. 対象地域農家・農民組織から市への申請されるプロポーザル件数が増加する。

対象地域農家・農民組織から市への申請されるプロポーザル件数は増加した。農民は、必要に応じ市役所に対して事業のプロポーザルを申請している。ログティツァ市では、農業分野における投資事業に関して一般からプロポーザルを募集し、承認されたものは市の予算案に組み込んでいる。これは、市役所において住民の意向を取り入れた事業を展開する方針とそのための体制ができているためと思料される。

2-3. 申請案件中、採択されるプロポーザルの割合が増加する。

採択されるプロポーザルの割合は増加した。インタビューでは、ログティツァ市の非営利団体として地域開発にも関与するツーリズム団体によるプロポーザルが承認され、2016年度の予算案に採用されたということであった。

2-4. 市役所によって農業・農村開発活動に関する情報が収集され、記録される。

対象3市とも、農業・農村開発に関する情報を収集している。ブラトナツ市とログティツァ市では、活動のモニタリング結果がデータベースに記録され保存されている。スレブレニツァ市では、同様のデータベースは、終了時評価時点では構築されていない。

2-5. 市役所による入札や事業対象者の選定・募集等情報普及活動が少なくとも1年に1回以上実施される。

対象3市では、入札や事業対象者の選定・募集選定等に関する情報公開を定期的に行っている。さらに、各市では、地域の住民や農民組織に対し技術的な助言を行っている。ブラトナツ市では、現場で活動を行っているラズベリーの専門家と協力して技術的助言を行っている。

² 旧社会主義国であったこともあり、情報公開の制度が必ずしも定着しておらず、正確な情報を把握するのが困難な模様である。

³ 計画時には、農民から提案があった新規事業に対し付与される補助金を想定していた。インタビューでは、「補助金(subsidy)」について質問すると、生産高に応じて支給される補助金について言及されることが多かった。

成果 3：市役所機能強化及び地域住民生計向上の取り組みが、RS の MOA に対し共有される。

指 標
3-1. RS の MOA への各市役所からの事業進捗にかかる報告が定期的実施される。

成果 3 は達成されつつある。

3-1. RS の MOA への各市役所からの事業進捗にかかる報告が定期的実施される。

対象 3 市では、RS の MOA と情報交換を行っており、RS の MOA と各市の間で情報が共有されている。MOA との情報共有にあたっては、各市において、C/P が中心的な役割を担っており、この C/P を核として今後も情報共有が進展していくものと考えられる。

3-4 プロジェクト目標

プロジェクト目標：対象地域において、包摂的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制が強化される。

指 標
1. プロジェクト終了時まで、市役所主体による活動事例の数・種類がプロジェクト開始時と比較して増加する。
2. 対象地域住民のコミュニティ開発に係る行政サービス（農業関連支援、情報提供、その他サービス）への満足度が上昇する。
3. 対象地域住民の収入が増加する。

プロジェクト目標の指標のうち、1 と 2 は達成される見込みである。3 については、終了時評価時点では住民の収入の増加が必ずしも明確でないが、今後達成される見込みはある。

1. プロジェクト終了時まで、市役所主体による活動事例の数・種類がプロジェクト開始時と比較して増加する。

市役所主体による活動事例の数・種類は、プロジェクト開始時と比して増加した。その活動事例として、ブラトナツ市では、ラズベリーの苗木を栽培して配付するためのラズベリー・ナーサリーを設立した。同事業にあたっては、市役所がナーサリー（苗床）のための土地を提供し、JICA がラズベリーの種苗を供与、ドナー協調の一環として UNDP がナーサリーの周囲のフェンスを提供した。ナーサリーを運営する団体では、ラズベリー栽培を始める住民に苗木を配付している。同市では、数年のうちにナーサリー団体が財政的に自立できるようにしていく計画である⁴。ブラトナツ市のナーサリー設立に続き、スレブレニツァ市でも同様のナーサリー団体の設立を計画している。ログティツァ市では、ヒツジの飼育センターを設立する計画を進めている。

2. 対象地域住民のコミュニティ開発に係る行政サービス（農業関連支援、情報提供、その他サービス）への満足度が上昇する。

⁴ ナーサリーを運営する団体では、会長と秘書の 2 名が雇用されており、市役所が給与を支払っている。ナーサリーの苗木は、一部は希望者に無料で配付し、一部は販売する。また、今後苗床の土地をさらに拡張し苗木の栽培面積を増やしていく予定である。こうした計画によりナーサリー団体の自立経営を進め、市役所からの補助金は減らしていくという話であった。

終了時評価でのインタビューによれば、受益者の多くはプロジェクトが支援した事業に関する市役所のサービスに満足している。プロジェクトの活動を通じ、市役所とのコミュニケーションが向上したとコメントする住民もいた。C/P のなかにも、地域住民から市役所に対し助言を求められる機会が増えたとする者がいた。プロジェクト活動の実施においては、地域住民間で問題が起こった際⁵に市役所が重要な役割を果たすこともあった。市役所のコミュニティ開発に係る行政サービスに対する地域住民の満足度と信頼は向上していると判断される。

3. 対象地域住民の収入が増加する。

プロジェクトで実施したエンドライン調査での、世帯収入に関する質問の結果を表-2に示す。

表-2 ロガティツァ市とスレブレニツァ市における受益者の世帯収入

収入 (KM: 兌換マルク)	ログティツァ				スレブレニツァ			
	2014		2016		2013		2016	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
収入なし	21	7	0	0	0	0	2	1
500 KM 以下	18	6	3	1	1	0	2	1
500~1,000 KM	34	12	10	4	4	2	15	4
1,000~3,000 KM	66	23	29	10	34	13	57	17
3,000~6,000 KM	105	38	157	54	82	32	113	34
6,000 KM 以上	39	14	91	31	134	53	145	43
(合計)	283	100	290	100	255	100	334	100

注：プラトナツツ市のエンドライン調査結果は、終了時評価時点で集計中であった。

出所：エンドライン調査結果（ドラフト）

ログティツァ市では、2014~2016年の間に、収入が3,000KM以上の世帯の割合は、52%から85%と顕著に増加している。スレブレニツァ市では、2013~2016年の間に、6,000KM以上の収入の世帯の割合は53%から43%に減少しているものの、1,000KM~6,000KMの収入の世帯の割合が、45%から51%と若干増加している。

インタビューでは、3市とも、受益者の多くが、プロジェクトで導入した活動により収入が増加したと回答していた。

3-5 上位目標

上位目標：包摂的で公平な農業・農村開発事業の実施体制の強化を通じ、住民の信頼醸成が促進される。

指 標
1. 対象地域住民の意識変化

⁵ 地域活動を進めるなかで一般的に起こり得る問題。特に民族間の紛争ではない。

1. 対象地域住民の意識変化

ブラトナツツ市の農家、ロガティツァ市の家畜飼育者とのインタビューでは、プロジェクトのワークショップによって両民族からの参加があり、互いに助言しあうことができおり、民族間の信頼、連帯が強まっているというコメントがあった。また、スレブレニツァ市の農家とのインタビューでも、この 10 年間で民族間の人間関係が好転している点が述べられた。このことから、対象地域住民のコミュニケーションとネットワークは、プロジェクトの活動を通じて向上しているといえる。住民らは、協力しあって活動に参加し、地域の問題について話し合い、互いの家庭を訪問し、社交的な場を共有している。こうした協働活動は、セルビア系とボシュニアックの両民族間でも行われるようになっている。

第4章 プロジェクト実施プロセス

プロジェクトの実施プロセスは、おおむね適切と判断される。実施プロセスに係る主な点は、以下のとおり。

(1) 実施プロセス全体

プロジェクト実施プロセスは、おおむね順調であった。調達手続きの遅れにより活動に必要な資機材の供与が遅れたことがあったが、関係者が協調して対応にあたり、大きな支障とはならなかった。

プロジェクトの円滑な実施については、貢献要因がいくつか挙げられる。まず、前プロジェクトを通じて、受益者選定やモニタリングなどプロジェクトの実施体制がかなり確立されており、前プロジェクトでの経験を本プロジェクトの実施に適切に活用することができた。また、プロジェクトの活動計画が入念に策定された。例えば、農業に関する活動は、植付けや収穫のサイクルを考慮して計画された。同時に、予期せぬ事態が起こった際には、柔軟な対応を行った。さらに、問題や障害が起きた際には、日本人専門家、C/P、地域住民で活発な討論を行った。

阻害要因としては、まず、農業・農村活動に必要な資機材の納入業者とトラブルがあったことが挙げられる。ラズベリーの苗の納入業者は、不測の事態により、予定どおり苗を納入することができなかった⁶。このため、プロジェクトでは、急きょ他の業者を探さなければならなかったが、苗の供与の遅れによりラズベリー栽培に大きな影響が出ることはなかった。次に、小規模インフラ建設活動では、コミュニティのインフラ建設のために土地を明け渡さない住民がいたため、建設地の変更を余儀なくされたことがあった。また、一部の住民は新しいことに取り組むことに積極的でなかったため、C/P と日本人専門家、さらにローカルスタッフも加わって、これら住民に対し活動について説明し説得にあたった。さらに、日本人専門家が地域の状況について正確な情報を得るのが難しいという事情もあった。情報を得るために適切と思われる関係者と緊密に連絡をとりあい、可能な限り正確な情報の把握に努めた。このほか、プロジェクトの進捗が政治的要因の影響を受けることも報告されている⁷。こうした要因はあったものの、プロジェクトの進捗プロセス全体に大きな支障はなかった。

(2) プロジェクト運営体制

プロジェクト運営体制は適切である。

前プロジェクトに比較し、本プロジェクトでは、C/P 機関がよりイニシアティブをもって運営し、専門家はそれを支援していく体制をとった。各市は、受益者の選定や事業の資機材の配付に、主体的に取り組んだ。

合同調整委員会（Joint Coordinating Committee : JCC）は、情報を共有し、プロジェクト全体の進捗をモニタリングし、問題を解決するしくみとして機能した。また、JCC の場で RS の MOA と情報共有ができた。JCC のほか、実務レベルの会議が頻繁に開催された。

スレブレニツァ市では、前述したとおり、前プロジェクトの期間中に新ユニットが設立さ

⁶ 苗の生育不良という説明であった。

⁷ 例えば、受益者の選定が政治家の介入により左右されることがあったなどの事例が報告されている。

れたが、当初期待されていたとおりには機能しなかった。しかしながら、同市役所の各部署の C/P がプロジェクト運営を円滑に行った。

プロジェクトでは、各農業・農村開発事業についてモニタリングを実施した。C/P が主体となり、必要に応じ専門家とともに、現場での活動が問題なく実施されているかモニタリングした。NGO/農民組織/農業組合に委託された活動については、これら NGO/農民組織/農業組合と協力してモニタリングを行った。

プロジェクトの進捗全体のモニタリングは、PDM と PO に基づき実施した。前述したとおり、前プロジェクトで創設したユニットの状況などにより、PDM の指標の一部が現状とそぐわないものとなっていたが、PDM の改訂は行わなかった。しかしながら、プロジェクトの目的とめざすべき方向性は関係者の間で共有されていた。

(3) 関係者のコミュニケーション

プロジェクト関係者のコミュニケーションは円滑であった。

日本人専門家からの技術移転は、農業・農村開発事業の実施を通して行われた。日本人専門家はスレブレニツァ市のスケラニ支所に常駐し、ブラトナツツ市とロガティツァ市を頻繁に訪問した。

日本人専門家と C/P のコミュニケーションは、おおむね良好であった。対象 3 市の間でも相互に活発なコミュニケーションがあった。NGO/農民組織/農業組合、住民自治組織 (MZ)⁸、住民のコミュニケーションも良好であった。地域住民同士で活発なコミュニケーションがあり、NGO/農民組織/農業組合は住民に対し技術的助言を行った。RS の MOA は、必要に応じ、各市や農民組織に技術的助言を行った。

(4) 関係者のコミットメント

プロジェクト関係者のオーナーシップは高い。

プロジェクト関係者のプロジェクトに対するコミットメントは、インタビューからおおむね高いと判断された。C/P、日本人専門家、NGO/農民組織/農業組合、住民の大半は、高いモチベーションをもち、協力してプロジェクトに積極的に関与した。

C/P 機関は、日本人専門家とともに意思決定に参画した。前プロジェクトに比較し、C/P の役割が大きくなっていることから、C/P がプロジェクトのさまざまな意思決定にかかわる機会は多くなっており、C/P らは積極的に関与した。

NGO/農民組織/農業組合は、プロジェクトの活動実施において、C/P 機関と地域住民を結ぶ重要な役割を担った。多くの住民は、プロジェクトで実施する農業・農村開発事業に熱心に取り組んだ⁹。

⁸ 市の下に位置づけられる行政区。住民の間で選出される MZ 長がいるが、インタビューによれば、MZ には法律上の行政執行権は付与されていないということであった。

⁹ プロジェクトについての的確に理解していなかったり、プロジェクトで供与した資機材を転売するなど不適切な行動をとる者も一部にはいたと報告されているが、こうした事例はまれであった。

第5章 評価5項目による評価

評価5項目による評価は以下のとおりである。

5-1 妥当性

プロジェクトの妥当性はおおむね高い。

(1) ニーズとの整合性

プロジェクト実施のニーズは高い。

対象地域には、紛争の影響を受けた被害者が多く居住しており、その多くが依然として経済的困難を抱えている。セルビア系とボシュニャックの間で紛争があったことから、地域社会のキャパシティを高めるためには、民族間の融和を図り、地域社会の住民間の信頼を醸成することが求められている。さらに、農村開発を継続的に実施していくためには、市役所の能力開発が必要である。

対象の3市では、目立った産業がなく雇用機会が限られており、雇用の創出が困難であることから、住民の多くは、農業に依存している。一方で、対象3市では、気候や土壌がラズベリー栽培に適しているなど、農業のポテンシャルはかなり高いといえるが、農民の多くは、農業のポテンシャルを活用して生産活動を始めるための初期投資を行う資機材・財源を有していない。また、ブラトナツ市とロガティツァ市では、他のドナー機関による大規模な支援が実施されていない¹⁰。こうしたことから、プロジェクトで支援するニーズは高いといえる。

プロジェクトは、支援を必要としている住民に便益をもたらした。プロジェクト実施により、約2,500人の住民が直接裨益を受けている。牧草地再生等コミュニティ全体に係る活動も入れると、プロジェクトによる裨益者はさらに多数に上る。受益者には、障害者、貧困者等を含む脆弱層が含まれた。

(2) ボスニア・ヘルツェゴビナ政府の政策との整合性

プロジェクトは、BiHと対象3市の政策と合致している。

RSの農業・農村開発の戦略計画(2015~2020年)¹¹では、「ビジョン」として、食品加工業も含めた農業分野が重要な経済セクターであると記載されている。また、同「ビジョン」では、農村部において、すべての社会階層が平等な基盤に基づき生活環境を享受できることを掲げている。これは、民族間の信頼醸成の必要性を示唆しているといえる。

対象3市の開発計画では、農業が優先分野になっている。プロジェクトの農業・農村開発事業で実施した活動は、いずれも各市の戦略的な農産品と合致している。スレブレニツァ市の開発計画(2015~2019年)では、家畜(ヒツジ、家禽、ブタ等)や果樹(ベリー等)、養蜂が最も重要な農畜産物として挙げられている。ブラトナツ市では、ラズベリーが市の戦略的産品となっている。

¹⁰ UNDPがスレブレニツァ市とロガティツァ市を含む6市で、地域開発プロジェクトを実施している。

¹¹ 英文の公式文書は入手できなかったため、現地語版の抜粋を翻訳した情報による。

(3) 日本の ODA 政策との整合性

プロジェクトは、BiH に対する日本の政府開発援助 (Official Development Assistance: ODA) と合致している。BiH に対する国別援助方針では、基本方針 (大目標) として「社会の安定化と経済発展に向けた側面的支援」が挙げられている。この大目標の下、重点分野として、「平和の定着・民族の和解」と「環境に配慮した持続可能な経済成長」の 2 点が挙げられている。本プロジェクトは、「平和の定着・民族の和解」の重点分野のなかに位置づけられている。

(4) アプローチの適切性

プロジェクトのアプローチは適切である。

プロジェクトの計画は、おおむね適切である。本プロジェクトは、前プロジェクトの経験を踏まえ、C/P 機関の合意に基づき形成された。ただし、成果 2 の対象市役所の組織的能力の強化に関しては、計画段階で正確な情報が不足していたことにより、一部の指標が適切に設定されなかった。

農業・農村開発事業については、前プロジェクトでの成果を踏まえ、ラズベリー栽培、養蜂、家畜飼育等効果を上げた事業は引き続き実施した。前プロジェクトで効率的・効果的な実施に若干の問題を残した一部の事業は本プロジェクトで実施されなかった。また、本プロジェクトでは、分散・体験型見本市アプローチ (Decentralized Hands-On Program Approach : D-HOPE)¹²などの新しい活動が導入された。

プロジェクトのデザインは適切である。プロジェクトでは、さまざまな農業・農村開発事業を実施し、このプロセスを通じて住民の間の信頼醸成を図ることをめざしている。住民の協働による活動を実際に行うことは、そのなかで住民同士がコミュニケーションをとりつつともに作業することが普通に行われるようになるため、信頼醸成を図る効果的なアプローチといえる。また、公平で包摂的な地域開発を行うために市役所能力開発を行ったことも適切である。

事業の対象者の選定・募集は、適切に行われた。インタビューによれば、受益者選定のプロセスは、おおむね公平で透明性があったと住民から受け止められている。事業の対象者の募集情報は、市役所の掲示板やウェブサイトで公開されるとともに、MZ の委員会にも通達された。通達のなかで、選定基準が明確に示されていた。受益者選定にあたり、プロジェクトでは、セルビア系とボシュニアックのバランスを慎重に配慮した。

プロジェクトには、類似の分野における日本の経験が反映されている。例えば、「一村一品運動」や「D-HOPE」など、日本には農村開発において独自の豊富な経験の蓄積がある。インタビューでは、詳細なニーズ分析やニーズに応じた活動計画、きめ細かなフォローアップやモニタリング等も日本技術協力の特長であるという声が聞かれた。また、日本の技術協力では、単なる「物品の提供」ではなく、「仕事のしかたを教える」というアプローチをとっているとコメントする者もあり、技術協力のアプローチが住民に理解されていたと考えられる。

¹² コミュニティベースで組織的付加価値を創造していくための活動で、集会的見本市、直売所マーケットの構築、コミュニティツーリズム等の活動がある。活動に参加する地域の起業家や農民のことを「チャンピオン」と称する。

5-2 有効性

有効性は比較的高い。

(1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標は達成されつつある。

指標1に関しては、市役所のイニシアティブによる農業・農村開発事業がいくつか開始されている。例えば、ブラトナツツ市のラズベリー・ナーサリーなどがある。ただし、こうした活動が、財政面も含め完全に自立的に経営されるようになるには、まだ時間が必要である。

指標2については、市役所の業務に対する地域住民の満足度は向上している。前述したとおり、インタビューでは、対象3市の市役所と住民の間で関係が向上していることを示す事例が聞かれた。

指標3の対象地域住民の収入については、エンドライン調査によると、ログティツァ市では、受益者の収入が増加しており、スレブレニツァ市では、収入増加が認められない。他方、インタビューでは、3市とも、多くの受益者が収入が増加したと答えている。プロジェクトで特に配慮していた帰還者やシングルマザー等の脆弱層も、収入が増加したということであった。スレブレニツァ市では、前プロジェクトで支援していたために、本プロジェクト開始時に収入の高い層がかなりいたことも、収入増加が顕著にみられないことと関係していると考えられる。おおむね、プロジェクトで供与した資機材を十分活用すれば受益者の収入は増加するものと見込まれるが、収入が明確に増加していない者もいる背景には、天候等外部要因の影響があると考えられる。さらに、実質的な収入につながるまで時間を要する場合もある。例えば、ラズベリー栽培では苗付けから収穫まで1年ほどかかり、果樹の種類によっては3年ほど要する品種もある。また、生産後、市場を探して販売につなげるのが難しいとする受益者もいたが、多くの者は比較的容易に販売先を見つけているということであった。

プロジェクト目標達成の促進要因となったのは、プロジェクトで実施する農業・農村開発事業を適切に選択したことである。実施した活動はすべて、地域のニーズに適しており、受益者にとって魅力あるもので、多くの場合、利益につながった。このほか、受益者の選定が公平だったことも促進要因となり、「公平で包摂的な」地域開発を可能とすることができた。

(2) 成果の達成度

成果は達成されつつある。

成果1（農業・農村開発事業）は、達成される見込みである。農業・農村開発事業はおおむね円滑に実施され、対象地域の受益者の多くに裨益効果があった。

成果2（対象市役所の組織能力）は、達成されつつある。インタビューによれば、対象3市の能力は向上しており、住民との関係も以前より向上している。ただし、対象3市で農業・農村開発の業務を十分に遂行していくためには、さらに組織能力強化が望まれる。

成果3（RSのMOAとの情報共有）も達成されつつある。RSのMOAと対象3市との間での情報共有は進んでいる。

PDMに記載された成果以外にも、プロジェクトの活動によりいくつかの効果が発現している。まず、3市の間でのコミュニケーションが促進されたことにより、いくつかの新しい活動がみられる。例えば、スレブレニツァ市では、ブラトナツツ市のラズベリー・ナーサリーの進捗に刺激され、ブラトナツツ市のナーサリーの情報を収集しつつ同様のナーサリーを設

立する計画を進めている。また、スレブレニツァ市がログティツァ市からヒツジを購入したのは、対象市間の協調した活動といえる。対象市と MOA との協力の促進の成果としては、ログティツァ市がソコラツツ市に配置されている MOA のアドバイザーサービス事務所と積極的に協力していることが挙げられる。次に、スレブレニツァ市の予算により、スケラニのプロジェクト事務所の隣にある古い校舎が蜂蜜加工工場に改装された。同市役所が建設費用を拠出し、JICA が資機材の一部を供与した¹³。工場の稼働により、蜂蜜の販売が増加するとともに、工場の作業員の雇用創出が見込まれている。このほか、前プロジェクトの期間中に日本の草の根・安全保障無償資金協力により建設された家畜市場において、2016年9月に農業祭が開催された。農業祭は、JICA とスレブレニツァ市役所、ツーリスト団体の共催としてとり行われた。農業祭は、住民らが農産物や家畜、手工芸品などを展示し、交流する機会となった。今後も農業祭が開催され、地域住民の交流を促進し、紛争前のような地域社会のつながりやアイデンティティ、伝統的文化を回復するために資する場となることが期待されている。

成果達成の促進要因としては、受益者の適切な選定、農業・農村開発事業のモニタリング、日本人専門家や市役所・NGO/農民組織/農業組合による対象地域への適切な技術的支援が挙げられる。また、コストと責任の負担も促進要因となった。例えば、インフラ建設においては、JICA が資機材を供与し、市役所が経費を負担し、地域住民が労働力を提供した。他の事業においては、JICA による資機材の提供を受ける受益者に負担事項を課した。ラズベリー栽培のケースでは、苗の供与を受ける者は、その前に自分で土地を用意し耕作をしておかなければならないなどである。コストと責任の分担により、地域住民のオーナーシップが醸成された。

(3) 成果からプロジェクト目標に至るロジック

成果からプロジェクト目標に至るロジックはある程度適切といえる。成果 1（農業・農村開発事業）と成果 2（対象市役所の組織能力）は、いずれも、プロジェクト目標である公平で包摂的な地域開発の実施体制を実現するために必要なコンポーネントである。成果 3（RS の MOA との情報共有）は、地域開発の実施体制を強化するために重要ではあるが、実際には、MOA のプロジェクトへの関与は技術的助言にとどまっている（インタビューによる）。MOA からの技術的助言自体は重要ではあるものの、MOA との情報共有が対象 3 市におけるプロジェクト目標の達成にどの程度貢献したかは明確でない。

プロジェクト目標を達成するための 2 つの外部条件のうち、農業・農村開発政策については、充足されている。もう 1 つの外部条件である農産品価格については、インタビューした関係者の一部によれば、農産物の価格変動があったということである。しかしながら、農民が大きな影響を受けるほどの価格変動ではなかった。

5-3 効率性

効率性はおおむね高い。

¹³ JICA が供与した機材の一部は、前プロジェクトで供与されたものの、納入予定であった工場が EU 基準を満たしていなかったために使用されなかったものである。

(1) 投入の適切性

投入は、日本・BiH 側双方とも適切に行われた。

1) C/P の配置

各市とも、プロジェクトを担当する C/P を配置した。配置された C/P は、高いコミットメントと適切な経験・知識を有していた。C/P の数がもう少し多ければ、プロジェクトをより効率的・効果的に進められたと考えられる。

2) 日本人専門家

2 名の日本人専門家が派遣され、熱心にプロジェクトに取り組んだ。長期専門家の派遣手続きに時間を要したため、派遣されたときには春の農繁期が既に始まっていた。しかしながら、活動を柔軟に実施することで、大きな遅れにはならなかった。短期専門家が 1 名派遣され、D-HOPE の活動において効果的な技術移転を行った。

3) 施設・機材

日本側は、農業・農村開発事業に必要な資機材を供与した。資機材調達の入札では、価格比較を行っているため、適正価格で供与することができた。調達プロセスは、納入業者の調達の遅れや手続き事項により予定よりも長引いたが、活動に大きな支障はなかった。供与された資機材はおおむね適切に活用されている。インタビューでは、供与された資機材を適切に活用せず、ヒツジを転売する受益者がいるなどの報告があったが、これは一部の例外的ケースである。なお、前プロジェクトの期間中に建設された家畜取引市場は、疫病が発生したため長期間にわたり使用されていなかったが、今次終了時評価の期間中に、前述した農業祭の開催場所として使用された。

4) 本邦研修

終了時評価でインタビューした本邦研修の参加者は、全員研修内容に満足している。参加者は、日本とタイの農村開発の事例や日本的なビジネス慣行について学び、業務に活用している。本邦研修の参加者は、帰国後それぞれの機関で他の職員に研修内容を共有している。1 年目（2014 年度）は、C/P 機関の上層部を派遣したが、選挙があったこともあり、参加を辞退する者が複数いた。

5) プロジェクトコスト

日本・BiH 側双方ともプロジェクト活動の実施に必要な経費を負担し、活動の円滑な実施が促進された。

(2) 投入から成果に至るロジック

投入から成果に至るロジックは適切である。活動に必要な投入が行われ、成果の発現につながった。

成果発現のための 2 つの外部条件が設定されているが、これら外部条件により、成果の発現が若干の影響を受けた。外部条件の 1 つである自然災害については、対象地域では、2014 年に洪水に見舞われ、耕作地の一部が浸水したほか、かなりの数の養蜂の巣箱が流された。2016 年には、降雨不足により、養蜂業者は再び被害を受けている。ただし、養蜂はもともと天候の影響を受けやすいため、多くの養蜂業者は 3 年程度のスパンで生産計画を立てている。さらに、一世帯で果樹栽培、野菜栽培、養蜂等を手がけるなど、多くの農家は産品を多様化している。こうしたことにより、天候の影響を最小限に抑えるための対応がある程度できて

いる。もう1つの外部条件である病虫害についても、インタビューによれば、一部の受益者は被害があったということである。これらの外部条件の影響はあったものの、プロジェクト全体の成果を大きく阻害するようなことはなかった。

5-4 インパクト

インパクトは大きい。

(1) 上位目標達成の見込み

上位目標は達成される見込みである。対象地域における民族間の信頼醸成は進んでいる。プロジェクトの活動を通じ、住民は共同で作業を行い、機材を共同で利用し、互いに交流を図っている。

上位目標達成の促進要因は、住民が共同して参加できる事業を実施したことである。これら事業を推進するためには、地域住民が共同で作業することが必須となる場合があり、これにより、住民間のコミュニケーションや信頼関係が促進された。さらに信頼醸成を促進するためには、住民が共同で作業できるような事業を対象市役所のイニシアティブにより継続的に実施していくことが必要である。

今後上位目標の達成を阻害する要因となり得るのは、社会経済状況の変化¹⁴や治安の悪化である。

(2) プロジェクト目標から上位目標に至るロジック

プロジェクト目標から上位目標に至るロジックは適切である。前述したとおり、信頼醸成のために農業・農村開発事業を実施することは適切であり、これら事業を継続的に実施するためには、対象市役所の実施体制を強化することが必要となる。

上位目標を達成するための外部条件（予算配分）に関しては、各市は、RSのMOAからの補助金を含む予算が配分されており、必要な業務を遂行しているが、プロジェクトでの活動を継続していくための財政基盤は潤沢とはいえない。

(3) 信頼醸成に対するインパクト

前述した対象地域の住民の間での信頼醸成に加え、インタビューによれば、プロジェクトの活動を通じ、住民と市役所の間での信頼も向上している。

(4) その他のインパクト

その他のインパクトがいくつか認められる。まず、プロジェクトで農業・農村開発事業を導入した後、収入基盤ができたことから、雇用を求めて他の地域に流出する人が減少している（インタビューによる）。人々が地域にとどまるようになれば、地域社会の将来的な発展に正のインパクトをもたらすと考えられる。また、プロジェクトに関する情報が対象3市以外の地域にも普及している。プロジェクトでは、広報に経験をもつNGOに委託してプロジェクトに関する情報の発信を積極的に行っており、プロジェクトのことは対象地域以外でも広く知られるところとなっている。対象地域における信頼醸成の経験が全国的に紹介されれば、

¹⁴ インタビューなどから、全般的には社会状況は落ち着いているようだが、行政のさまざまな側面で政治的介入がみられたり、選挙の際には民族間の紛争を再燃させるような動きがみられることがある模様である。

民族融和に向けた意識が一層高まることが期待される。

5-5 持続性

持続性は中程度である。

(1) 政策面

政策面の持続性は高い。RSのMOAにおいても、市においても、農業・農村開発を重視する政策は継続していくものと考えられる。

(2) 組織面

組織面での持続性はある程度見込まれる。

C/P機関の組織的能力は、向上している。プロジェクトの活動を通じ、対象3市で、受益者選定やモニタリング等の実施手順が導入され、ほぼ確立されている。プロジェクトで導入された手順に基づきC/P機関が専門家の支援なしで業務を実施していけば、組織面での持続性は期待できる。懸念材料として、2016年10月初めに選挙が予定されており、C/P機関で組織改編の可能性がある。市役所の部長クラスは政治任用であるため、選挙の結果により、これまでプロジェクトにかかわってきた部長が交代した場合には、組織面での持続性に影響が出ることになる。

(3) 財政面

財政面での持続性はあまり高くない。

プロジェクトの支援により、受益者は初期投資としての資機材を供与され、これを基に生産を拡大するための活動を展開している。初期投資に充てる資機材があれば、農民が継続的に自立できる見込みは高い。しかしながら、この初期投資を十分に行うための資金を用意することが、農民にとっては困難となっている。プロジェクト期間中は、苗木や家畜などを配付することで初期投資を支援してきたが、プロジェクト終了後に各市でこうした支援を行う十分な予算があるかは明確でない。プラトナツ市のラズベリー・ナーサリーは、将来的な財政面での持続性を視野にいれ運営を計画しており、こうした問題に取り組むための好事例になると考えられる。スレブレニツァ市では同様のナーサリーの設立、ログティツァ市ではヒツジ飼育センターの運営を計画しており、これらの事業が順調に進捗すれば、C/P機関と住民の双方の経済的自立性が高まると期待される。

(4) 技術面

技術面での持続性はある程度見込める。

プロジェクト期間中に、C/Pは計画・実施・モニタリングの能力を向上させ、プロジェクト終了後も引き続き業務に取り組む意思を有している。プロジェクト終了後に専門家の支援がなくてもプロジェクトで確立された手順で引き続き業務を遂行していけば技術面での持続性は見込める。

地域住民は、プロジェクトで実施したワークショップ・研修に参加し、プロジェクトによるモニタリング/スーパービジョンを受けることで、活動に必要な知識や技術を習得しており、また、今後も活動を継続していく意思を有している。プロジェクトでは、いくつかのMZの

開発戦略計画策定を行っており、この開発戦略計画に基づき住民がさまざまな活動を継続的に実施していくことが期待されている。

プロジェクトで建設を支援したインフラ設備や供与した共同使用の農業機械は、地域住民の間で良好に維持管理されている。

(5) 持続性に係る貢献要因・阻害要因

持続性を考慮して、プロジェクトでは運用経費のあまりかからない事業を導入した。ラズベリー栽培では、いったん苗木を植えたあと 10～15 年は果樹の収穫が可能であり、ウシの飼育は、初期投資としてのウシを入手した後は、経費があまりかからない。地域住民が財政面での持続性を高めるためには、生産を多角化することも促進要因となる。プロジェクトで導入した事業のいくつかは、相互に関連するものである。

例えば、果樹栽培と養蜂を並行して行くと、ハチによる受粉により相乗効果が期待できる。多角経営により価格変動や天候不順による損害を軽減することも期待できる。また、灌漑施設や農業道路のインフラ建設は、農業生産の増加に資するものである。生産の多角化と関連する事業の組合せに考慮した戦略的な計画により、住民と地域全体の財政基盤を強化していくことが可能と考えられる。D-HOPE の活動は、さまざまな分野の「チャンピオン」がカタログで紹介されており、事業の多角化に資するものと期待される。長期的には、地域のリソースやポテンシャルを有効活用することが持続性を高める促進要因となる。対象 3 市はいずれも、天然資源や経済的ポテンシャルに恵まれている。

観光セクターでは、スレブレニツァ市には天然温泉があり、ロガティツァ市には鍾乳洞があり、両市ではその活用を検討しているが、現在のところ、これらの観光資源はまだ十分に活用されておらず、地域経済に貢献するに至っていない。市のイニシアティブにより、こうしたリソースが有効活用され経済の成長につながれば、地域社会や住民に裨益する可能性は十分にある。

持続性に関する阻害要因としては、市の予算不足、選挙による政策の変更や組織改編、農産物の価格変動や気候変動が挙げられる。

第6章 結論

プロジェクトは、おおむね順調に進捗した。

プロジェクトは対象地域のニーズと政策、日本の BiH に対する ODA 政策と合致しており、妥当性はおおむね高い。プロジェクト目標が達成されつつあり、有効性は比較的高い。投入は適切に行われ成果もある程度達成されつつあることから、効率性はおおむね高い。対象地域では、C/P 機関、MZ、NGO/農民組織/農業組合等関係者の間で信頼醸成が促進されていると判断され、インパクトは大きい。持続性は、財政面と組織面で若干の懸念材料があるため、中程度である。

期待された効果が達成されつつあることから、プロジェクトは予定どおり終了する。

第7章 提言・教訓

7-1 提言

(1) プロジェクト終了までの提言

- 1) 対象3市は、日本人専門家、NGO/農民組織/農業組合と協力のうえ、プロジェクトで導入された事業のモニタリングを引き続き行うことが必要である。あわせて、3市は、地域に対し必要な支援を行うことが求められている。
- 2) プロジェクトで導入した事業を継続するため、3市においては、プロジェクト終了後に事業を実施する予算を確保することが必要である。市は、このための計画策定をプロジェクト期間中に開始することが望ましい。また、日本人専門家は予算確保のための計画プロセスを支援すること。
- 3) プロジェクト期間中に、3市は独自の事業を開始しており、この事業をさらに推進していくことが望まれる。プラトナツ市は、ラズベリー・ナーサリーの運営組織の強化、また、スレブレニツァ市ではラズベリー・ナーサリーの設立、ロガティツァ市は家畜センターの計画を、それぞれ推進していくことが期待される。
- 4) 前プロジェクトでスケラニに建設された家畜取引市場は、疫病の影響があったこともあり、これまであまり使用されていなかった。今後、スレブレニツァ市でこの家畜取引市場をより活用することが奨励される。
- 5) 活動の進捗とモニタリング結果を記録することは重要である。3市でそれぞれ、活動に関するデータベースを構築し、改善し活用していくことが望まれる。
- 6) 上記データベースで活動の記録を拡充することに加え、プロジェクトのインパクトを測るため、生産活動を詳細に分析することが有効と考えられる。一例として、ラズベリーの冷凍工場の事業記録をC/P機関と日本人専門家で分析することなどが提案できる。例えば、この分析により、両民族がそれぞれどの程度生産に参加しているかや、異なる民族間のそれぞれの村落間移動の実態等も明らかになれば好ましい。

(2) プロジェクト終了後の提言

- 1) 3市は、プロジェクトで導入した事業を継続して実施すること。そのために、前述したとおり、プロジェクト期間中に予算と人員を確保しておくことが必要である。
- 2) 3市は、支援を必要とする地域住民に必要なサポートを行うこと。そのためには、初期投資となる資機材を供与するための予算を確保することが不可欠である。適切な技術的助言を行うことも必要である。
- 3) C/P機関は、現状調査に基づき、今後に向けた包括的な地域開発のための戦略的で実施可能なアクションプランを策定すること。
- 4) 3市は、関係機関と協力のうえ、農業祭のような活動を引き続き開催していくこと。こうした活動は、地域住民の交流、意識の向上、地域の伝統の継承に資するものと考えられる。

7-2 教訓

- (1) 本プロジェクトの対象地域では、政府のガバナンスが脆弱で、それが地域開発や住民の信

信頼醸成の推進にも影響している。前プロジェクトで住民に対する直接的支援を中心に行い、本プロジェクトでは、市役所の能力強化に重点をおいた。紛争影響国で相手国政府のガバナンスが脆弱な場合は、まず政府のかかわりは最小限にとどめ住民へ直接支援する事業を実施することで、住民の生活環境を安定させ、その一方で政府主導の事業実施環境を整えていくことが効果的な場合もある。

- (2) 本プロジェクトでは、農業・農村開発事業の受益者は、資機材を供与される際に何らかの義務を負うこととした。コミュニティ支援の活動では、受益者に一定の負担事項を負わせることにより、コミットメントを高め、活動を適切に実施し、裨益効果を出すことができる場合がある。
- (3) 本プロジェクトでは、選定した農業・農村開発事業を実施するなかで地域住民の信頼を高めていった。地域住民や民族間の信頼醸成には、住民や民族グループが協働して参加できる「場」や「機会」を提供していくことが効果的で、具体的な活動を実践していくことで信頼醸成が促進される。活動が経済基盤の強化につながるものであれば、住民は積極的に参加する。
- (4) 本プロジェクトでは、対象地域の農業・農村開発事業に関する支援として、個別の事業者には資機材を配付し支援した。住民は配付された資機材を活用して積極的に事業に取り組み、収入を得ることができた。このように、個別住民への投入の伴う活動が、住民の事業への参加を促進し、好ましい結果を産む場合もある。その際、収入の増加につながるよう、地域の経済の核となるような分野の事業を適切に選択して支援を行うことが重要である。
- (5) 対象住民の間で信頼醸成を図るには、受益者選定は、公平で透明性とアカウンタビリティをもつものでなければならない。これは、紛争の影響を受けた国や地域では特に重要である。本プロジェクトでは、受益者選定のプロセスを確立することで、信頼醸成の促進が可能になった。C/P 機関が受益者選定を継続して適切に行うため、プロジェクト期間中に受益者選定の手続きを確立したうえ、その手続きを C/P 機関だけで実施できるよう、C/P の能力強化を図ることが必要である。

第8章 総括

スレブレニツァとその周辺2市の安定化をめざす本プロジェクトは期待された成果を上げ、予定どおりに終了させることが妥当であると思料される。いずれの市でも、農業を中心とした生産活動が軌道に乗り、受益者の経済状況が改善。人心は安定し、平時には他民族に対する排他的な言動が影を潜めた。若年層を含む勤労世代の農村回帰もみられるようになったという。一方で、依然としてハイ・ポリティックスの影響を受けやすいスレブレニツァ市では、開発援助による平和構築の限界が改めて浮き彫りになった。「2年に一度の選挙が和解の最大の阻害要因」（スレブレニツァ副市長）という同市では今なお、国及びエンティティ・レベルの政治対立がそのまま市議会に持ち込まれ、指導層の分断が解消できない状況が続いている。政治家の意向がそのまま行政に反映する市役所への住民の不信感も強い。プロジェクトを通じてコミュニティに再構築された住民間の信頼関係が今後、選挙結果に反映し、民族分断政治を乗り越えていくことができるか否か。コミュニティの紐帯の強靱性が、プロジェクト終了後に問われ続けることになる。

紛争影響国において、コミュニティ安定の要諦は①行政の統治能力（健全な行政サービス提供を通じて得られる統治の正統性と運用能力）②住民の帰属・連帯意識（コミュニティの一体感、排他的プロパガンダに抗する強靱性）③自立できる生計手段の確保である。本プロジェクトは、住民の経済活動を行政主導で促進することを通じ、これらすべての課題にアドレスするものであった。

ブラトナツ市では、両民族の計約3,000世帯がラズベリー栽培に従事するようになり、2016年は市全体で約4,000tを産出。計1,500万KMC（兌換マルク）の収益をもたらし、「ボスニアのなかでもラズベリー栽培のリーダー的存在となった」（市長）という。世銀がRSの3市のみで実施する灌漑プロジェクトの対象にも選定され、エンティティ政府と分担してローンを返済していくといい、財政基盤も安定している。同市では経済局が全農業従事者のデータベースを作成してニーズを特定し、プロジェクト専門家と協力して裨益者を選定。民族を超えたクライテリアの遵守により、民族間関係は安定している。

紛争中、多くのボシュニャック被害者を出し、現在エンティティの住民すべてが帰還民である「ジェパ」を抱えるロガティツァ市でも民族間の融和が進んだ。同地域プロジェクトで、養蜂業の支援を受けた受益者は「セルビア系の講師から指導を受けて事業を始めた。既に民族間のわかまりはない」という。同ボシュニャック地域の子どもたちはキリル文字を使ったセルビア語の教科書を使用し、セルビアのカリキュラムで教育を受けているといい、民族教育へのこだわりは存在しない。

これら2市では、受益者選定の公平性・公正性により市役所が信頼を獲得、民族間の関係も改善したうえ、受益者の住民が自立可能な収入を得るようになり、共同体が安定を回復した。

スレブレニツァ市でも、農業生産が向上し住民間の信頼醸成が進んだ。前プロジェクト開始前には年間50tだったラズベリーの収穫高が約16倍の800tまで増加。ジャガイモ加工工場や蜂蜜加工工場も完成し、経済活動が著しく改善された。これらの活動に参加する住民に民族による差別は存在しない。ラズベリー栽培農家には民族の分け隔てなく、両民族の業者が果実の買い取りに回っている。「どの業者に売るかは価格次第。民族には無関係」（プレジャニ地区住民）という。

その一方で、スレブレニツァ市では市役所に対する住民の不信感は依然として根強い。「議会

が承認した予算を、市行政が執行する段階で不正が発生する」(スーチェスカ地区住民)、「プロジェクトは市を排除して行うべき」(サセ地区住民)等の声も聞かれた。前プロジェクトのC/Pによると、市予算はセルビア系とボシュニアックの間で二分され、それぞれの指導者が恣意的に住民に配分する状況が継続している。人口比には無関係の政治決着であり、現場のニーズは斟酌されない。現在、セルビア系勢力は独立社会民主同盟(SNSD)、ボシュニアック勢力は民主行動党(SDA)の影響下にあり、市行政は民族別に分断されて各民族政党の「統治」を甘受している。市長が市幹部を任命する際も、これら政党が政治的にポストを配分する。両党は相互不可侵の関係にあり、各党の自民族地域支配を容認し合っている。こうした環境下、住民が政治勢力の統治の正統性を受け入れるのは困難であり、ドナーによる開発援助が短・中期的に対応し得る領域を超えているともいえよう。

結論として、今回のプロジェクトはブラトナツ市、ロガティツァ市では上記した安定のための3つの要素すべてを満たすに至り、スレブレニツァ市でも現在の政治環境では開発援助で対応が困難な「行政の統治能力」以外の課題をクリアした。プロジェクトとしての成果は充分であり、成功裡に事業を遂行したと評価できるだろう

最後に、今回の調査中、スレブレニツァ市の将来に期待を抱かせる動きがみられたことを付言しておく。奇しくも両民族の受益者から異口同音に同じ内容の決意表明がなされたのである。「今後、中道勢力として政治活動に従事し、民族主義政党主導の政治環境を打破していく」という。プロジェクトがコミュニティに蒔いた「安定」の種が、次第に根づいて開発の枠組みを超え、いずれは政治をも動かす健全な市民社会を形成することに寄与するかもしれない。長期的視点に立って、近い将来、本プロジェクトに対する再度の評価を仰ぎたい。

付 属 資 料

1. 調査日程
2. 面談記録
3. Project Design Matrix (PDM)
4. 協議議事録 (M/M)・合同評価報告書
5. 終了時評価グリッド

1. 調査日程

Date		Time	
29-Aug	Mon	10:00	Move to Skelani (Project office)
		15:00	Briefing from former project manager on the history of the project @ project office
30-Aug	Tue	9:00	Briefing about evaluation method to C/Ps @ Municipality of Brutnuc for C/P of Srebrenica and Brutnuc
		10:00	Interview to Mayer of Brutunac
		10:30 - 12:30	Interview to C/P of Brutunac
		15:00	Interviews with the project staffs
		16:00	Interview to Japanese expert
31-Aug	Wed	8:00	Women's group (Bratunac)
		9:30-11:30	Propolis & Kesten @ Bratunac municipality
		11:30	Interview to beneficiaries @ Bratunac municipality
		12:30	Interview to beneficiaries @ Bratunac municipality
		14:30	Raspberry Nursery
		15:30	Site visits of infrastructure program (community road, river bank)
1-Sep	Thu	8:30	New Hope (NGO)
		9:30	Interview to Srebrenica cooperative"OPZ"
		10:30	Leave for Rogatica (lunch on the way)
		14:00	Beekeeping association
		15:30	Fruit grower's association
		16:30	Site visits of infrastructure program (water supply, bridge)
2-Sep	Fri	7:00	Explanation of evaluation method and interview to C/Ps
		7:30	Interview to Rogatica mayer
		8:00-10:00	Interview to CPs
		12:00	Tourist organization
		14:00	Interview of beneficiaries @ Gucevo MZ
		15:00	Agriculture association
3-Sep	Sat		Documentation
4-Sep	Sun		Documentation
5-Sep	Mon	8:30	Interview to C/P of Srebrenica Municipality
		10:00	SARA (NGO)
		12:00	Friends of Srebrenica (NGO)
		13:30	UNDP
		14:30	Osat beekeeping association @ his house
		16:30	Skelanka beekeeping association @ Project office in Skelani
6-Sep	Tue	7:40	Pick up from the hotel
		9:00	Interview with Beekeeper in Bratunac
		10:30	Interview with Raspberry beneficiary in Bratunac
		11:30	Lunch
		13:30	Observe Grass field, Irrigation in Brezani
		14:30	Observe Sheep famer in Toplica
		15:00	Observe Greenhouse in Skelani
			Observe Vegitable nursery in Skelani
		16:00	Interview with Mr. Almir
7-Sep	Wed	10:25	Spare day
		21:30	arrive at Sarajevo(OS 759)
8-Sep	Thu	10:00	Documentation
		11:30	Courtesy to Rogatica Mayer
		15:00	Meeting with Bosniac beneficiary from Zepa
		PM	Interview with former Project manager @ project office in Skelani
			Internal meeting
9-Sep	Fri	8:00	Interview to teacher of Skelani playroom
		9:30	Courtesy to Brutnac mayer
		10:30	Courtesy and Interview to Mayer of Srebrenica
		11:00	Courtesy to CPs of Srebrenica
		12:00	Interview to teachers of Potocari playroom
		15:00	Interview with Srebrenica beneficiaries @ Srebrenica
10-Sep	Sat	10:00	Brezani MZ
		11:30	Interview with Srebrenica beneficiaries @ Sucevka
		14:00	Potocari MZ
			Documentation
11-Sep	Sun		Move to Banja Luka
12-Sep	Mon	9:00	Courtesy to Project Director/ Assistant Minister
		9:30	Interview to C/P
			Back to Skelani
13-Sep	Tue	AM	Finalization of evaluation report
		PM	Preparation of JCC, Translation of MM
14-Sep	Wed	9:00	JCC @ Municipality of Srebrenica
		11:00	Lunch
		PM	Srebrenica → Sarajevo

2. 面談記録

日 時	8月29日 15:00~16:30
場 所	プロジェクト事務所
面談相手	Mr. Vladan Milovanovic, Acting Head of Department of Economy and Development
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトは全般に順調。 ・3市のコミュニケーションはよい。MOA との関係もよい。MOA は、ヒツジに関する知識を教えるなどの技術的アドバイスを行っている。 ・民族による住民のかかわり方の違いはない。個人差が大きい（マインドセットの問題）。例えば、供与されたヒツジをすぐ売ってしまい、返さない人がある。こうしたケースについては、専門家にフィールドに行ってもらって説明してもらった。 ・受益者の選定は、全地域で、2民族を半々ずつ入れることができた。ただし、政治的な問題、選挙の影響などで、本来裨益すべき人に支援が届かない例はある。 ・前プロジェクトは専門家をもっと independent に動いて、直接受益者に入っていた。NGO が間に入っていたが、本プロジェクトでは、この役割が市役所になっており、市の権限が強くなった。 ・市の戦略計画では農業を重視しており、プロジェクトはこれに合致している。民族融和は、戦略計画で明示的には記載されていないが、経済開発には dispute がないことが重要である。 ・前プロジェクトでの支援の結果は続いている。 ・ただし、前プロジェクトで JICA の提言で Development Unit をつくったが、プロジェクトが終わるとなくなった。現在、Development Unit の役割は、Economic section が引き継いでいる。Unit が機能しなかった理由は、①スタッフが兼任で 35%は Unit の業務をしているが、65%は他の業務に費やしている、②Unit としての業務がなくなった。（注：別途三好さんより補足説明。Development Unit は、消滅したのではなく、組織上は存在するが機能していない状態。PDM の成果 2 は Development Unit の強化を想定しており、この Unit がなくなったことで、PDM の前提が崩れてしまっている） ・スレブレニツァでは、他のドナーも活動しているが日本とはアプローチが違う。このプロジェクトでは受益者のコミットメント（conditionality）を求めている。例えば、畑地を整備しないと苗を分けない、温室のフレームを作るとビニールを供与するなど。他のドナーのプロジェクトでは、「モノをあげっぱなし」だが、JICA はフォローアップ/モニタリングをしている。 ・両民族の関係はよい。双方が協働で活動したり、カフェで話したりしている。このプロジェクトの活動のために、同じトラクターを使ったり、家を訪問しあったりしている。 ・今後も JICA の予算は必要。受益者は JICA がいることを知っている。市の職員が言っても市は何もくれないことを知っているのだから聞いて聞かない。住民は雇用より援助に期待する気持ちが大きい。 ・NGO は、よくやっているのが 1 団体、「まあまあ」が 2 団体ほど。Family NGO 的なものを立ち上げてファンドもらい、もらったファンドがなくなると終わる NGO が多い。 	

日 時	8月31日 8:00~9:30
場 所	ブラトナツツ市役所
面談相手	Ms. Zeljana Pjevazica, Executive Director, Women Association
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員、Mr. Radenko Radovic）

概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の生活向上と役割の拡大を目的に 17 年前に設立された。女性の向上にはコミュニティ全体の向上が不可欠であることから、コミュニティ開発の支援もしている。職員は、常勤スタッフ 2 名、会計課係、IT 担当、ボランティア（常勤）2 名、temporary worker 15 名。 ・プロジェクトでは D-HOPE を支援。ワークショップを開催して、カタログに掲載されるために何をしたらよいかを指導し、カタログコンテンツの制作とカタログの配付を行った。ワークショップには 50～60 名が集まり、48 名が「チャンピオン」となった。ワークショップ自体は市の主催で、Association では、参加者を identify して出席させるのが業務。 ・参加者の両民族の割合は、住民全体の割合に準じており、ボシュニャック系が 30% 程度。参加の度合いは、民族より個人のモチベーションによるところが大きい。 ・JICA の支援のよいところは、imposing でなく、ニーズを聞いてそれに tailor した対応をするところ。NGO のカリタスは同様のアプローチをとっている。UNDP はニーズに応じた対応をしている。他のドナーはもっと imposing。 ・JICA や市役所とのコミュニケーションはよい。市は全面的にサポートしてくれた。市は、コミュニティの変化や NGO の役割に合わせた対応をしている。以前は、市は traitor と思われていて懐疑的な見方をする人もいたが、今は変わってきている。ただし、この Association では、政治には介入しないようにしている。 ・D-HOPE のカタログはよくできているが、多くの住民はその便益を理解できていない。住民は direct benefit を求めている。これは戦争でスポイルされているためでもある。マーケティングのコンセプトが欠けている。 ・D-HOPE のカタログは MZ に配付している。カタログに掲載してほしいという人がまだいるので、活動を継続してほしい。カタログに連絡先が載っているため、これにより活動が継続できる。 ・信頼醸成はよいアプローチだが、信頼醸成を直接試みるというよりは、ニーズのある活動をしながらか対話の機会をつくったりするのがよい。 	

日 時	8 月 31 日 9:00～10:30
場 所	ブラトナツ市役所
面談相手	Mr. Nedeljko Mladjenovic, Mayor of Municipality Mr. Radenko Radovic, Head of Department of Economic and Social Affairs Mr. Vjekoslav Stevanovic, Head of Unit for Economy and Development Mr. Radvan Petrovic, Construction Engineer Mr. Vladan Milovanovic, Acting Head of Department of Economy and Development
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）

概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトは全般に順調。前プロジェクトの経験が、この市での活動にも生かされている。 ・住民のプロジェクトへのかかわりはよい。市民の関心は高まっている。 ・ブラトナツは、気候、土壌などがラズベリー栽培に適しており、これを活動にしたのは適切。MOA の戦略とも合致している。 ・JICA の支援によるラズベリーのパンフレットは 1,500 冊印刷して活用している。また、JICA の協力でラズベリー搬送のための道路を修復したことは、有効だった。 ・市では、ラズベリー・ナーサリーの会社を設立した。ナーサリーのオーナーは市で、市で運営資金を出しているが、徐々に市の負担を減らしていき、2 年くらいで independent に運営で 	

きるようにしていきたい。

- ・受益者選定や、入札のプロセスを transparent にすることに配慮した。ウェブサイトなども活用した。
- ・ラズベリーの苗の調達では、予定していたサプライヤーがもっと高い価格で他の人に苗を売ってしまうトラブルがあった。別の業者を探して調達したが、調達に時間がかかった。当初調達先として予定していた業者は、JICA 等の国際機関は、訴訟を起こすことができないのを知っていて、先に他の購入者に高値で売った。
- ・1 年目の本邦研修は選挙の関係で参加をキャンセルした。
- ・両民族が生産と一緒に参加することは信頼醸成に有用。
- ・市と市民のコミュニケーションはよい。市民が市にアドバイスを以前より頻繁に求めてくるようになった。

(この後、評価手順の説明)

日 時	8 月 31 日 9:30～11:00
場 所	ブラトナツツ市役所
面談相手	Mr. Salih Dubicic, Beekeepers' Association "Propolis" Mr. Omar Dubicic, Beekeepers' Association "Propolis" Mr. Marco Zivkovic, Beekeepers' Association "Kesten"
面談者	田中、Dejan 通訳 (同席：村田職員、Mr. Radenko Radovic)
概 要	
<ul style="list-style-type: none">・ Propolis は 2006 年に設立。会員 (membership fee を払っている人) は、以前は 35 名ほどだったが、JICA のプロジェクトが始まってから 55 名に増えた。うち女性は 2 名。会員は 65% がボシュニアク系、35% がセルビア系。・ Kesten は、紛争前からある団体で、面談者は 1985 年からメンバー。紛争後 1997 年に re-registration があった。ここ 2 年ほどの間に会員が増え、現在 90 名ほど。60% がボシュニアク系、40% がセルビア系。・会費は年 25KM。会費を払うと beehive を配付する。同じ業者が 2 件の Association に登録することもできるが、beehive の配付は一度だけ。・JICA との活動では、beehive、bee swarm、honey tree、機材等の配付を行った。養蜂 (蜂蜜) の需要は増えており、有望な分野。・活動は順調に進んでいる。・養蜂は気候に左右される。2014 年の洪水では巣箱が流された世帯もあった。2015 年はよかったが、2016 年は 4 月に遅霜があつて不作。こうした事情はある程度想定されるので、養蜂業者は 3 年単位くらいで計画を立てており、損害は最小限にとどまっている。・養蜂を専業で営んでいる業者は少ない。Kesten の会員のなかでは、専業は 1 名だけで、この人は 200 巣箱を所有している。・Association では、養蜂業者同士の情報交換をファシリテートしたり、beginner に技術指導したりしている。プロジェクトでの供与があつた際には、専門家からも支援があつた。養蜂業者 association 同士でも情報交換を行っている。・UNDP (地元の団体を通じての支援)、カリタス等からも支援を受けている。外部の支援なしでやっていくことは難しい。ファンドをとるためにどうするかを考えていくのが課題。・JICA の支援で生産が増えたので、この成長にのって対応していくことが重要。サラエボで販売できるようになるとよいが、輸送が問題。	

- ・ JICA の支援で Association はサービス・プロバイダーとしての役割を果たし、組織として強化された。

日 時	8月31日 10:30~12:00
場 所	ブラトナツツ市役所
面談相手	Mr. Radenko Radovic, Head of Department of Economic and Social Affairs Mr. Vjekoslav Stevanovic, Head of Unit for Economy and Developmnet Mr. Radvan Petrovic, Construction Engineer
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの活動は、ラズベリー、養蜂、インフラなど、いずれも順調に進んでいる。ラズベリーについては、受益者に応募する希望者が多かったことを受け、市でナーサリーの団体をつくった。 ・MZ との関係がよかったのは、成果を出せた要因。また、Association の存在も有益だった。Association はだれに苗を供与すべきかなどについて、適切な考えをもっていた。養蜂の Association もよいフィードバックをくれた。 ・受益者選定では、大家族、失業者、帰還者に配慮した。1年目の活動で選定からもれた人は2年目に受益者になれるよう配慮した。 ・インフラについては、application を募り、MZ と市民で priority の高いところを選んだ。橋の建設では、JICA が資材を提供し、市が費用を拠出し、コミュニティが作業を提供するという体制をとったが、これはオーナーシップの醸成に有用だった。参加しなければならないというマインドセットができた。 ・市の戦略文書については、今、年限の境目にあたっている。UNDP が策定を支援しているが、選挙で遅れている。市の計画では、農村開発は重点分野、特にラズベリーが戦略産品になっている。ラズベリーの従事者はセルビア系が多い。 ・受益者選定や活動が予定どおりに進んでいるか、市のスタッフが JICA と協働でモニタリングを行い、チェックしている。今のところ、大きな問題はない。 ・指標 3 の MOA との情報共有はうまくいっている。ラズベリーの専門家がアドバイスなどしている。 ・指標 2 については、助成金の申請は増えている。500kg 以上のラズベリー生産農家は助成金を申請できることになっており、生産高が増えているので助成金申請も増えているはず。助成金の申請は、市役所の担当クラークが仲介している。 ・本邦研修はよかった。D-HOPE は、コンセプトはよいが、新しいことなので、ここで実施するには時間がかかるのではないか。 ・活動を通じて、問題点を共有するために、人々のコミュニケーションが促進されている。MZ と住民のコミュニケーションも促進されており、問題の解決がより迅速にできるようになった。 	

日 時	8月31日 11:30~12:00
場 所	受益者自宅、ブラトナツツ市
面談相手	Mr. Savo Filipovic, Beneficiary（養蜂） Mrs. Marina Filipovic, Beneficiary
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員、Mr. Radenko Radovic）

概 要	
(注：夫婦で養蜂を営んでいる。受益者ということで面談したが、厳密にはプロジェクトの活動の受益者ではない。)	
<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦で長年この土地に住んでいる。帰還者ではない。12年ほど養蜂協会のメンバー。妻が勤めていた銀行が倒産し、兼業でラズベリー栽培もしている。 ・毎年開催されているフェア（ラズベリー業者、養蜂業者等が集まる）に、Association の紹介で参加し、JICA から提供された養蜂機材（分離機）を賞品にもらった。JICA との接点はこれのみ。 ・Association については、養蜂に必要なことについて話し合いをし、必要な機材の提供を受けることがある。Honey Wax を作る機材を供与され、これにより生産が上がった。 ・市役所から自宅が離れていることもあり、市役所にはあまり期待することはない。 ・同業者とは、仕事上のつながりがある。 ・養蜂では、販売の拡大が課題。 	

日 時	8月31日 12:30~13:00
場 所	受益者自宅、ブラトナツツ市
面談相手	Mr. Nijaz Osmanovic, Beneficiary (D-HOPE)
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員、Mr. Radenko Radovic）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・リンゴ、プラムなどの果樹栽培とその加工をしている。ジュース、ジャム、果実酢などを生産販売。前はスレブレニツァに住んでいたが、2002年からここに移住。この土地は紛争前からもっていた。 ・ブラトナツツの Regional Advisory Service のメンバーで、農業技術に関する助言をしている。ラズベリー栽培業者の Association のメンバーで、Association では、Women's Association や NGO 等他の団体とよい関係をもっている。 ・ラズベリーの Association を通じて D-Hope について知り、参加したいと思って市役所にコンタクトをとった。D-Hope のカタログを作るワークショップに参加した。知人にカタログを渡したり、フェイスブックにカタログのコンテンツを掲載したりしているが、まだビジネスにつながる反応はない。カタログの存在は知られるようになった。 ・ビジネスで難しいのは、初期投資の費用、また何に投資するかを考えること。 ・社会や民族の問題はよくわからないが、コミュニティでのコミュニケーションや異なるセクター間の協力はよくなっていると思う。民族間の信頼度は上がっている。プロジェクトのワークショップで両民族からの参加があるのはよい。 	

日 時	8月31日 13:30~14:00
場 所	Nursery 団体事務所、ブラトナツツ市
面談相手	Ms. Marina Jovanovic, Director, Raspberry Nursery Ms. Milena Gavric, Secretary, Raspberry Nursery
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員、Mr. Radenko Radovic）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・2015年10月にナーサリー団体が発足。市が80%の株をもっている。Director と秘書の2名のスタッフがいるが、市の職員ではない。主な業務は、ラズベリー生産の管理、生産ガイドラインの提供など。特に質の高い苗木を配付することが重要な使命。 	

- ・市内には 1,500 人ほどのラズベリー生産者がいる。世帯当たりの作付面積は 0.1～0.5ha だが、総面積は拡大している。この団体が発足して 1 年未満であるため、生産が増えたかどうかはまだわからない。ラズベリー生産は天候に左右されることが多いのが課題。
- ・市役所とはよい関係にあり、市役所を通じて JICA とコンタクトしている。
- ・ナーサリー団体は、市議会で開設が決定された。市の農業予算のなかで、市が 5ha の土地を購入、UNDP がフェンスと倉庫（現場事務所としても使用）を出資し、JICA がスイスから 13,500 株の種苗を購入した。これが 2016 年 40,000 株になる予定。苗木を増やし販売して将来利益が出れば、財政的に self sufficiency になる（今はスタッフ 2 名の給与を市が負担している）。スイスからの初期投資の苗はよかった。
- ・ナーサリー団体のことは、ラズベリーフェアやウェブサイト、ワークショップなどで広報している。栽培者からの反応はよい。Director が女性であることも好感されている。
- ・同様の団体をスレブレニツァでもつくろうとしているが、まだ計画段階。

（この後ナーサリーの現場を見学）

- ・標高 550m の場所にあり、この高度が栽培に適している。空気の流れがよく、isolate されている場所で疫病を防ぎやすいなど、土地の条件がよかった。
- ・栽培者には、まだ研修が必要。
- ・温室を建設中。

日 時	9 月 1 日 8:30～10:00
場 所	New Hope 事務所
面談相手	Ms. Slavica Leka Ms. Senka Zenik, Project Assistant
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1999 年設立。スレブレニツァで最初の NGO。初期の活動は図書室から始めた。当時は情報が限られており、市民が情報交換できる場が必要だった。2002 年頃から活動の幅を広げ、MZ との協力や市民が政府機関に働きかけをするためのファシリテーション、ビジネスプラン作成の支援、障害をもつ子どもとその親の支援等を行っている。事務所はショッピングセンターの中にあり、市民が訪問しやすい。 ・ 協力ドナーは、UNDP、米国大使館、オランダ大使館、スイス大使館等。 ・ JICA とは、牧草地再生で協力している。種の配付、住民の教育、リサーチなどを行った。 ・ 2014 年以前は、市役所と活発に会議をしていたが、2014 年以降は、市役所との会議は必要なときに行うだけになった。市役所がわれわれを使いたがらないようだ。 ・ 市役所が受益者の最終決定をしているが、必要な人に支援がいかないことがある。受益者の決定はファンドを出す人が行う方がよい。また、牧草地の活動では、種の供与を受ける前に住民が土地を準備することが求められているが、ヒツジのプロジェクトでは供与前に求められる準備はない。受益者負担にこのような違いがあるのも問題。受益者の負担が行われているかをチェックするのは市役所の役割。 ・ MZ は NGO を理解しており、MZ との関係に問題はない。 ・ 紛争後、「援助慣れ」しているのが問題。JICA のアプローチは、“teach how to work” である点が他とは違う。 ・ 市役所は、変わっていかうとしていない。2 年ごとに選挙があるのも問題。 	

- ・牧草地再生の活動では、ボシュニアク系もセルビア系も種を供与され、トラクターを共同で使った。果樹園の教育ワークショップには両民族が来ている。同じ課題を共有することで両民族がつながりをもつようになっている。
- ・牧草地は、家畜事業に必要なので、この活動はよかった。Ecological な面でもよい。
- ・受益者は、今後も活動を続けていけるだろう。ラズベリー栽培者は利益が出ている。ただし、最初の種苗を持っていない人は何もできない。牧草地再生も種を供与されないと始まらない。牧草地がいったん整備されるとメンテナンスはできている。
- ・ラズベリーのナーサリーはとてもよいコンセプト。今後は種苗を配付する受益者の選定や疫病の防止が課題になるだろう。

日 時	9月1日 10:30~11:30
場 所	OPZ 事務所、スレブレニツァ共同組合
面談相手	Mr. Ivan Todic, Director
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・紛争前からの活動を整理して 2002 年に現行の組織を立ち上げた。紛争で損害を受けたビルを改修して事務所になっている。 ・ラズベリー栽培者を特定し、苗を配付したり、栽培業者から産品を買って食品加工プロセスを仲介したり、さまざまな技術的助言を行う活動をしている。 ・JICA との活動では、スイスの業者から OPZ を通じて種苗を調達した。BiH では、登録された業者しか苗の輸入ができないため。調達プロセスには時間がかかった。 ・種苗を配付する受益者は、JICA がブラトナツツとスレブレニツァの市役所の bulletin board で募集した。MZ にも情報が回ってきた。スレブレニツァは援助慣れしているので“too relaxed”である。 ・活動を通じて、住民の経済的なキャパシティは向上した。 ・市役所のキャパシティが向上しているかは疑問。個人的にはよい人材がいる。人事異動が頻繁なことが問題。プロジェクトは、戦争で close になっていた人々に broad horizon をもたらした。日本に行った人は視野が広がった。 ・プロジェクトが信頼醸成に役立ったかはわからない。日々の暮らしで民族の軋轢は感じられない。テレビではしきりに民族紛争を報道しているが。 ・受益者の 80%は今後も彼らだけで活動を継続していけるだろう。果樹栽培は、価格変動、気候などさまざまな要因が関係しており、こうしたことがネックになってやる気をなくす人がいる。JICA で供与した種苗をもとに生産が順調に増えれば、かなりのインパクトになるはず。 ・給水プロジェクトは、住民のみんなが参加したことがよかった。JICA は第三者であるので、冷静にニーズを分析できる。 	

日 時	9月1日 14:30~15:30
場 所	Association 共同事務所
面談相手	Mr. Milila Malisic, President, Beekeepers' Association Mr. Radoslav Jankovic, Beekeepers' Association Ms. Nada Stica, Technical Secretary, Agricultural Association
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員、ロガティツァ市広報担当）

概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・2004年設立。40～50名の会員。プロジェクトで会員数が増えている。養蜂活動の支援、研修などを実施している。会員同士で知識の共有を図っている。 ・今後は養蜂の専従者を増やしていきたい。ログティツァの気候は養蜂に適している。 ・プロジェクトを通じ会員の知識も向上した。 ・JICAでは、ラズベリー栽培などを支援しているが、他のセクターとのリンクは養蜂にとって重要。例えば、果樹があると養蜂にとって必要な受粉の機会が増える。 ・養蜂には気候が重要な要因。前は気候でダメージを受けるとすぐやめる人が多かったが、JICAのプロジェクトでの技術的助言は有用だった。 ・受益者選定は、養蜂に意欲があること、社会的弱者（失業者含む）、蜂アレルギーがないこと、民族の割合などに配慮した。住民の関心は高く（前は養蜂はあまり注目されていなかったが）、昨年（2015年）は定員の3、4倍の応募があり、選定されなかった人からは不満もあった。 ・MZからの支援は特に必要としていない。 ・一緒に活動することで住民の協力関係は向上している。蜂（bee swarm）や薬品を交換したりしている。また、プロジェクトがメディアで報道されることで、より自発的に活動に取り組むようになっている。 ・会員のうち、10名ほどは50以上の巣箱を持っているが、30～40名は、もっと投資が必要。しかしながら、市からの助成金などはない。 	

日 時	9月1日 16:00～14:00
場 所	Association 共同事務所
面談相手	Mr. Slobodan Obrenovic, President, Fruit Growers' Association Mr. Milorad Ikonic, Member of Board of Association, Fruit Growers' Association
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員、ログティツァ市広報担当）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・2014年に設立した非営利団体。“non-ethnic base”をうたっている。セルビア系以外は帰還者が多い。Boardメンバー9名のうち2名が帰還者。 ・会員に、JICA及びその他の団体の支援による果樹の苗木や機材を配付している。受益者選定は、市役所、MZの会長、市の機関である Social Welfare Centerで行った。受益者は脆弱層が多い。 ・会員の多くは順調に生産を続けており、会員数は増えている。 ・民族間の軋轢は減ってきている。この Association でも役員会では両民族が隣の席に座り決定事項を検討している。OXFAMから供与された機材は両民族が共同で使っている。 ・ラズベリーの活動では、成果が上がると周囲の住民が興味をもち、栽培を始める。また住民の意識が向上するなどの成果も出ている。 ・2015年の秋には、ラズベリーの苗木が予定どおり届かなかった。業者が品質の悪い苗木を売ろうとしたので断り、後で調達させた。 ・この近隣の Association がプロジェクトのことを知り、関心を示している。 	

日 時	9月2日 7:00～9:00
場 所	ログティツァ市役所
面談相手	Mr. Tomislav Puhac, Mayor
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員、Mr. Darko Novakovic）

概 要	
<p>(市長の挨拶の後、市長と C/P に評価の説明。その後市長にインタビュー)</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの進捗はおおむね順調。地方自治体を強化している。地域のニーズにあっている。 ラズベリーの苗木の配付でトラブルがあった。JICA が訴訟を起こせないという法の抜け穴に乗じた悪質な業者だったが、JICA とともに対応することで大きな問題にはならなかった。 ログティツァは、都市部が少ないので、農村開発が重要。self-sufficient でない若い人が多い、帰還者に雇用の機会がないなどの問題を抱えており、プロジェクトはこうした課題に合致している。 市の開発政策は、国家レベルと基本的に同じ。これを市の状況に合わせて adapt したものの。 市では、小規模な活動をしている NGO はあるが、他のドナーはいない。 プロジェクトで市のキャパシティは上がった。ウシの供与で牛乳の生産量が上がるなど経済的に拡大している。市の能力も上がっており、多くの人に適切なアドバイスができるようになった。資機材の配付や調達をスーパーバイズするためのしくみができた。住民・市・MZ の関係が強化された。 例えば、養蜂の場合だと、Association で、beginner と advanced の人を分けて研修を行う。その際、必要に応じ市や MOA が技術的支援を行う。こうしたしくみがプロジェクトで強化された。 専門家は dedicated だった。 日本研修では、日本の経験など多くのことを学んだ。 受益者世帯の多くは、プロジェクトで基盤ができたが、経済的に完全に自立できるところまではいっていない。 	

日 時	9 月 2 日 9:00～10:30
場 所	ログティツァ市役所
面談相手	Mr. Darko Novakovic, Head of Department of Economic and Social Affairs/Project Coordinator Ms. Snezana Kanostrevac Cvijetic, Department of Economic and Social Affairs/Member of Project Coordinator
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）

概 要	
<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト運営体制では、MOA がいつも違う人を会議に送ってくるので、クレームして同じ人に来てもらうようにした。MOA は、Education and Extention Service の人が研修などを行った。受益者選定にもかかわった。 受益者選定は透明性を重視した。これまでのデータベースも活用し、他ドナーの受益者になったことのある人ははずす、両民族を一定の割合で含めるなど配慮した。土地がないとウシは供与できないので資産についても調査する。また、受益者候補リストを選挙に利用されないよう配慮した。受益者選定に関し、民族による不満はなかった（ただし、選定されなかった人からは一般に不満の声があがる）。 JICA と実施した活動は、ウシ、ヒツジ、ラズベリー、果樹、養蜂、インフラ、牧草地、D-HOPE。 D-HOPE は、農業、手工業、伝統芸能などの分野で potential champion を探し、インタビューした。カタログがほぼ完成している。 PDM の指標に関し、補助金は、大規模農業者を支援するもの。例えばウシなら 5 頭以上飼っ 	

ていると申請できるなど。JICA のプロジェクトとは必ずしも関係ない。プロポーザルについては、IFAD に関してはプロポーザルを受けつけるしくみがある。NGO がアプライするのを支援したことがある。

- ・本邦研修では、D-HOPE がよかった。タイでの研修も有益だった。他の職員にも経験をシェアした。
- ・プロジェクトで受益者選定などのシステムが構築された。
- ・受益者のなかにはまだ self-sufficient になっていない人もいる。専門家のスーパービジョンが必要。
- ・原爆展の開催はよかった。

日 時	9 月 2 日 12:00～13:00
場 所	Tourist Organization 事務所
面談相手	Mr. Nebojsa Golic, Director Mr. Nehad Gavranovic Ms. Dejana Neskovic
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・市が創設した NPO。市の補助金を受けている。スタッフは 7 名、うち 5 名が常勤。観光業の振興をめざす。土産品生産の振興も行っている。（注：同じ建物の 1 階が土産物ショップになっている） ・JICA の活動に参加することについては、C/P から聞いたが、その前から JICA については聞いていた。D-HOPE にかかわっているが、まだカタログが完成していない。カタログはプロモーションのよい手段と思われる。これまでも、メディアや、インターネット、パンフレットなどでプロモーションはしてきた。 ・観光業は、この地域で大きなポテンシャルがあるが、紛争でストップしていた。川、鍾乳洞など、観光資源は豊富。JICA のプロジェクトの影響ではないが、今年（2016 年）は観光客が急に増えた。交通の関係でロガティツァを通る車両が増加し、これらの人が観光地に寄っているのではないか。観光振興には、宿泊施設、観光地へのアクセスが問題。鍾乳洞は最近イタリア人が発掘した観光スポットだが、そこまで行く道がない。 ・市役所は何かあると助言をしてくれ、関係はよい。ワークショップなどを共同で実施する。 ・ラズベリー生産やウシによるチーズの生産など、さまざまな活動が観光と関連している。これを D-HOPE でつなげていきたい。 ・市役所では、毎年 4 月に public call を行い capital expenditure に関するプロポーザルを公募する。昨年（2015 年）この団体が提出したプロポーザルが 2016 年の予算計画に採用された。 ・この地域では職を求めて他地域に移住する人が多かったが、プロジェクトで養蜂などの生産活動を支援しているおかげで MZ に定住する人が多くなった。 ・信頼醸成については、個人ベースではよくわからない。紛争があれば、ビジネスは必ず影響を受ける。少しずつ状況はよくなっている。 	

日 時	9 月 2 日 14:00～14:45
場 所	受益者自宅（ロガティツァ）
面談相手	Ms. Zorica Sorak,（ウシ関連） Ms. Slava Vukasinovic,（ヒツジ関連）
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員、Mr. Darko Novakovic）

概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ Ms. Zorica は MZ 会長で、2014 年にウシを供与された。父親を早くに亡くし、夫は酒癖が悪かったので、シングルマザーとなる。紛争中もこの土地に住んでいた。ウシのほかに、果樹、野菜栽培などで収入を得ている。 ・ Ms. Slava は、夫が病気で働けない。ヒツジを供与され、今年（2016 年）2 頭を返却できた。他にチーズを作ったり、ブタを買ったりして生計を立てている。 ・ この地域は帰還者が多い。互いに協力しながら生活しており、同じワークショップに出席したり、互いに助言しあったりして連帯が強まっている。 ・ プロジェクトでウシを供与された後、衛生管理などについてレクチャーがあり参加した。一方ヒツジの供与者は、ワークショップに招待されなかった。ウシの供与者に比べるとヒツジは obligation が少ない。Ms.Slava は自分が病弱なので、それも考慮しヒツジを選んだ。 ・ 他の活動の受益者の話も聞くが、いずれもうまくいっている。若い世代が地元に着定するようになったのは大きい。JICA の活動は、供与の規模が大きく、他のドナーより受益者が多かった。 ・ (Ms. Zorica) 受益者のなかで、供与を受けた後うまくいかなかった人の例は、自分は聞いていない。ただし、ヒツジが死ぬケースはあった。仔ウシを産んだ後死んだ牝ウシもいた。 	

日 時	9 月 2 日 15:00～16:00
場 所	Association 共同事務所
面談相手	Mr. Nenad Planincic, President, Agricultural Association “Agropartner” Ms. Nada Stica, Technical Secretary, Agricultural Association “Agropartner”
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）

概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2014 年設立。この地域は農村地帯にもかかわらず、農業の Association がなかった。設立会議には 60 名が集まった。この団体が農業者の umbrella association となり、その後、Fruit Growers’ Association などが設立された。 ・ これまで donation を行うプロジェクトはあったが、個人では apply できないので、この Association ができた。JICA のほか、IFAD と MOA のプロジェクト、OXFAM などと協力している。 ・ JICA からは農機具の供与を受けた。ジャガイモ栽培、ウシ飼育などの農業者が利用している。 ・ 供与された機材は、メインのトラクターとアタッチメントからなる。供与機材は、Gucevo MZ の所定の場所におき、1 名が運用管理を行っている。利用するメンバーは、燃料などの実費程度の利用料を払う。機材は、農繁期には毎日使うが、それ以外は必ずしも毎日使うわけではなく、1 名の管理者で十分である。 ・ 機材の選定は、生産に必要なものはわかっていたので、これを managing board で承認した。 ・ コミュニティと、市、MZ の関係はよい。市、MZ は、プロジェクトについて必要なことを教えてくれる。問題があると市に相談している。市の担当者によってかわり方は異なるが、今の政権は市の最も重要なセクターとして農業を支援している。ただし、近々選挙があるが。 ・ 補助金は、MOA に申請すると受けられる。市に対して、牛乳生産についてプロポーザルを提出したことがあるが、結果を待っているところである。 ・ Association には、NGO と同様の規定が適用される。Cooperative になれば、利益を出すことが認められ、投資ができるようになるので、将来的には Cooperative にしていきたい。 	

日 時	9月5日 8:30~9:30
場 所	スレブレニツァ市役所
面談相手	Mr. Jovanovic Blagomir, Head of Local Office Skelani Mr. Vladan Milovanovic, Acting Head of Department of Economy and Development Mr. Bektic Bego, Head of Department of Social Affairs and Public Services Mr. Hasmir Mujcinovic, Veterinarian Inspector
面談者	田中、Dejan 通訳
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの進捗は順調だったが、まだ全部のニーズには対応できていない。市にはワールド活動用の車両がなかったので、専門家の車両を使用できたのはよかった。 ・JICA のプロジェクトにより、住民や関係者との新しいコミュニケーションができた。仕事のしかたも変わった。これによりポジティブな成果が生まれた。 ・各活動について、市でモニタリングを行っている。これは JICA のプロジェクトの特長。他のドナーの活動では、お金をくれた後結果はあまり気にしない。 ・前のフェーズでは、JICA が NGO と直接活動していたが、今は市役所がより関与しており、JICA はこれをモニタリングするような形になっている。 ・プロジェクトを通じ、個々の活動は実施できるようになった。組織能力としては、まだ十分でない。その理由は、車両などのインフラが不足していること、通常業務との兼合いが難しいことである。 ・今後活動を継続していくためには、市が予算を配分することが必要。 ・紛争前は、BiH において、スレブレニツァは、most advanced の市のベスト5に入っていた。今は、底辺にいる。農民人口が多いので、農業開発のためのインフラの拡充が必要。 ・日本は戦争の後、農村の復興を図り、今も発展を維持している。その経験は貴重。前プロジェクトで徳島県の「いろどり」プロジェクトを視察したが、そうした経験はここでも生かせるのではないか。 ・D-HOPE の活動は有効で、参加者全員が「チャンピオン」になれるようにしたいが、まだ2~3年はかかる見込み。 ・MOA の補助金は、ラズベリーなどの生産高に応じて配賦される。これにより生産がより拡大される。この補助金のしくみもあり、プロジェクトで生産が増加していることは、さらなる生産の増加につながるはず。 ・ラズベリーのナーサリーについては、運営について地元の組合と交渉中。ブラトナツツの経験は参考になるが、全く同じようにするつもりはない。2017年春までに運営体制を確立させたい。 ・プロジェクトの投入は適切だった。受益者をもっと増やしたい。 ・戦争の記憶はいまだ残っているが、ボシュニャックとセルビア系が情報交換などしているのはよい兆候。プロジェクトにより民族間のリンクができた。 ・全国の市からプロジェクトに関する問い合わせがあり、インパクトは全国に及んでいる。 ・紛争前は、2つの会社がコンセッションにより石炭鉱山を運営していたが、紛争後にこれがなくなったのは、スレブレニツァにとって打撃だった。スパも紛争前は重要な資源だった。これらの再開を進めたいが、political issue になっている。 ・Higher politics は依然として問題。洪水対策も政治の影響を受けた。 	

日 時	9月5日 10:00～11:00
場 所	SARA 事務所
面談相手	Ms. Valentina Gagic, Executive Director, Sara-Srebrenica
面談者	田中、Dejan 通訳

概 要

- ・（農業祭のあった週末が明けた月曜日に訪問）農業祭は予想以上の人が集まり、大成功だった。いまだにフェースブックで話題になっている。
- ・プロジェクトの活動としては、D-HOPE の戦略計画を策定しており、地域の人にアドバイスやコンサルティングを行っている。また、MZ の戦略ペーパー策定支援も行った。
- ・MZ の戦略策定支援は昨年（2015年）9月から、6MZ で実施した。地域には、さまざまなリソースが存在するが、地域の人々は、そうしたことに関する情報をもっておらず、イニシアティブも知識もない。戦略策定には女性や若者を巻き込んだ。会合を開き、SWOT 分析などを行って、戦略計画の形にしていく。参加したがる人もいたが、参加の度合いは徐々に高まっており、オーナーシップが醸成されている。できあがった戦略計画は、現実に即しており、質が高いといえる。
- ・MZ は市役所をあまり信頼していないので、信頼醸成は必要。住民と市役所の関係はかなり深刻なケースもあり、市役所は住民というリソースをもっとレスペクトする必要がある。JICA は住民に語りかける唯一のドナー機関だった。
- ・D-HOPE は非常に新しい概念だった。SARA ではワークショップを開催し、カタログのデザインを行った。「住民が何を提供できるか」に焦点を当てた。カタログが完成した後も、活動を見に行くなどのサポートを行う予定。日本のアンテナショップのようなものがあると効果的ではないか。それに市役所がスペースを提供するなどの支援をするとよい。
- ・JICA の支援は、財政面でも技術面でも有効だった。この後は、出口戦略をスムーズにするための支援をするとよい。
- ・これまで、女性は、地域の活動に消極的で、女性の社会進出をタブーとする風潮もまだ存在するが、SARA では女性の参加を奨励している。現在、この市には、19 の MZ に 98 名の役員がいるが、このうち 3 名が女性である。女性の会長はまだいない。

日 時	9月5日 12:00～13:00
場 所	Friends of Srebrenica 事務所
面談相手	Ms. Dragana Jovanovic, President, Friends of Srebrenica
面談者	田中、Dejan 通訳

概 要

- ・2005年設立。11名の常勤職員がいる。
- ・プロジェクトでは、PR 活動を支援した。JICA から必要な情報をもらい、3市の地域のラジオ局に素材を提供している。さらに、BiH 全国の他の地域にも、テレビで広報している。
- ・3市は小規模なので、市民はプロジェクトのことをよく知っている。全国の他の地域の反応は、この団体には伝えられていないが、関心を引いているようである。
- ・活動は順調だった。広報活動の実施にあたり市役所は協力的だった。メディアのカバーに対して、コミュニティからはよい反応が寄せられている。
- ・JICA は、住民から信頼されている。民族間のバランスに配慮しているのがよい。
- ・原爆展は、joint activity として支援した。若い人に情報を発信することは重要。
- ・（市役所のキャパシティについて意見を求めたところ）ブラトナッツはリーダーシップが確

立されている。スレブレニツァも向上を図っているが、まだ political な面が強く、農民との関係が複雑で、選挙で「票を買う」動きもみられる。Political でない支援が必要で、この点からも JICA のプロジェクトはよかった。

- ・市役所では、書類仕事が多すぎるのも問題。改善の動きはみられるが。
- ・民族間の関係は改善しているが、まだ外部から支援することが必要。

日 時	9 月 5 日 13:30～14:30
場 所	UNDP 事務所
面談相手	Mr. Nokhtar Ahdouga, PSD Advisor, Srebrenica Regional Recovery Programme
面談者	田中、Dejan 通訳
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・2002 年からセクター横断的な支援を行っている。当初は緊急支援だったが、次第に地域経済開発へとシフトしてきた。大きく 3 つのフェーズで実施してきており、現在最後のフェーズを実施中。2012 年以降は、持続性を重視し緊急支援は行っていない。 ・前の 2 フェーズでは経済開発に注力していたが、今のフェーズでは、経済開発クラスターのマッピングに加え、自治体のキャパシティ強化を行っている。 ・前のフェーズでは、社会インフラの整備が中心だったが、現在は経済の側面により焦点をあて、発電インフラ、インターネット強化、起業家支援などを行っている。 ・市役所のキャパシティは、個人によっては能力の高い人もいるが、institutional capacity が問題。ブラトナツは、以前は非常によかったが、今は political な影響が強く、ほとんどワースト。スレブレニツァも political な影響が問題。UNDP で、組織能力を強化していきたい。 ・今後は、民間セクターの活性化が重要。民間セクターが市役所に寄せる期待は大きい。官民の対話の促進や補助金の有効活用、投資の促進などが必要。助成金は、うまく活用すれば効果的だが、競争力を阻害する場合もある。 ・民族の融和は、経済活動を進めることで改善される。信頼醸成を市役所に依存するのはよくない。ブラトナツは、99 年頃は帰還者が来ることに反対する風潮が強かったが、インフラプロジェクトを進めるうちに、帰還者と前からいる住民との関係がよくなった。 ・JICA のプロジェクトでは、住民が共同で行う事業を実施しているのがよい。ラズベリー栽培などは技術的助言を行うことが効果的でないか。ブラトナツのラズベリー・ナーサリーはよいイニシアティブ。 ・EU は、「お金をつぎ込む」ことをポリシーにしている。JICA もこれに加担している（注：やや批判的なニュアンスだった）。ただし、ドナー機関にはそれぞれのモダリティがある。JICA はプロジェクトベースで、UNDP はよい包括的なシステム構築をめざしているので、相互に補完的な関係になっている。 ・ボスニアは、EU の地域でまだ competitive でない。ただし、ブルーベリーは他地域と収穫時期が異なっているなどの特徴を生かすなどすれば、質や多様性の面で競争力を強化していく道があるのではないか。長期的で包括的な取り組みが必要。 ・この地域でドナー会議はあまり開催されていない。ドナー会議により事業が成功した例はあまりない。必要に応じ情報交換すれば十分。それより当該国がイニシアティブをもってドナー調整することが重要。 	

日 時	9月5日 14:30～15:30
場 所	面談者自宅（スレブレニツァ）
面談相手	Mr. Salko Nukic, President, Beekeepers' Association OSAT
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2005年に設立。会員数は30名。面談者は、1997年頃高校生のときに趣味で養蜂を始め、2007年から事業として養蜂を行っている。5箱から始め、現在50の巣箱を扱う。養蜂協会の会長を務めるが、自身は今次プロジェクトの受益者でない。 ・ JICAのプロジェクトには2008年から参加。養蜂家の研修やミツバチの配付を支援している。受益者選定にもかかわった。ミツバチを配付された後、うまく事業を運営できなかった受益者もいたが、こうした人々は他にも事業をしていてモチベーションが低い人だった。養蜂専業の人を受益者にすればよかったのではないか。 ・ JICAから配付を受けたあと、事業を拡大していくのが難しい。拡大投資をしていけるかが課題。また、事業を開始したばかりの人は、銀行の融資を申し込めないのも問題。 ・ 養蜂事業の実施にあたり、市役所との関係はよかった。 ・ スレブレニツァには2つの養蜂組合がある。両者の違いは特にない。2つの組合同士の関係はよい。 ・ MZでは、ニーズに基づいて問題を話し合う。毎週火曜日には、市に問題を持ち込む機会がある。市役所との関係は紛争の前後で特に変わらない。 ・ スレブレニツァは、高度や自然環境が養蜂に適している。紛争の間は住民がいなくなったが、2003年頃住宅の修理が始まったときに、帰還者が戻ってくるようになったが、その後生計が厳しいことから帰還者が歩止まりした。スケラニ近辺は市の中心部から離れていることも地域開発が難しい要因。例えば、学校は5年生までしかなく、その後は市の中心部まで通学しなければならない。大きな病院も市街地にしかない。 	

日 時	9月5日 16:30～17:30
場 所	プロジェクト事務所
面談相手	Mr. Mujo Salihovic, President, Beekeepers' Association Skelanka
面談者	田中、Dejan 通訳（同席：村田職員）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2006年以設立。養蜂家の自助努力を促進し、養蜂サイクルを確立するのが協会の目的。 ・ 協会内の会員のコミュニケーションはよい。ボシュニアックとセルビア系の会員がおり、一時民族間の対立があったが、作業を続けるなかで関係がよくなった。 ・ プロジェクトは前のフェーズではNGOと直接活動していたが、今のフェーズではより「開発」に力を入れている。NGOは市役所の能力が低いと思っているので、JICAは市役所の業務をもっとスーパーバイズするとよい。 ・ 市役所の決定はバイアスがかかっている。職員はこの地域の専門家でないので、地域のことをよくわかっていない。養蜂に関する決定は、養蜂のフィールドですべきであって、市役所が決めることではない。例えば、受益者の選定などである。 ・ 蜂蜜工場の建設は、JICAが資機材を提供し、市役所が改装費用を払うことになっていたが、完成したのに、いまだに約束した費用が支払われていない。市役所が契約を守らないのは今回が初めてではあるが。この問題をだれにクレームするべきかもわからない。（注：蜂蜜工場は、改装工事がほぼ終了したところでまだオープンしておらず、支払い期日がどのように設 	

定されていたのかは不明)

- ・この問題以外でも、市役所の支援というものは存在していない。この地域では、political な動きにさまざまなことが影響される。(注：面談者は選挙に立候補予定ということで、今の市役所の動きに個人的な不満もあるようであった)
- ・2年前に日本の個人蜂蜜業者が蜂蜜を輸入したいと言って訪問したが、その後連絡がとれなくなった。(注：専門家によれば、この日本人業者は、訪問後連絡をとろうとしたが先方からの連絡がないと言ってきた、ということで、双方で手違いがあったと思われる)

(この後、蜂蜜工場の見学)

日 時	9月6日 16:00~17:00
場 所	面談者自宅 (スレブレニツァ)
面談相手	Mr.Almir Mumlnovic, Mushrooms (Previous phase)
面談者	田中、Dejan 通訳 (同席：三好チーフアドバイザー、村田職員)
概 要	
<ul style="list-style-type: none">・紛争中のことについて簡単に説明 (1993年までに全世帯がこの地域から避難。面談者の一家は95年にツヅラに移動。ここで父親と兄と別れる。2002年から地域で帰還開始)・JICAのことは、UNHCRを通じて知った。前プロジェクトでは、マッシュルーム栽培、薬草栽培などに参加した。・JICAの支援は有益だった。マッシュルームは新しい取り組みだったが、JICAの支援もあり生産できた。ハーブ栽培ではNGOと協力した。・例えば、サラエボの住宅再建プロジェクトでは、引き渡し後空き家になったままの住宅があったりしたが、JICAのプロジェクトでは、abuseを防止するための方策がとられている。・現在は、マッシュルーム栽培は行っていないが、野生のマッシュルームを採集して販売している。ハーブ栽培も行っていない。当時一緒に活動していた協会のメンバーがtake overしている。(注：メンバー同士で問題があった模様)・今次プロジェクトでは、母親がラズベリーの苗をもらい、栽培している。・受益者選定は、自分が知る限り問題はないようだが、若干abuseする人がいると聞いている。政治的影響も受けているようである。・ここ10年で民族間の人間関係は大きく好転した。Higher politicsが問題。・市役所のキャパシティは向上している。教育を受けた若い人やIT技術をもつ人が市役所に入ってきている。事業実施能力もついてきた。しかしながら、市民がプロポーザルをあげて市役所にファンドをもらうというパターンが多く、市役所がイニシアティブをもって住民をサポートするに至っていない。・JICAのプロジェクトで、今のフェーズでは市役所のかかわりが大きくなっており、これはよかった。・今後地域で必要なことは、市役所がもっと積極的に支援を行うこと。投資家を探すことも必要。また、加工業を推進して雇用を促進すること。ベリーを栽培するだけでなく付加価値をつけることが重要。この地域は成長のためのポテンシャルがいろいろあるはず。・農業祭には、出品を誘われたが、参加しなかった。	

日 時	9月8日 10:00～11:00
場 所	ログティツァ市役所
面談相手	Mr. Tomislav Puhalac, Mayor Mr. Darko Novakovic, Head of Department of Economic and Social Affairs/Project Coordinator
面談者	調査団：橋本、山岸 プロジェクトスタッフ：Nehad（通訳）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 支援は住民のニーズにマッチしており、住民の生活が改善された。 ・ D-HOPE には 300 名の住民が参加しており、住民同士のつながり強化に貢献している。 ・ 市役所は、公平性、透明性を保って受益者選定することを学び、それが組織内に定着している。選ばれなかった住民から不満が生じることもあるが、選出された住民がより支援が必要である実態を理解し、納得する。 ・ RS の MOA とは地理的に離れているため、コミュニケーションにギャップが生じることがあるが、プロジェクトにより改善された。 ・ セミナーやワークショップでは、ソクラツにある RS の普及局の技術専門家に協力を仰いでいる。 ・ JICA のさらなる支援に期待。 	

日 時	9月8日 10:00～11:30
場 所	ジェパ、ログティツァ
面談相手	受益者、MZ カウンシル長 帰還民コーディネーター、ログティツァ市
面談者	調査団：橋本、山岸 プロジェクトスタッフ：Nehad（通訳）
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェパには 120 世帯が年間通じて居住しており、夏のみ滞在する世帯が約 50 存在する。ジェパには病院がなく、冬は町へのアクセスが悪いため、年配の人は冬には町へ出る。 ・ 6 年生以上が通う学校が村に存在しないため、子どもが大きくなるとサラエボへ移る住民が多い。(90%) ・ ジェパの住民は紛争中に全員連邦などへ避難し、2000 年頃から帰還が始まった。現在でも帰還する人がいる。 ・ 遺族年金は連邦政府から支給されるが、ジェパ (RS) に居住していても受け取ることができる。 ・ 市役所の支援にとっても感謝している。(セルビア系主導の市役所との協力を全く問題ない) ・ JICA の支援で住民の生活が改善された。受益者選定は社会的ニーズとポテンシャルを MZ 長と確認して選出する。 ・ JICA は研修やセミナーを活用し、異なる民族同士が交流する機会を意識的に創出する方法をとっており、それが民族間のつながりの創出に貢献している。養蜂研修講師のセルビア人との関係が継続している。 ・ 避暑地、観光地となっている湖に、夏にはセルビア人、セルビア系ボスニア人もやってくる。民族を超えた交流に全く問題はない。 	

日 時	9月8日 15:00～16:00
場 所	プロジェクト事務所
面談相手	Mr. Jovanovic Blagomir, Head of Local Office Skelani
面談者	調査団：橋本、山岸、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・経済面では、ラズベリー生産量が JICA の事業開始時（前プロジェクト、2005 年）の年間 50～800t に増加した。これはひとえに JICA の支援の賜物。当初、スレブレニツァ市に存在しなかったラズベリーの冷凍工場が、現在では 4 つ機能している。ラズベリー産業は完全に自立発展性を維持していける状態になっている。 ・現在、市がラズベリーの苗床を立ち上げており、これが完成すればロガティツァ市にもサービスを提供できる。 ・前プロジェクトに比して、本プロジェクトでは、市役所の事業への関与が確実に増しており、C/P が受益者選定、事業モニタリングを積極的に実施している。 ・受益者選定は市役所が主導で、公平性、透明性を保つよう実施しているが、政治的影響を完全に排除できていない。選定委員会に市役所の各局代表が配置されており、その意向が影響する。 ・次善策として応募した住民のショートリスト化を JICA 独自でも実施し、市役所選定委員の作成するリストと比較し、選定を最終化する手段をとっている。 ・住民からの申請も 100%信頼できる情報ではなく、支援を得るために虚偽の申請をすることが多々ある。 ・（市役所が受益者選定にかかわることにより、より住民の市役所への不信感を招いているのではないかと問われ、）スレブレニツァ市には 50 対 50 の原則があり、2 つの民族でリソースを均等に配分している。その割合が守られる限り住民からの信頼は担保される。 ・D-HOPE により、住民の意識が生産から販売に変化してきている。 ・民族間の関係は、JICA の支援と時間が改善してきた。 ・JICA 以外のドナーは市役所の関与を求めず、物資を独自に配付してきた。例えば UNDP は 17 年間事業を実施しているが、その効果はほぼみられない。 	

日 時	9月9日 8:00～8:20
場 所	スケラニ幼稚園
面談相手	先生
面談者	調査団：橋本、山岸、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は小学校の下に位置づけられている。 ・先生はスレブレニツァ幼稚園と契約しており、3か月ごとに更新される。予算は市から出ている。 ・現在子どもの数は 13 名で、うち 1 名がボシュニアック。民族の別に関係なく子どもが通える環境。先生自身も子どもの民族を気にとめない。ボシュニアックは家庭で子どもを育てる習慣があるため数が少ない。 ・毎年子どもの数が減っている。昨年（2015 年）は 21 名。パイナバシュタをはじめとする他地域に若者が流出している。 	

日 時	9月9日 9:30～10:30
場 所	ブラトナツツ市役所
面談相手	Mr. Nedeljko Mladjenovic, Mayor of Municipality Mr. Radenko Radovic, Head of Department of Economic and Social Affairs Mr. Vjekoslav Stevanovic, Head of Unit for Economy and Development
面談者	調査団：橋本、山岸、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳

概 要

- ・15年間市長を務めている。
- ・過去の失敗から学び、良い事業が実施できている。JICAと市が協力して透明性を確保しており、それが住民に認知されている。
- ・JICAの事業開始時に経済開発局がニーズ・リソース調査を実施し、データベースを構築していた。ラズベリーが有望な投資産業だとわかっていた。いったん投資すれば、10～15年間利益が得られる。
- ・賃金の低い給与で働くよりもラズベリー栽培をしたいという若者が出てきた。
- ・2015年は2,000tだった生産量が2016年には4,000tとなった。次の5年で10,000tの達成をめざしており、3,000世帯が生産者となる見込み。
- ・ブラトナツツ市はBiHのラズベリー生産を牽引しており、存在する5台の冷凍施設の容量は生産量増加に対応できる。
- ・JICAの事業に課題があるとすれば、苗の調達方法である。JICAは業者に契約を破られても、裁判にかけられる権利がない。市とJICAが連盟で業者と契約することが有効。
- ・現在JICAの支援を得て、ラズベリーの苗床を建設中。あと2年ほどで完成する。
- ・ラズベリー農家への灌漑施設の設置支援をWBのローンを活用して行う。RSのMOAがWBから融後を受け、そのうち15%を市が、残りをRSが返すことになっている。RSの63市からブラトナツツを含む3市が本支援の対象として選出されている。
- ・JICAの支援を得て作成したラズベリー栽培マニュアルは素晴らしい。

日 時	9月9日 10:30～11:30
場 所	スレブレニツァ市役所
面談相手	Ms. Biljana Rakic, Deputy Mayor Mr. Bektic Bego, Head of Department of Social Affairs and Public Services
面談者	調査団：橋本、山岸、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳

概 要

- ・失業率が高く農業の重要性が高まっている。農村に戻り農業を始める若者がいる。
- ・人口の8割が農民でありJICAの支援は住民のニーズに合致している。
- ・JICAの事業は受益者負担を要求しコミットメントを引き出す、また受益者の活動をモニターすることから支援の悪用を抑制している。
- ・スレブレニツァ市の経済状況はBiHの他市となんら変わらない。問題は市内政治。

日 時	9月9日 12:00～12:30
場 所	ポトチャリプレイルーム
面談相手	先生2名
面談者	調査団：橋本、山岸、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・27名が通っており、すべてボシュニアック。地域にボシュニアックが多いためだが、昨年（2015年）まではセルビア系も通っていた。 ・子ども1人に1カ月120KM必要であり、50%を市が、残りの50%を親が支払っている。 ・先生の給与は市から支給される。 	

日 時	9月9日 13:00～13:30
場 所	スレブレニツァ市役所
面談相手	Mr. Milos Milovanovic, Chairman of Srebrenica Assembly
面談者	調査団：橋本、山岸、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・スケラニ地域限定で実施していた JICA の事業を Viogor 村にももってくるために尽力した者の1人。 ・JICA の事業の住民のニーズに合致しており、また市役所、MZ と協力し透明性を保って実施されていることを評価。 ・政治的決が図られないことによる課題がいくつか存在するが、経済状況に関しては、スレブレニツァ市が BiH の他の市と比して特に多くの課題を抱えているわけではない。 ・経済状況を改善することにより、政治的プロパガンダに対する住民の耐性を強化することができる。貧困状態にある人間は操られやすい。 ・昨今では7月10日にセルビア系の慰霊祭を実施し、ボシュニアックに限らずすべての紛争被害者を慰霊している。 ・市内に住む人間により市が導かれるべき。市議会メンバー22名のうち固定資産税を支払っているのは5名だけ。その他は市外に居住している。固定資産税は4～5年前に導入され、市役所の予算の一部を形成している。自然資源にかかる税は Entity に収められ、その他の税は市に収められる。 	

日 時	9月10日 10:00～10:30
場 所	ブレザニ村
面談相手	President, Brezani MZ
面談者	調査団：橋本、山岸、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳
概 要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ブレザニ MZ は、灌漑、ラズベリー栽培、ブルーベリー栽培、乳牛飼育、ヒツジ飼育などに関する JICA 支援を受けている。(JICA の事業で) 市役所がラズベリーの苗配付の告知を掲示板、ウェブサイト上で行っていることを知っている。 ・市役所のサービスには満足していない。10年前から要請している MZ 内道路が修繕されない。 ・JICA の支援により MZ の開発計画を作成するワークショップに参加した。オスマッチ村のボ 	

シュニアック（ブレザニ村はセルビア系住民が居住）とともに作成。計画のなかでも道路修繕と MZ オフィスの建設が第一のプライオリティ。

- ・オスマッチ村の住民と村間を行き来しており、コミュニケーションに問題ない。
- ・ラズベリーの回収業者はセルビア系、ボシュニアックともに存在する。ブレザニ村には主にセルビア系の業者が買い付けにくるが、ボシュニアックの業者も入ってくる。売り先は業者の民族ではなく、買い取り価格で決定する。

日 時	9 月 10 日 11:30～12:30
場 所	スーチェスカ村
面談相手	Mr. Zulfo Salihovic, Counselor of Srebrenica Assembly 受益者 1 名
面談者	調査団：橋本、山岸、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳

概 要

- ・ JICA の事業は実質的で村の発展に大きく寄与した。特に牧草地の再生、灌漑、給水施設の設置、農業用資材の配付の貢献は大きい。
- ・ スレブレニツァにジャガイモの加工場が新しく建設され、ジャガイモ栽培にも将来性がある。工場にジャガイモを販売するには協同組合を形成しなければならないが、市役所の協力が必須で時間がかかっている。また、工場からの住民への支援はなく、肥料、種イモへの 2,000～3,000KM の初期投資が必要であり、一般住民には困難。JICA の支援がほしい。
- ・ JICA に、きちんとモニターしながら事業を実施するという仕事の仕方を市役所職員へ教えてほしい。
- ・ 市役所の農業活動予算は過去 3 年変化なし。インフラ工事にかかる予算の少なくとも 3 分の 1 は abuse されており、そこを改善すれば農業用予算増加の余地あり。市議会に農業用予算を 3 倍にするよう要求している。
- ・ 市議会は、セルビア系政党の SNSD（独立社会民主同盟）とボシュニアック政党の SDA（民主行動党）が大半を占めており、当人の所属する SDP（社会民主党）は 2 名しかおらず、市議会での影響力が小さい。SNSD と SDA は行政を改善する意思をもたず、現状を維持することにより住民を煽り自分たちが便益を得ることしか考えていない。市議会議員は教育を受けていない人間ばかり。
- ・ セルビア政府よりインフラ予算 400 万 KM と復興予算 400 万 KM がスレブレニツァ市に贈与された。このお金は、使い道は決まっているが、受益者は選ばない。
- ・ 年間の市役所予算は 500～600 万 KM でうち農業用予算は 20 万 KM。市役所予算の 60% は VAT からであり RS からくる。10～15% が証明書発行などの手続き料、5% が建設許可証の発行、その他の 1,500 万 KM 程度が鉱山、森林・水資源などの利用税。ほかに連邦政府からの寄付が存在する。

日 時	9 月 12 日 9:00～9:30
場 所	RS の MOA
面談相手	Mr. Boris Pasalic, Assistant Minister
面談者	調査団：橋本、山岸、平島、田中、村田職員（同席） Dejan 通訳

概 要

- JICA の協力に感謝。帰還した住民の生活支援と住民間の関係構築は現地のニーズに合致している。
- 当人は農業アドバイザーサービスを担当しており、RS に 7 カ所存在する地域事務所を管轄している。そのうちソコラツ事務所とビエリナ事務所がプロジェクト実施に協力してきた。
- 農業は BiH で重要なセクター。年間 28 億 KM の農産物を輸入している。12 の農業関連の省、8 の教育機関が存在する。またさまざまな関連組織が存在するが、相互の協力がみられない。
- JICA は住民レベルでの協力関係を促進した。これはハイレベルの関係構築のモデルとなり得る。
- JICA が支援したラズベリーと乳牛飼育は有望なセクター。ラズベリーの輸出量は毎年増加している。牛乳は、欧州での生産量が低下しているのに対し、RS では過去 5 年間、年間生産量 1 億リットルの生産を維持している。
- RS に 62 か 63 の市が存在し、7 つの地域事務所がアドバイザーサービスを提供している。スタッフは総計 75 名。25 台の車両を保有。
- 住民や市の農業エンジニアへ研修を提供するとともに、分析サービスなどを無料で行っている。
- 本プロジェクトが成功裏に実施され、終了を迎えることを理解。現状のニーズに合致した新規事業を要請する。

3. Project Design Matrix (PDM)

Annex I Project Design Matrix (PDM)

Project Title: The Project for Confidence-Building through Rural Development
Target Area: Bratunac, Rogatica, Srebrenica
Target Group: Bratunac Municipality, Rogatica Municipality, Srebrenica Municipality
Final Beneficiary: Returnees, Families with war victims, Single parent households, Poor, Small farmers
Implementation Schedule: January 2014 to March 2017 (3 years 2months)

9 th December 2013 Ver.1			
Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal Confidence-building among the target population is promoted through strengthening the system of agricultural and rural development with inclusiveness and fairness.</p>	<p>1. Positive awareness changes of target population</p>	<p>1-1 The result of the beneficiary survey and information collected on good practices in the target areas. 1-2 Monitoring report</p>	<p>· Extreme natural disasters do not occur in target areas.</p>
<p>Project Purpose Implementation system for inclusive and fair community development is strengthened in each target area.</p>	<p>1. The number of cases and types of agricultural and rural development activities initiated by the municipalities are increased by the end of the Project period. 2. Satisfaction of community people in the target areas increased with public services (agricultural support, information service, others) relating to community development. 3. The income of the targeted population is increased.</p>	<p>1 The annual reports of the Project activities by related organization 2 Monitoring report 3-1 Financial and monitoring reports of the related organization 3-2 The result of the beneficiary survey on income</p>	<p>· Budget allocation of the fund by RS MOA to Municipalities is maintained.</p>

<p>Outputs</p> <p>1 Agricultural and rural development activities for improved livelihoods are implemented based on community needs.</p> <p>2 Institutional capacities of the target municipalities in supporting agricultural and rural development are strengthened.</p> <p>3 Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA</p>	<p>1-1. The number of activities implemented by the Municipalities and related organizations such as MZs and NGOs</p> <p>2-1. The number of applications for "subsidies" from the target areas to RS MOA is increased.</p> <p>2-2. The number of "project proposals" by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased.</p> <p>2-3. The number of approved proposals from the target areas is increased.</p> <p>2-4. Information of agriculture and rural development is collected and recorded by each Municipality.</p> <p>2-5. Information dissemination activities are conducted by Municipalities at least once a year.</p> <p>3-1 Reporting and sharing information to RS MOA at regular basis.</p>	<p>1-1 The activity plans and reports by related organizations</p> <p>1-2 Monitoring report</p> <p>2-1. Record kept by Municipalities</p> <p>2-2. Record kept by RS MOA.</p> <p>2-3. Record kept by RS MOA.</p> <p>2-4. Project information record by Municipalities</p> <p>2-5. Report of information dissemination activities by Municipalities</p> <p>3-1. Progress report</p> <p>3-2. Mid-term review report</p>	<p>The policy of agricultural and rural development by target Municipalities and RS MOA is not changed drastically.</p> <p>Price of agricultural products and commodities in Bosnia and Herzegovina are stable.</p>
---	---	--	---

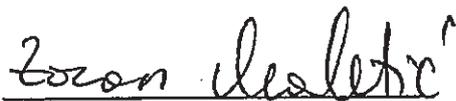
Inputs	
Japan	Bosnia and Herzegovina
<p>Activities</p> <p>1-0 Baseline survey is conducted for the target Municipalities (except Srebrenica)</p> <p>1-1 Municipalities and communities of the target areas identify useful local technologies, personnel and resources.</p> <p>1-2 Municipalities and communities of the target areas plan and implement agricultural related income generation activities (e.g. small-scale projects including herb production/processing, pasture production, honey production etc.).</p> <p>1-3 Municipalities identify, formulate, and implement agricultural and rural development activities and livelihood improvement activities, which are effective to promote confidence-building among communities.</p> <p>1-4 People and community organizations of the target areas are involved in the Project activities and transfer their know-how of the agriculture and rural development to others.</p> <p>1-5 Municipalities and community conduct monitoring activities.</p> <p>2-0 Baseline survey is conducted.</p> <p>2-1 Municipalities submit project proposals for agricultural and rural development to RS MOA.</p> <p>2-2 Municipalities facilitate and provide necessary support to farmers for preparing project proposals and applications for subsidies.</p> <p>2-3 Municipalities provide information to all farmers equally and fairly.</p> <p>2-4 Municipalities collect and record information of cases, good practice, and lesson learnt on agriculture and rural development.</p> <p>2-5 Municipalities disseminate information in local society for sharing the experiences and lessons of the Project.</p> <p>3-1 Municipalities report project activities to RS MOA regularly.</p> <p>3-2 Dissemination seminar is conducted at the end of the Project.</p>	<p>1. Japanese experts</p> <p>(1) Chief Advisor: Regional Development/ Peace Building,</p> <p>(2) Project Coordinator: Rural Development/ Agriculture,</p> <p>(3) Other experts in the specific fields of technology transfer may be dispatched, if necessary.</p> <p>2. Equipment for the project</p> <p>3. Project Expense</p> <p>4. Training</p>
	<p>1. Counterpart from Municipalities and Ministry</p> <p>(1) Project Director</p> <p>(2) Project Managers</p> <p>(3) Project Coordinator</p> <p>(4) Technical Counterpart Personnel</p> <p>2. Office space and necessary facilities</p> <p>3. Cost for Utilities</p> <p>- Necessary expenses in relation with the activities by the counterparts</p> <p>- Running cost of the office space (lighting and heating expenses)</p>
	<p>Natural disasters (i.e. drought) do not occur in the target areas.</p> <p>Damage to crops by diseases and harmful insects do not occur largely in the target areas.</p>
	<p>Preconditions</p> <p>The related organizations and the targeted people participate in the project.</p> <p>Security condition is stable in the target areas.</p>

**MINUTES OF MEETINGS BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY AND
THE AUTHORITIES OF BOSNIA AND HERZEGOVINA CONCERNED OF
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
“THE PROJECT FOR CONFIDENCE-BUILDING THROUGH RURAL DEVELOPMENT”**

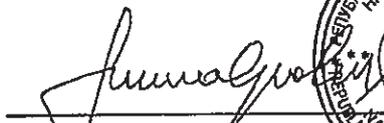
The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”) organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “the JICA”), headed by Keiichi HASHIMOTO, visited Bosnia and Herzegovina from 28th August, 2016 to 16th September, 2016 and conducted an analysis of the progress and achievements of the project for Confidence-Building through Rural Development (hereinafter referred to as “the Project”) and developed recommendations jointly with Bosnia and Herzegovina authorities concerned.

The results of the analysis were encapsulated in the Summary Report of the Terminal Evaluation on the Project (hereinafter referred to as “the Report”) attached herewith. The Bosnia and Herzegovina side and the Team agreed on its contents.

Srebrenica, 14th September, 2016

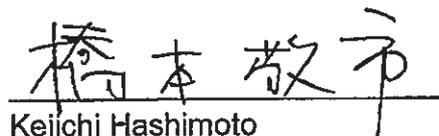


Zoran Maletić
Assistant Minister
Ministry of Agriculture, Forestry
and Water Management
Republic of Srpska



Nedeljko Mladenović
Mayor
Bratunac Municipality

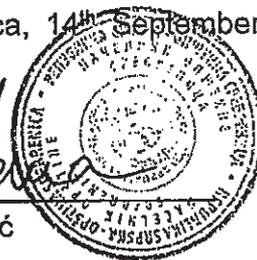


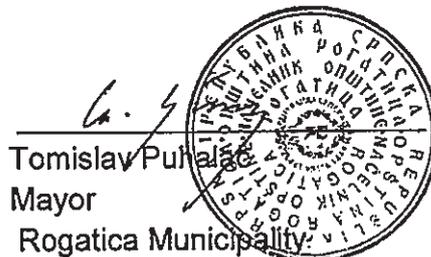


Keiichi Hashimoto
Leader
Terminal Evaluation Team

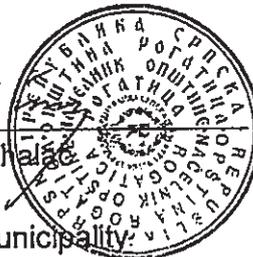


Camil Duraković
Mayor
Srebrenica Municipality





Tomislav Puhalać
Mayor
Rogatica Municipality



**ZAPISNIK SA SASTANKA IZMEĐU
JAPANSKE AGENCIJE ZA MEĐUNARODNU SARADNJU I
VLASTI BOSNE I HERCEGOVINE U VEZI SA
JAPANSKOM TEHNIČKOM SARADNJOM ZA
“PROJEKAT IZGRADNJE POVJERENJA KROZ RURALNI RAZVOJ”**

Japanski tim za krajnju evaluaciju (u daljem tekstu “Tim”) organizovan od strane Japanske agencije za međunarodnu saradnju (u daljem tekstu “JICA”), koga predvodi Keiichi HASHIMOTO, posjetio je Bosnu i Hercegovinu od 28.08.2016 do 16.09. 2016 i analizirao napredak i dostignuća Projekta za Izgradnju povjerenja kroz ruralni razvoj (u daljem tekstu “Projekat”) i osmislio preporuke zajedno sa relavantnim bosanskohercegovačkim vlastima.

Rezultati analize su objedinjeni u rezimeu izvještaja krajnje evaluacije Projekta (u daljem tekstu “Izvještaj”) u prilogu. Bosanskohercegovačka strana i Tim saglasni su sa sadržajem dokumenta.

Srebrenica, 14.09.2016

Zoran Maletić

Zoran Maletić
Pomoćnik Ministra
Ministarstvo poljoprivrede, šumarstva
i vodoprivrede
Republika Srpska

Nedeljko Mladenović

Nedeljko Mladenović
Načelnik
Opština Bratunac

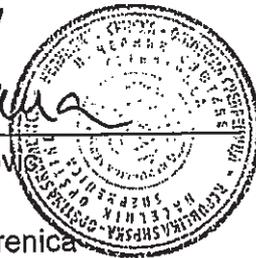


橋本敬市

Keiichi Hashimoto
Vođa
Tim krajnje evaluacije

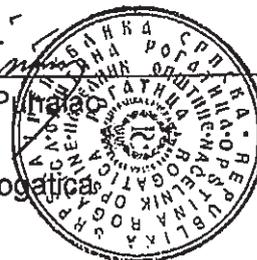
Ćamil Đuraković

Ćamil Đuraković
Načelnik
Opština Srebrenica



Tomislav Puharić

Tomislav Puharić
Načelnik
Opština Rogatica



JOINT TERMINAL EVALUATION REPORT

PROJECT FOR CONFIDENCE-BUILDING THROUGH RURAL DEVELOPMENT

**AGRICULTURE POLICY AND INTERNATIONAL COOPERATION,
MINISTRY OF AGRICULTURE, FORESTRY AND WATER MANAGEMENT
BRATUNAC MUNICIPALITY
ROGATICA MUNICIPALITY
SREBRENICA MUNICIPALITY**

**REPUBLIC OF SRPSKA
BOSNIA AND HERZEGOVINA**

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

14 SEPTEMBER 2016

Table of Content

List of Abbreviations	
1 Objectives and Procedure of Terminal Evaluation	1
1-1 Objectives.....	1
1-2 Procedure	1
1-3 Analyzed Issues.....	1
1-4 Members of Evaluation Team	2
2 Outline of the Project	3
2-1 Project Design Matrix (PDM).....	3
2-2 Project Period, Target Areas and Related Organizations	4
3 Achievement	4
3-1 Inputs	4
3-2 Activities.....	5
3-3 Outputs.....	5
3-4 Project Purpose	9
3-5 Overall Goal	10
4 Implementation Process	10
5 Evaluation Based on Five Evaluation Criteria	13
5-1 Relevance	13
5-2 Effectiveness	14
5-3 Efficiency	16
5-4 Impact	18
5-5 Sustainability	19
6 Conclusions	21
7 Recommendations and Lessons Learned	21
7-1 Recommendations	21
7-2 Lessons Learned.....	22

<Annexes>

Annex 1	PDM
Annex 2	PO
Annex 3	Schedule of the Terminal Evaluation Study
Annex 4	List of Counterpart personnel assigned
Annex 5	List of Japanese Experts dispatched
Annex 6	List of participants of Training in Japan
Annex 7	List of equipment supplied by Japanese side
Annex 8	Local cost by Bosnia and Herzegovina side
Annex 9	Local cost by Japanese side
Annex 10	List of beneficiaries
Annex 11	List of Seminar, Workshop, and Training
Annex 12	List of Manual and Catalogue

List of Abbreviations

BiH	Bosnia and Herzegovina
C/P	Counterpart
D-HOPE	Decentralized Hands-On Program Approach
EU	European Union
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
KM	Convertible Mark
MOA	Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management
MZ	Local community (original in local language)
NGO	Non-Governmental Organization
ODA	Official Development Assistance
PDM	Project Design Matrix
PO	Plan of Operation
R/D	Record of Discussions
RS	Republic of Srpska

1 Objectives and Procedure of Terminal Evaluation

1-1 Objectives

The Japanese Terminal Evaluation Team, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Dr. Keiichi HASHIMOTO, conducted the terminal evaluation of Japanese technical cooperation “Project for Confidence-Building through Rural Development” (hereinafter referred to as “the Project”).

Terminal evaluation of projects is usually conducted about six months prior to the termination of the projects. The evaluation aims at examining the achievements and process of the project. Based upon its results, evaluation is conducted in accordance with five evaluation criteria designated by JICA’s project evaluation guideline, then recommendations and lesson learned are discussed.

The terminal evaluation was conducted jointly by Japanese terminal evaluation members and Bosnia and Herzegovina (hereinafter called BiH) terminal evaluation member (hereafter “the Evaluation Team”).

The objectives of the evaluation are the following:

- a) To review the conducted activities and outputs of the Project;
- b) To analyze the progress and achievements based on the Project Design Matrix (PDM) and five evaluation criteria (relevance, efficiency, effectiveness, impact, and sustainability) and to prepare Joint Terminal Evaluation Report, and;
- c) To provide recommendations for the Project and lessons learned to be adapted for similar technical cooperation by JICA.

1-2 Procedure

The Evaluation Team conducted literature review and questionnaire surveys, and interviewed the BiH counterpart (C/P) personnel, the Japanese experts and other organizations and persons related to the Project. The Evaluation Team had a series of discussions among the Evaluation Team members and with relevant parties. The Evaluation Team analyzed the results of the surveys and reviewed the Project. For the details of the schedule of the terminal evaluation, see Annex 3.

1-3 Analyzed Issues

The Evaluation Team analyzed i) achievement of the Project, ii) implementation process and iii) issues based on five evaluation criteria.

(1) Achievement

Achievement of the Project, or Project performance up to the present, was measured in terms of Inputs, Outputs, Project Purpose, and Overall Goal in accordance with the Objectively Verifiable Indicators of the PDM.

(2) Implementation Process

Implementation process of the Project was reviewed from the various viewpoints, such as project management system, communication, and recognition/participation of the target group, to see if the Project has been managed properly as well as to identify promoting and/or inhibiting factors that have affected the implementation process.

(3) Evaluation based on the Five Evaluation Criteria

The Evaluation Team also assessed the Project from the viewpoint of the following five evaluation criteria.

Criteria	Definition
Relevance	A criterion for considering the validity and necessity of a project regarding whether the expected effects of a project (or project purpose and overall goal) meet with the needs of target beneficiaries; whether the contents of a project is consistent with BiH policies and with Japanese Official Development Assistance (ODA) policies; and whether project strategies and approaches are relevant.
Effectiveness	A criterion for considering whether the implementation of project has benefited (or will benefit) the intended beneficiaries or the target group.
Efficiency	A criterion for considering how economic resource/inputs are converted to results, including the relationship between project cost and effects.
Impact	A criterion for considering the effects of the project with an eye on the longer term effects including those direct or indirect, positive or negative, and intended or unintended.
Sustainability	A criterion for considering whether produced effects continue after the termination of the assistance.

1-4 Members of Evaluation Team

Bosnia and Herzegovina side:

Mr. Vladislav TRIFKOVIC Head of Department for Agriculture Policy and International Cooperation
Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management of Republic of Srpsk

Mr. Vladan MILOVANOVIC Director of Department of economy and development,
Srebrenica Municipality

3. Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA

2-2 Project Period, Target Areas and Related Organizations

(1) Project period

January, 2014 to March, 2017 (3 years and 2 months)

(2) Target group

Target group: Bratunac Municipality, Rogatica Municipality, Srebrenica Municipality

Final beneficiaries: Returnees, Families with war victims, Single parent households, Poor, Small farmers

(3) Target area

Bratunac, Rogatica, Srebrenica

3 Achievement

3-1 Inputs

Inputs from both the BiH and Japanese sides, from the start of the Project until the time of the terminal evaluation, were implemented as described below.

3-1-1 Bosnia and Herzegovina Side

(1) Appointment of Counterpart (C/P) Personnel

A total of 18 C/P members are allocated at the Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management, Republic of Srpska (hereinafter called RS MOA) and three Municipalities. For the details, see Annex 4.

(2) Expenses

Cost for necessary expenses such as utilities for project office and materials for workshops were born by the BiH C/P organizations. In addition, materials and expenses necessary for implementation of agricultural and rural development activities were born by the C/P organizations. For the details, see Annex 8.

(3) Offices and facilities

Office space for the Project was offered at the Skelani Local Office of Srebrenica Municipality.

3-1-2 Japanese Side

(1) Dispatch of Japanese Experts

Two long-term experts are dispatched. In the initial stage of the Project, one of the long-experts, the Chief Advisor, was dispatched twice on a short-term basis. In addition to the long-term expert, one short-term expert of community design was dispatched. For the details, see Annex 4.

(2) Training in Japan

Training in Japan was conducted in 2014 and 2015. In 2014, six C/P members participated in the training. In 2015, seven C/P members participated in the training course as well as one project local staff as a coordinator. In the training course held in 2015, visit to Thailand was included. For the details, see Annex 5.

(3) Equipment supply

Equipment necessary for project activities was supplied by the Japanese side, including agricultural equipment and a vehicle. The materials and equipment necessary for rural development activities were also supplied. For the details, see Annex 7.

(4) Expenses

Necessary cost for the Project was disbursed as planned. For the details, see Annex 9.

3-2 Activities

Activities were implemented as planned based on PDM and PO.

3-3 Outputs

The Team confirmed that Outputs are produced as following. The details are shown below.

Output 1: Agricultural and rural development activities for improved livelihoods are implemented based on community needs.

Indicator
1-1. The number of activities implemented by the Municipalities and related organizations such as MZs and NGOs

1-1 The number of activities implemented by the Municipalities and related organizations such as MZs and NGOs

The following activities for agricultural and rural development were implemented in cooperation

among C/P organizations, Japanese experts, and related NGOs/associations/cooperatives. Approximately 2,500 people were benefitted through agricultural and rural development activities in total. In addition, there are more beneficiaries of activities for community in common, such as grass restoration and agricultural machines. In selection of beneficiaries, the Project took careful considerations to the ratio of ethnicities. For the details of the beneficiaries, see Annex 10.

Table 1: Activities implemented in the Project

Municipality /year	2014		2015		2016*	
	Activity	No. of beneficiary	Activity	No. of beneficiary	Activity	No. of beneficiary
Bratunac	Raspberry	159	Raspberry	84		
	Black berry	11	Beekeeping	33		
	Small infrastructure	20 sites	Small infrastructure	16 sites		
	(Total)	(170)		(117)		
Rogatica	Fruit trees	43	Fruit trees	45		
	Grass field	56	Raspberry	32		
	Beekeeping	20	Beekeeping	20		
	Cow	40	Cow	40		
	Sheep	20	Calf	36		
	Small infrastructure (Irrigation, water supply, access road, bridge)	2 sites	Sheep	20		
	Agricultural machines	2 sets	Small infrastructure (Irrigation, water supply, access road, bridge)	3 sites		
(Total)	(179)	(Total)	(193)			
Srebrenica	Raspberry	130	Raspberry	74	Raspberry	70
	Blackberry	30	Green house	69	Blackberry	
	Green house	69	Vegetable seeds (Tomato, Paprika, Cucumber)	2 nurseries	Green house	
	Vegetable seeds (Tomato, Paprika)	2	Vegetable seedlings	20 x 2	Vegetable seeds (Tomato, Paprika, Cucumber)	
	Vegetable seedlings	40	Beekeeping	16	Beekeeping	16
	Beekeeping	16	Small infrastructure (Irrigation, water supply, etc.)	13 sites (incl. drainage, school rehabilitation)		
	Small infrastructure (Irrigation, water supply, etc.)	13 sites (incl. drainage, school rehabilitation)	Sheep farming 1	10	Small infrastructure (Irrigation, water supply, access road, bridge)	10 sites
	Sheep farming	10	Sheep farming 2	14	Sheep farming	10

	Fruit trees (apple, pear, plum)	50	Cattle farming	20	Cattle farming	3
	Training on Fruit trees pruning	58	Fruit trees (apple, pear, plum)	50	Fruit trees (apple, pear, plum)	50
	(Total)	(405)	(Total)	(293)	(Total)	(149)
Others (Bratunac and Srebrenica)	Grass field restoration	640	Grass field restoration	393		
	2014 Grand total**	1,394	2015 Grand total	996	2016 Grand total	149

* Confirmed No. of beneficiaries at the time of the terminal evaluation.

** No. of beneficiaries for materials to be used in common such as small infrastructure and agricultural machines is not included in total.

Source: Project Document

In the course of activities, the Project conducted seminar, workshop, and training. For the details, see Annex 11. In addition, the Project developed manuals and catalogues. For the details, see Annex 12.

Output 2: Institutional capacities of the target municipalities in supporting agricultural and rural development are strengthened.

Indicator
2-1. The number of applications for “subsidies” from the target areas to RS MOA is increased.
2-2. The number of “project proposals” by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased.
2-3. The number of approved proposals from the target areas is increased.
2-4. Information of agriculture and rural development is collected and recorded by each Municipality.
2-5. Information dissemination activities are conducted by Municipalities at least once a year.

In Output 2, it is expected that the institutional capacities of the target Municipalities be improved. Some Indicators of Output 2 in PDM are not very much adequately described, given the actual situations of C/P organizations. During the previous phase of the project, Local Integrated Development Unit was established at Srebrenica Municipality to efficiently manage project activities and it was aimed to strengthen the Unit in the current Project. However, after the termination of the previous phase, personnel has not been allocated to the Development Unit and the expected activities of the Local Integrated Development Unit was transferred to related sections such as Department of economy and development, which means that the role of the Development Unit expected during the previous project does not exist anymore. In addition, the situations of “subsidies” and “project proposals” described in the PDM are different from those expected in the formulation stage of the Project due to some discrepancy of information obtained. Therefore, the achievements of the Output 2 are described below qualitatively, with consideration to the results initially expected in this Output.

2-1. The number of applications for “subsidies” from the target areas to RS MOA is increased.

The number of applications for “subsidies” from the target areas is increasing. Farmers engaged in the communities are eligible to apply for subsidies by RS MOA if they have a certain level of yields. This subsidy is applied to those growing raspberry and feeding cows. It is reported that, thanks to the Project activities, the yields of agricultural products have been increased, therefore, it is considered that the number of application for subsidies is increasing, according to interview. The Municipalities are providing farmers with necessary support to facilitate the process of application for subsidies.

2-2. The number of “project proposals” by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased.

Local residents submit “project proposals” to the Municipalities when necessary. For example, Rogatica Municipality calls for public proposals on capital expenditures and the proposals can be incorporated into the Municipality budget plan, if approved.

2-3. The number of approved proposals from the target areas is increased.

During the interview, it is found out that the proposal presented by one non-profit organization, Tourist Organization, was approved and incorporated in the budget plan of 2016 in Rogatica.

2-4. Information of agriculture and rural development is collected and recorded by each Municipality.

Each of three Municipalities is collecting information of agriculture and rural development. Also, in Bratunac and Rogatica, monitoring results of activities are recorded and stored in database. Srebrenica does not have such database at the time of the terminal evaluation.

2-5. Information dissemination activities are conducted by Municipalities at least once a year.

Each of three Municipalities regularly conducts information dissemination such as tender and selection of beneficiaries. In addition, the Municipalities provides technical advice to community people and associations. In Bratunac, the Municipality gives technical support in collaboration with a raspberry expert implementing field activities.

Output 3: Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA

Indicators
3-1 Reporting and sharing information to RS MOA at regular basis.

3-1 Reporting and sharing information to RS MOA at regular basis.

Each of three Municipalities conducts exchange of information with RS MOA and information is

shared between RS MOA and each Municipality. In each Municipality, C/P personnel plays a key role in sharing information with RS MOA.

3-4 Project Purpose

Project Purpose: Implementation system for inclusive and fair community development is strengthened in each target area.

Indicators
1. The number of cases and types of agricultural and rural development activities initiated by the municipalities are increased by the end of the Project period.
2. Satisfaction of community people in the target areas increased with public services (agricultural support, information service, others) relating to community development.
3. The income of the targeted population is increased.

1. The number of cases and types of agricultural and rural development activities initiated by the municipalities are increased by the end of the Project period.

In Bratunac, the Municipality established a nursery organization to grow and distribute raspberry seedlings. In this activity, the Municipality provided the land for nursery and JICA provided initial seedlings. UNDP, as a part of donor collaboration, provided fences for the nursery area. Through the nursery organization, seedling will be distributed to those who start raspberry growing. Municipality is planning to get the nursery organization financially self-sufficient in a few years. Following the establishment of nursery by Bratunac, Srebrenica Municipality is also planning to establish a similar nursery organization. Rogatica is planning to establish a sheep breeding center on their own.

2. Satisfaction of community people in the target areas increased with public services (agricultural support, information service, others) relating to community development.

According to the interview during the terminal evaluation, most of the beneficiaries are satisfied with the activities supported by the Project. Some of them commented that the communication with Municipal office has been improved during the project activities. One C/P personnel commented that the Municipality has more request for advice from the community people. The Municipality also played an important role in solving the dispute among community people during the Project activities. These facts show that the satisfaction and trust toward to the public service of the Municipalities is improving among community people.

3. The income of the targeted population is increased.

The household income presented in the endline survey conducted by the Project is shown in the Table below.

Table 2: Household annual income of beneficiaries in Rogatica and Srebrenica

Income (KM:convrtilbe mark)	Rogatica				Srebrenica			
	2014		2016		2013		2016	
	No.	%	No.	%	No.	%	No.	%
0 KM	21	7	0	0	0	0	2	1
Less than 500 KM	18	6	3	1	1	0	2	1
500 – 1,000 KM	34	12	10	4	4	2	15	4
1,000 – 3,000 KM	66	23	29	10	34	13	57	17
3,000 – 6,000 KM	105	38	157	54	82	32	113	34
More than 6,000 KM	39	14	91	31	134	53	145	43
(Total)	283	100	290	100	255	100	334	100

Source: Endline Survey by the Project (draft)

The results of the endline survey of Bratunac have not been compiled at the time of the terminal evaluation.

In Rogatica, the ratio of number of household that has income more than 3,000KM was clearly increased from 2014 to 2016. In Srebrenica, the ratio of number of household that has income 1,000KM to 6,000KM is slightly increased from 2013 to 2016 but the ratio of household with more than 6,000KM is decreased in 2016.

It should be noted that some activities depends on climate conditions and the yield of products is not always stable. In some activities introduced by the Project, it take some time to obtain income after the initial investment, for example, some varieties of fruit trees. These factors may explain the situations of Srebrenica.

Most of the beneficiaries interviewed gained income through the activities introduced by the Project.

3-5 Overall Goal

Overall Goal: Confidence-building among the target population is promoted through strengthening the system of agricultural and rural development with inclusiveness and fairness.

Indicator

1. Positive awareness changes of target population
--

I. Positive awareness changes of target population

The communications and network among the target population is improved through activities introduced by the Project. They are now participating in the work, discuss problems of the communities, visit each other, and have sociable occasions. These collaborative activities are seen between two ethnicities, Bosniaks and Serbs as well.

4 Implementation Process

The Evaluation Team confirmed that the implementation process of the Project had been appropriate in

general. The followings are the major points observed by the Team.

(1) Overall implementation process

The overall project implementation process is smooth in general. There was a delay in procurement process due to inappropriate conduct of supplier and procedural matters but the Project coped with the problem in cooperation and there was not a serious problem in the overall project implementation.

Several contributing factors can be pointed out for the smooth project implementation. First, during the previous phase of the project, the project implementation procedure was quite well established between Srebrenica Municipality and JICA. The experiences of the activities implemented in the previous project were appropriately utilized in this Project. Another contributing factor is the careful planning of the project activities. For example, the implementation of agricultural activities was planned in accordance with sowing and harvesting cycle. At the same time, the Project took flexible response in case of unexpected events. In addition, the Project had a close discussion among Japanese experts, C/P personnel, and the communities when they are faced with challenges and problems.

There are some inhibiting factors as well. First, there was a trouble with some suppliers of the materials necessary for the rural development activities. One supplier of raspberry seedling did not sell the seedlings to the Project as planned due to some mishap. Consequently, the Project team had to look for another supplier but, fortunately, the delay did not seriously affect the raspberry activity. Next in infrastructure activity, some residents did not want to concede their land for community road construction and the Project had to change the construction site. Another prohibiting factor is that some community people are not very much eager to start new things. The C/P personnel and Japanese experts, together with the project local staff, explained about the activities to persuade them. Furthermore, it is sometimes difficult for Japanese experts to obtain the precise information about the local situation. They worked closely with relevant stakeholders and try to grasp the current situation as precisely as possible. In addition, it is reported that the project implementation process was sometimes affected by political situation. In spite of several inhibiting factors above mentioned, there was not major delay in the overall project implementation process.

(2) Project management system

The project management system was appropriate.

The Project has been implemented in the way that the C/P organizations have more initiative in project implementation than the previous phase. Municipalities are involved in the selection of beneficiaries and in the distribution of materials for activities with more initiative than the previous phase.

The Joint Coordinating Committee (JCC) is functioning as a structure to share information, to monitor the overall project progress, and to solve problems. It also serves as an opportunity to share information with RS MOA. In addition to JCC, working-level meetings are frequently held.

In Srebrenica, as mentioned before, the Development Unit established during the previous project does not have function as initially expected but the relevant C/P Departments in Srebrenica Municipality implemented the Project smoothly.

The Project conducts monitoring for each rural development activity. C/P personnel, sometimes together with Japanese experts, conducts monitoring in the field to see if the activities are being implemented without problem. As to the activities subcontracted to NGOs/associations/cooperatives, monitoring was conducted in cooperation with the NGOs/associations/cooperatives.

Monitoring of the overall project activities was conducted based on PDM and PO. PDM has not been revised since the beginning of the Project although some Objectively Verifiable Indicators of PDM were not very adequate, as described before. However, overall objective and orientation were shared among project stakeholders.

(3) Communication among project team and with related organizations

Communication among project stakeholders is smooth.

Technical transfer by Japanese experts was conducted through implementation of various agricultural and rural development activities. Japanese experts are based at Skelani Local Office in Srebrenica and visit other two Municipalities, Bratunac and Rogatica, frequently.

Communications between Japanese experts and C/P personnel have been smooth in general. There are frequent and active communications among three Municipalities. Communications with NGOs/associations/cooperatives, MZs, and community people are also good. Local people have close communications with each other and NGOS/associations/cooperatives provide necessary technical advice to local people. RS MOA provides technical advice to Municipalities and associations when necessary.

(4) Ownership of project stakeholders

Ownership of project stakeholders is high.

The commitment of the project stakeholders was high in general. Most of the C/P personnel, Japanese experts, NGO/associations/cooperative and community people have high motivation and have been actively involved in the Project.

C/P organizations make various decisions with Japanese experts. As the role of C/Ps is greater than the previous project, C/Ps are involved in decision-making of the Project more frequently and actively.

NGOs/associations/cooperatives play an important role in the implementation of the Project as facilitator between the C/P organizations and community people. Most community people are diligently involved in the Project. It is reported that some people do not understand the Project well and some people abuse the materials provided by the Project but there are only a few cases for this kind of problem.

5 Evaluation Based on Five Evaluation Criteria

The evaluation based on five evaluation criteria is presented below.

5-1 Relevance

Relevance of the Project is high in general.

(1) Consistency with the needs of target group and society in Bosnia and Herzegovina

The needs of the Project is high.

There are considerable number of conflict-affected people in the target area. The majority of those still have economic difficulties. To strengthen the capacity of communities, confidence-building is required. In addition, to implement sustainable rural development, capacity development of municipalities is necessary.

In target Municipalities, it is difficult to create employment as opportunities are still limited, and the majority of population depends on agriculture. In target Municipalities, there are quite high potentials in agriculture, as seen in the fact, for example, that the climate and soil are suitable for raspberry cultivation, but many farmers do not have initial investment to utilize agricultural potential.

In addition, in Bratunac and Rogatica, there are not large-scale activities supported by other donors.

Through the implementation of the Project, approximately 2,500 people have been benefited. Vulnerable people who needs assistance, including single-parent households, handicapped, and the poor, are selected as beneficiaries. The beneficiary selection process is generally accepted as fair and transparent among communities. Information on application for beneficiaries was presented in the notice board and the web-site of the Municipalities and was disseminated to MZ council as well. The selection criteria was made clear in the notice. The Project gave careful consideration to the balance between Bosniaks and Serbs in beneficiaries.

(2) Consistency with policy of the Bosnia and Herzegovina government

The Project is consistent with the policy of BiH government and target Municipalities.

In the strategic plan for the development of agriculture and rural areas of the Republic of Srpska (2015-2020), in "Vision", agriculture together with the food industry is described as one of the leading economic sectors. In Vision, it is also stated that in rural areas all the social categories meet conditions for life on equal footing. This may imply the needs for confidence-building among ethnicities.

In the development plan of target Municipalities, agriculture is the priority area. The Project selected the activities related to agricultural products of strategic priority of each Municipality. In the document of the Development Strategy (2015-2019) in Srebrenica, cattle breeding (sheep farming, cattle growing, poultry farming, pig breeding), fruit growing (berries and fruit trees), and beekeeping are listed as the

most important branches of agricultural production. Raspberry is one of priority products in Bratunac.

(3) Consistency with Japanese ODA policy

The Project is consistent with Japanese policy of Official Development Assistance (ODA) toward BiH. In the country assistance policy of BiH, the main objective is support to stabilization of society and development of economy. Under this main objective, there are two priority areas, one is continuous peacebuilding and ethnic reconciliation, and the other, sustainable economic development with consideration to environment. The Project is included in the programs under the priority of continuous peacebuilding and ethnic reconciliation.

(4) Appropriateness of intervention

The project intervention is generally appropriate.

The project planning is adequate. The project design was formulated based on the experiences of the previous project and agreement of C/P organizations. In regard to Output 2, institutional capacity of target Municipalities, indicators were not very well elaborated in PDM, due to lack of precise information at the planning stage.

To formulate an efficient and effective rural development activities, some activities of the previous project were not introduced in the Project, taking the results of the previous phase into consideration. Also, in the current Project, some new activities were introduced, for example, Decentralized Hands-On Program Approach (D-HOPE).

The Project design is appropriate. It is aimed to build confidence among target population while they implement various rural development activities. Implementing activities through collaboration among people is an effective way to build confidence. Also to implement fair and inclusive community development, institutional capacity building of municipalities is included.

Japanese experiences in similar areas are incorporated in the project design. For example, Japan has a considerable amount of experience of rural development, including rural development through “one-village, one-product” and D-HOPE. During the interview, some people commented that careful needs investigation and activity planning tailored for the needs are the characteristics of Japanese technical cooperation as well as attentive follow-up and monitoring. Also, some mentioned that the approach of Japanese cooperation is something like “teach how to work” rather than “just giveaway”.

5-2 Effectiveness

Effectiveness is relatively high.

(1) Achievement of Project Purpose

The Project Purpose is being achieved.

As for the Indicator 1, agricultural and rural development activities initiated by the Municipalities, there are some example, such as raspberry nursery established in Bratunac, although it will still take some time to get it fully functioning in a financially independent way.

In regard to the Indicator 2, the satisfaction of community people with the public service, there are some good signs to show the improvement of relations between target Municipalities and the communities.

As to the Indicator 3, the endline survey reveals that the income of beneficiaries in Rogatica is increasing while the increase of income is not recognized in Srebrenica. The income of most beneficiaries interviewed during the terminal evaluation is increasing. The vulnerable people such as returnees and single mothers increased their income through production supported by the Project. It can be said that the income of beneficiaries is increasing in general if they fully utilize the materials and activities provided by the Project but there are some external factors that affect their income, such as weather conditions. Some beneficiaries say that it will take some more time to gain substantial income, for example, it needs one year for raspberry, and three years for most fruit trees. Some also mentioned that it is difficult to sell their products but most of beneficiaries find market quite easily.

One promoting factor for the achievement of the Project Purpose is the appropriate selection of agricultural and rural development activity. All selected activities are attractive for the target beneficiaries, appropriate for local needs, and produce profit in most cases. Another promoting factor was appropriate selection process of beneficiaries, which contributes to “fair and inclusive” community development.

(2) Logic from Output to Project Purpose

Logic from Output to Project Purpose is appropriate to some extent. Both Output 1 (agricultural and rural development activities) and Output 2 (institutional capacity of target Municipalities) are necessary components to achieve the Project Purpose, i.e., implementation system for inclusive and fair community development. Output 3, information sharing with RS MOA may be theoretically an important component to strengthen implementation system of community development. However, according to interview, the involvement of RS MOA in the Project is practically limited to technical advice, which itself is important, but the significance of information sharing in the achievement of Project Purpose in the target municipalities is not very clear.

In regard to the Important Assumptions to achieve Project Purpose, one of them, policy of agricultural and rural development, is fulfilled. As to the other, price of agricultural product, fluctuations in prices of agricultural product is reported by some interviewees, but there was not drastic price change to seriously affect farmers.

5-3 Efficiency

Efficiency is high in general.

(1) Achievement of Outputs

Outputs are being achieved.

Output 1 is expected to be achieved. Agricultural and rural development activities are implemented smoothly in general and beneficiaries and target communities are benefited.

Output 2 is being achieved. According to Interview, the capacity of three Municipalities is improving which lead to more favorable relations with community people. However, it is desirable to further strengthen institutional capacity of target Municipalities to fully implement their duties to support agricultural and rural development.

Output 3 is also being achieved. Information sharing between RS MOA and target Municipalities is improving.

In addition to the Outputs described in PDM, there are some outputs produced by the project activities. First, as a result of enhanced communications among three Municipalities, new activities have been launched. For instance, Srebrenica is planning to establish a raspberry nursery just like the one already in operation in Bratunac. Another example is that Srebrenica purchase sheep from Rogatica. Next, one old school building next to the project office in Skelani, Srebrenica, is renovated as a food processing plant by the finance of Srebrenica Municipality. JICA provided necessary materials and Srebrenica Municipality allocated budget for construction work. The plant is equipped with honey processing machines. Some of them are those supplied in the previous project but were not utilized because the plant where they were supposed to be placed did not meet the EU standard at that time. It is expected that the plant will contribute to increased sales of agricultural products as well as to creation of employment for plant workers. Furthermore, during the period of the terminal evaluation, Agricultural Fair took place at the livestock market constructed by Japanese Grant Assistance for Grass-Roots Human Security Project. The Fair was held in collaboration among JICA, Srebrenica Municipality, and Tourist Organization. It was a good opportunity for community people to exhibit their agricultural products, livestock, and handicrafts and to socialize with each other. It is expected that the Fair be continuously held and serve as opportunity to restore human relations as well as traditional culture in the local communities in order to promote unified community identity like that before the war. .

Promoting factors for the achievement of Outputs are; appropriate selection of beneficiaries, monitoring of agricultural and rural development activities, and appropriate technical assistance to the community by Japanese experts, Municipalities, and NGOs/associations/cooperatives. Furthermore, sharing of responsibility and cost was a promoting factor. In infrastructure construction, JICA provided materials, Municipality provided necessary expenditures, and the community offered manual labor. In other activities, beneficiaries have obligations to obtain materials supplied by JICA, for example, beneficiaries

for raspberry growing should till their field before obtaining seedling. Sharing cost and obligation nurtured the sense of ownership among community people.

(2) Logic between inputs and outputs

Logic between inputs and outputs is appropriate. Necessary inputs are implemented to conduct planned activities, and activities effectively produced outputs.

The achievement of Outputs was somewhat affected by the Important Assumptions. One of the Important Assumptions is about natural disaster and the target areas were affected by flood in 2014, which washed away a certain part of fields of cultivation as well as considerable number of beehives. Beekeepers are suffering again in 2016 from dry weather. However, it is often the case that beekeepers have a longer-term production plan in the time span of about three years to cope with the unstable weather conditions. In addition, a majority of farmers diversify their production lines, for example, one household is engaged in fruit growing, vegetable growing, and beekeeping at the same time. In this way, they are trying to minimize the influence of the weather. As to the other Important Assumption, diseases for crops is also reported by some interviewees. However, the influence was not so significant as to diminish the outputs of the Project as a whole.

(3) Appropriateness of inputs

Inputs were appropriately implemented by both BiH and Japanese sides.

1) Assignment of C/P

Each Municipality allocated C/P personnel. Allocated personnel had high commitment and appropriate knowledge and experiences. To implement Project activities efficiently and effectively, allocation of more members C/P personnel might be desirable.

2) Japanese experts

Two long-term Japanese experts were diligently engaged in the Project. The dispatch of long-term experts was delayed due to procedural matters and when they were finally dispatched, spring agricultural season had already started. Nevertheless, this did not cause serious delay thanks to flexible implementation of activities. One additional short-term expert was dispatched to be engaged in D-HOPE activities, which was effective for technical transfer.

3) Facilities and equipment

Materials and equipment necessary for agricultural and rural development activities were provided by Japanese side. In the tender of materials and equipment, cost comparison was conducted, therefore, they were purchased with reasonable price. Procurement process was prolonged due to

misconduct of planned suppliers as well as procedural matters. Supplied materials and equipment are well utilized in general. The livestock market constructed during the previous project was not used for a long time due to infestation problem but was utilized as a venue for the Agricultural Fair above mentioned. There is a report that some beneficiaries abused the supplied materials, selling sheep just for profit, for example, but there are only a few cases.

4) Training in Japan

All the participants interviewed during the terminal evaluation are satisfied with the training in Japan. They learned rural development cases in Japan and Thailand as well as business practice in Japan. The participants shared their experiences with other staff at their organizations. In the first year (2014), when high level officials were dispatched to Japan, some candidates declined to participate partly because there was election.

5) Project cost

Both BiH and Japanese sides provided necessary cost for the project activities.

5-4 Impact

Impact is high.

(1) Achievement of Overall Goal

Overall Goal is likely to be achieved. Confidence-building is progressed in target communities. Through the project activities, people are willing to work together, share equipment, and socialize with each other.

One promoting factor for the achievement of Overall Goal is to implement activities where community people can work together. Sometimes community people communicate with each other upon necessity in implementing their activities and this stimulates more communication and confidence among them. To further promote confidence-building, it is necessary to continuously implement activities where people can work together, with the initiative of the target Municipalities.

Possible inhibiting factor for the achievement of Overall Goal is change of social and economic situations as well as social securities.

(2) Logic between Project Purpose and Overall Goal

The logic between Project Purpose and Overall Goal is appropriate. As described above, it is effective to implement appropriate agricultural rural development activities to build confidence. To implement activities continuously, it is necessary to strengthen the implementation system of target Municipalities.

As to the Important Assumptions to achieve Overall Goal, Municipalities are allocated some funds

including subsidies by RS MOA but their financial foundations to continue activities are not very strong.

(3) Impact on confidence-building

In addition to confidence-building among target population above mentioned, confidence between target population and Municipalities is gradually improving through project activities, according to interview.

(4) Other Impacts

Various additional positive impacts are observed. First, after the introduction of agricultural and rural development activities by the Project, the number of people to migrate to other municipalities to seek employment is decreasing because their income is increased, according to interview. If people stay in their communities, it will bring positive impact on the future development of the local communities. Another impact is dissemination of information of the Project to areas other than target Municipalities. The Project has actively promoted dissemination of information of the Project through experienced NGO and the Project is now well known outside the target areas. If the experiences of confidence-building in target communities are disseminated nation-wide, it may further stimulate awareness toward reconciliation.

5-5 Sustainability

Sustainability is medium.

(1) Policy aspect

Sustainability in policy aspect is high. The government policy to place importance on agricultural and rural development will be maintained both at RS MOA and municipality levels

(2) Organizational aspects

Organizational sustainability is expected to some extent.

The institutional capacity of C/P organizations is gradually improving. Through project activities, working structure such as beneficiary selection and monitoring was introduced and quite well established at target Municipalities. If C/P organizations continuously implement their duties in accordance with the working structure established during the Project and without support by Japanese experts, organizational sustainability is expected. After the election planned to be held in the beginning of October, there is a possibility of organizational change in C/P organizations. As the top management of each Department of Municipalities are political appointment, the influence of election is one concern for organizational sustainability.

(3) Financial aspect

Financial sustainability is not very high.

Through the support of the Project, the beneficiaries have acquired initial resources and they are willing to work on the assets to enhance their productive activities. Once they secure the initial assets, there is a good chance for them to become financially self-sufficient. However, it is always difficult for farmers to get funds for sufficient initial investment. During the Project, JICA provided initial investment such as seedlings and livestock. After the project completion, it is not certain if the Municipalities have sufficient budget to provide such initial investment. The raspberry nursery operated by Bratunac Municipality may be a good example to solve this problem. Srebrenica is also planning to establish a similar raspberry nursery, and Rogatica, sheep breeding center. If these activities are operated successfully in the future, it will help enhancing financial sustainability both for C/P organizations and communities.

One positive sign of the financial sustainability is the playrooms in Skelani and Potocari, Srebrenica. They were opened during the previous project and, upon the termination of the previous project, their operation was transferred to Srebrenica Municipality, with staff salary and running cost born by the Municipality. The visit during the terminal evaluation confirmed that both playrooms are operated satisfactorily.

(4) Technical aspect

Technical sustainability is expected to some extent.

During the project period, C/P personnel enhanced capacity of planning, implementation, and monitoring and they are willing to continue their work after the project period. If they are able to implement their duties in the way established during the project without the support of Japanese experts, technical sustainability is expected.

Community people acquired knowledge and technique to implement activities through workshops, training, and monitoring/supervision provided by the Project and they are willing to continue their activities. The Project supported formulation of strategic development plan of some MZs. In the MZs, it is expected that people continue to implement activities based on the strategic development plan.

Infrastructure constructed by the Project is well maintained among communities as well as agricultural equipment.

(5) Promoting and inhibiting factors of sustainability

To promote sustainability, the Project introduced activities which do not require a considerable amount of operation cost. In case of raspberry, they can continue growing fruits for 10 to 15 years once they acquire seedlings. Cattle breeding do not require a lot of expenditures once beneficiaries are provided with the cattle as the initial investment. For financial sustainability, diversification of production can be

one promoting factor. Activities introduced by the Project are interrelated with each other. Fruit growing and beekeeping will produce synergy effect if implemented at the same time and infrastructure such as road and water facilities will help increasing production in communities. Diversification of products will also mitigate the damage caused by price fluctuations and weather conditions. Strategic planning with consideration to diversification and combination of production may strengthen financial foundations for the households as well as communities. D-HOPE may contribute to diversification of activities as “champions” in various sectors are presented in the catalogues. Another promoting factor for sustainability in a long term is utilization of local resources and potentials. The target Municipalities have quite abundant natural resources and economic potentials. In tourism sector, there is a spa in Srebrenica and a cave in Rogatica but at the moment these tourism resources are not fully developed to contribute to the local economy. If these resources are fully utilized for economic expansion with the initiative of Municipalities, there is a good chance to benefit local people and communities. Possible inhibiting factors for sustainability are; insufficient budget of the Municipalities, policy and organizational change due to the elections, and changes in price of agricultural product and climate.

6 Conclusions

The Project has been implemented smoothly in general.

The Project is consistent with the needs and policy of the target area as well as Japanese ODA policy toward BiH. Therefore, relevance is general high. As the Project Purpose is being achieved, effectiveness is relatively high. Inputs are implemented appropriately and expected Outputs are achieved to some extent. Therefore efficiency is high in general. It is considered that confidence-building is progressing in target communities and relevant stakeholders such as C/P organizations, MZ, and NGOs/associations/cooperative, and impact is high. Sustainability is medium because there are some concerns in financial and organizational aspects.

It is confirmed that the expected benefits are being achieved, consequently, the Project will be terminated as planned.

7 Recommendations and Lessons Learned

7-1 Recommendations

Recommendations by the end of the Project

- (1) It is required that three Municipalities conduct monitoring of activities introduced by the Project in collaboration with Japanese experts and NGOs/associations/cooperatives. Municipalities are also requested to provide necessary support to the communities.
- (2) For the continuous implementation of the activities introduced by the Project, it is necessary that three Municipalities formulate a plan to secure the budget to implement the activities after the

termination of the Project. It is advisable that Municipalities start formulating the plan during the project period and that Japanese experts provide support to facilitate the process.

- (3) During the Project, the target Municipalities started some activities with their own initiative and it is desirable to promote the activities. It is expected that Bratunac Municipality further strengthen the raspberry nursery organization. It is also recommended that Srebrenica and Rogatica Municipalities promote establishment of raspberry nursery organization and livestock center, respectively.
- (4) The livestock market constructed during the previous project is not frequently used. It is recommended that Srebrenica Municipality utilize the livestock market in Skelani more actively.
- (5) It is important to record the progress of activities and the results of monitoring. It is recommended that the three Municipalities establish, polish, and utilize the database of activities.
- (6) To assess the impact of the Project, it is useful to review the production activities conducted in details, including quantity contributed by each ethnicity. For example, the Project is advised to analyze the record of refrigerating plant for raspberries to make this analysis, with cooperation between Japanese experts and C/P organizations.

Recommendations after the termination of the Project

- (7) It is required that the three Municipalities continuously implement the activities introduced by the Project. To realize this, it is necessary to allocate necessary budget and personnel based on the plan prepared during the project period, as above mentioned.
- (8) It is recommended that three Municipalities provide support to community people who need assistance. This should be implemented by securing budget to provide them with materials as initial investments. Appropriate technical advice is also necessary.
- (9) It is recommended that C/P organizations develop a feasible strategic action plan for comprehensive local development based on the field survey.
- (10) It is recommended that three Municipalities, in collaboration with relevant organizations, continuously organize activities like Agricultural Fair, which will benefit to promotion of interaction of local population, improvement of awareness, and continuation of traditional activities.

7-2 Lessons Learned

- (1) In the Project, beneficiaries of agricultural and rural development activities are supposed to execute some obligations before obtaining materials. In the activities to support community, it is effective to give beneficiaries a certain obligations in order to enhance their commitment and to successfully implement activities.
- (2) In the Project, confidence among community people has been improved while they implement activities supported by the Project. For confidence-building among community people and/or

between ethnicities, it is effective to offer “venue” or “opportunity” where community people and ethnic groups can participate in collaboration. Confidence-building will be promoted during the implementation of specific activities. If the activities are beneficial to strengthen economic foundations, people will actively participate.

- (3) To build confidence among target population, it is required to secure fairness, transparency, and accountability in beneficiary selection. This is especially important in conflict-affected countries and regions. In the Project establishing the procedure for beneficiary selection led to confidence-building. In order for the C/P organizations to continuously implement appropriate beneficiary selection, it is necessary to establish the selection procedure during the Project period and to strengthen the capacity of C/P personnel to implement the procedure.

Annex I Project Design Matrix (PDM)

Project Title: The Project for Confidence-Building through Rural Development
Target Area: Bratunac, Rogatica, Srebrenica
Target Group: Bratunac Municipality, Rogatica Municipality, Srebrenica Municipality
Final Beneficiary: Returnees, Families with war victims, Single parent households, Poor, Small farmers
Implementation Schedule: January 2014 to March 2017 (3 years 2months)

9th December 2013 Ver.1

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal Confidence-building among the target population is promoted through strengthening the system of agricultural and rural development with inclusiveness and fairness.</p>	<p>1. Positive awareness changes of target population</p>	<p>1-1 The result of the beneficiary survey and information collected on good practices in the target areas. 1-2 Monitoring report</p>	<p>Extreme natural disasters do not occur in target areas.</p>
<p>Project Purpose Implementation system for inclusive and fair community development is strengthened in each target area.</p>	<p>1. The number of cases and types of agricultural and rural development activities initiated by the municipalities are increased by the end of the Project period. 2. Satisfaction of community people in the target areas increased with public services (agricultural support, information service, others) relating to community development. 3. The income of the targeted population is increased.</p>	<p>1 The annual reports of the Project activities by related organization 2 Monitoring report 3-1 Financial and monitoring reports of the related organization 3-2 The result of the beneficiary survey on income</p>	<p>Budget allocation of the fund by RS MOA to Municipalities is maintained.</p>

<p>Outputs</p>	<p>1 Agricultural and rural development activities for improved livelihoods are implemented based on community needs.</p>	<p>1-1. The number of activities implemented by the Municipalities and related organizations such as MZs and NGOs</p>	<p>1-1 The activity plans and reports by related organizations</p>	<p>The policy of agricultural and rural development by target Municipalities and RS MOA is not changed drastically.</p>
<p>2 Institutional capacities of the target municipalities in supporting agricultural and rural development are strengthened.</p>	<p>2-1. The number of applications for "subsidies" from the target areas to RS MOA is increased.</p> <p>2-2. The number of "project proposals" by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased.</p> <p>2-3. The number of approved proposals from the target areas is increased.</p> <p>2-4. Information of agriculture and rural development is collected and recorded by each Municipality.</p> <p>2-5. Information dissemination activities are conducted by Municipalities at least once a year.</p>	<p>2-1. Record kept by Municipalities</p> <p>2-2. Record kept by RS MOA.</p> <p>2-3. Record kept by RS MOA.</p> <p>2-4. Project information record by Municipalities</p> <p>2-5. Report of information dissemination activities by Municipalities</p>	<p>Price of agricultural products and commodities in Bosnia and Herzegovina are stable.</p>	
<p>3 Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA</p>	<p>3-1 Reporting and sharing information to RS MOA at regular basis.</p>	<p>3-1. Progress report</p> <p>3-2. Mid-term review report</p>		

Activities		Inputs	
<p>1-0 Baseline survey is conducted for the target Municipalities (except Srebrenica)</p> <p>1-1 Municipalities and communities of the target areas identify useful local technologies, personnel and resources.</p> <p>1-2 Municipalities and communities of the target areas plan and implement agricultural related income generation activities (e.g. small-scale projects including herb production/processing, pasture production, honey production etc.).</p> <p>1-3 Municipalities identify, formulate, and implement agricultural and rural development activities and livelihood improvement activities, which are effective to promote confidence-building among communities.</p> <p>1-4 People and community organizations of the target areas are involved in the Project activities and transfer their know-how of the agriculture and rural development to others.</p> <p>1-5 Municipalities and community conduct monitoring activities.</p> <p>2-0 Baseline survey is conducted.</p> <p>2-1 Municipalities submit project proposals for agricultural and rural development to RS MOA.</p> <p>2-2 Municipalities facilitate and provide necessary support to farmers for preparing project proposals and applications for subsidies.</p> <p>2-3 Municipalities provide information to all farmers equally and fairly.</p> <p>2-4 Municipalities collect and record information of cases, good practice, and lesson learnt on agriculture and rural development.</p> <p>2-5 Municipalities disseminate information in local society for sharing the experiences and lessons of the Project.</p> <p>3-1 Municipalities report project activities to RS MOA regularly.</p> <p>3-2 Dissemination seminar is conducted at the end of the Project.</p>	<p>Japan</p> <p>1. Japanese experts (1) Chief Advisor: Regional Development/ Peace Building, (2) Project Coordinator: Rural Development/ Agriculture, (3) Other experts in the specific fields of technology transfer may be dispatched, if necessary. 2. Equipment for the project 3. Project Expense 4. Training</p>	<p>Bosnia and Herzegovina</p> <p>1. Counterpart from Municipalities and Ministry (1) Project Director (2) Project Managers (3) Project Coordinator (4) Technical Counterpart Personnel 2. Office space and necessary facilities 3. Cost for Utilities - Necessary expenses in relation with the activities by the counterparts - Running cost of the office space (lighting and heating expenses)</p>	<p>Natural disasters (i.e. drought) do not occur in the target areas. Damage to crops by diseases and harmful insects do not occur largely in the target areas.</p> <p>Preconditions</p> <p>The related organizations and the targeted people participate in the project. Security condition is stable in the target areas.</p>

Annex 3 Schedule of the Terminal Evaluation Study

Schedule

Date	Time		
29-Aug	Mon	10:00	Move to Skelani (Project office)
		15:00	Briefing from former project manager on the history of the project @ project office
30-Aug	Tue	9:00	Briefing about evaluation method to C/Ps @ Municipality of Brutnac for C/P of Srebrenica and Brutnac
		10:00	Interview to Mayer of Brutnac
		10:30 - 12:30	Interview to C/P of Brutnac
		15:00	Interviews with the project staffs
		16:00	Interview to Japanese expert
31-Aug	Wed	8:00	Women's group (Bratunac)
		9:30-11:30	Propolis & Kesten @ Bratunac municipality
		11:30	Interview to beneficiaries @ Bratunac municipality
		12:30	Interview to beneficiaries @ Bratunac municipality
		14:30	Raspberry Nursery
		15:30	Site visits of infrastructure program (community road, river bank)
1-Sep	Thu	8:30	New Hope (NGO)
		9:30	Interview to Srebrenica cooperative"OPZ"
		10:30	Leave for Rogatica (lunch on the way)
		14:00	Beekeeping association
		15:30	Fruit grower's association
		16:30	Site visits of infrastructure program (water supply, bridge)
2-Sep	Fri	7:00	Explanation of evaluation method and interview to C/Ps
		7:30	Interview to Rogatica mayer
		8:00-10:00	Interview to CPs
		12:00	Tourist organization
		14:00	Interview of beneficiaries @ Gucevo MZ
		15:00	Agriculture association
3-Sep	Sat		Documentation
4-Sep	Sun		Documentation
5-Sep	Mon	8:30	Interview to C/P of Srebrenica Municipality
		10:00	SARA (NGO)
		12:00	Friends of Srebrenica (NGO)
		13:30	UNDP
		14:30	Osat beekeeping association @ his house
		16:30	Skelanka beekeeping association @ Project office in Skelani
6-Sep	Tue	7:40	Pick up from the hotel
		9:00	Interview with Beekeeper in Bratunac
		10:30	Interview with Raspberry beneficiary in Bratunac
		11:30	Lunch
		13:30	Observe Grass field, Irrigation in Brezani
		14:30	Observe Sheep famer in Toplica
		15:00	Observe Greenhouse in Skelani
			Observe Vegitable nursery in Skelani
		16:00	Interview with Mr. Almir
7-Sep	Wed	10:25	Spare day
		21:30	arrive at Sarajevo(OS 759)
8-Sep	Thu	10:00	Documentation
		11:30	Courtesy to Rogatica Mayer
			Meeting with Bosniac beneficiary from Zepa
		15:00	Interview with former Project manager @ project office in Skelani
		PM	Internal meeting
9-Sep	Fri	8:00	Interview to teacher of Skelani playroom
		9:30	Courtesy to Brutnac mayer
		10:30	Courtesy and Interview to Mayer of Srebrenica
		11:00	Courtesy to CPs of Srebrenica
		12:00	Interview to teachers of Potocari playroom
		15:00	Interview with Srebrenica beneficiaries @ Srebrenica
10-Sep	Sat	10:00	Brezani MZ
		11:30	Interview with Srebrenica beneficiaries @ Suceska
		14:00	Potocari MZ
			Documentation
11-Sep	Sun		Move to Banja Luka
12-Sep	Mon	9:00	Courtesy to Project Director/ Assistant Minister
		9:30	Interview to C/P
			Back to Skelani
13-Sep	Tue	AM	Finalization of evaluation report
		PM	Preparation of JCC, Translation of MM
14-Sep	Wed	9:00	JCC @ Municipality of Srebrenica
		11:00	Lunch
		PM	Srebrenica → Sarajevo

Annex 4 List of Counterpart personnel assignend

No.	Organization	Name of Counterpart personnel	Present Post	Role in the Project	Period of Assignment (YY.MM.DD)	
					From	To
1	Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management of Republic of Srpska	Mr. Zoran Kovačević	Assistant Minister	Project Director	2014.01.01	2015.12.01.
2	Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management of Republic of Srpska	Mr. Zoran Maletić	Assistant Minister	Project Director	2016.01.04.	up to now
3	Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management of Republic of Srpska	Mr. Vladislav Trifković	Head of Department for Agriculture Policy and International Cooperation	Technical counterpart (Contact person)	2014.01.01	up to now
4	Rogatica Municipality	Mr. Tomislav Puhalać	Mayor of Municipality	Project Manager	2014.01.01	up to now(*)
5	Bratunac Municipality	Mr. Nedeljko Mladenović	Mayor of Municipality	Project Manager	2014.01.01	up to now(*)
6	Srebrenica Municipality	Mr. Čamil Duraković	Mayor of Municipality	Project Manager	2014.01.01	up to now(*)
7	Rogatica Municipality	Mr. Darko Novaković	Head of department of economic and social affairs	Project Coordinator	2014.01.01	up to now(*)
8	Rogatica Municipality	Mrs. Snežana Kanostrevac-Cvijetić	Independent Expert for local economic development	Technical counterpart	2014.01.01	up to now
9	Bratunac Municipality	Mr. Radenko Radović	Head of department of economic and social affairs	Project Coordinator	2014.01.01	up to now(*)
10	Bratunac Municipality	Mrs. Ana Marković	Senior associate for project development and agricultural development	Technical counterpart	2014.01.01	up to now
11	Bratunac Municipality	Mr. Vjekoslav Stevanović	Head of unit for economy and development	Technical counterpart	2014.01.01	up to now
12	Bratunac Municipality	Mr. Radovan Petrović	Civil engineer	Technical counterpart	2014.05.19.	up to now
13	Srebrenica Municipality	Mr. Dane Katanić	Head of department of economy and development	Project Coordinator	2014.01.01	2016.03.18.
14	Srebrenica Municipality	Mr. Vladan Milovanović	Head of department of economy and development	Project Coordinator	2016.02.12.	up to now(*)
15	Srebrenica Municipality	Mr. Bego Bektić	Head of department of social affairs and public services	Technical counterpart	2014.01.01	up to now(*)
16	Srebrenica Municipality	Mr. Blagomir Jovanović	Head of Local Office Skelani	Technical counterpart	2014.01.01	up to now
17	Srebrenica Municipality	Mrs. Katarina Maksimović	Independent expert for agriculture	Technical counterpart	2014.01.01	up to now
18	Srebrenica Municipality	Mr. Hasmir Mujčinović	Veterinarian inspector	Technical counterpart	2014.01.01	up to now

(*) Counterpart personnel is subject to be replaced due to the result of election held in November 2016.

Annex 5 List of Japanese Experts dispatched

Long-term Japanese Experts

No.	Name	Field	Period of Assignment (YYYY.MM.DD)		JFY2013*	JFY2014	JFY2015	JFY2016
			From	To				
1	Mr. Hiroki Miyoshi	Chief Advisor / Urban and Regional Development & Peace Building	2014.05.12	2017.03.31				
2	Mr. Ichizo Nakayama	Coordinator / Rural Development	2014.07.17	2017.03.31				

Short-term Japanese Experts

No.	Name	Field	Period of Assignment (YYYY.MM.DD)		JFY2013	FY2014	FY2015	FY2016
			From	To				
1	Mr. Hiroki Miyoshi	(Consultation mission)	2014.02.10	2014.02.28	■			
2	Mr. Hiroki Miyoshi	(Consultation mission)	2014.04.09	2014.04.25		■		
3	Ms. Yumiko Okabe	Community Design	2016.04.27	2016.05.12				■

*JFY: Japanese fiscal year (from April 1 to March 31)

Annex 6 List of participants of Training in Japan

	Course title	Place	Period	Name of Participants	Post	Organization
1	Rural Development and Local Governance for Confidence Building	JICA Kyushu	2014.10.20-2014.10.29	Mr. Velimir Baic	Senior Associate for the Department of Food Industry	Ministry of Agriculture, Forestry and Water-Management
2				Mr. Srdjan Rankic	Deputy Chairman of the Municipal	Bratunac Municipality
3				Mr. Tomislav Puhalic	Mayor	Rogatica Municipality
4				Mr. Slobodan Planinic	Deputy Chairman of the Municipal	Rogatica Municipality
5				Ms. Biljana Rakic	Deputy Mayor	Srebrenica Municipality
6				Ms. Azra Hasic	Secretary of the Municipal Assembly	Srebrenica Municipality
7	Rural Development and Local Governance for Confidence Building in Japan and Thailand	JICA Kyushu and Surin in Thailand	2015.10.16-2015.11.17	Ms. Jelena Vlacic	Senior Advisor for Rural Development	Ministry of Agriculture, Forestry and Water-Management, Extension Service
8				Mr. Darko Novakovic	Head of Department of Economic and Social Affairs	Rogatica Municipality
9				Ms. Snezana Kanostrevac-Cvijetic	Independent Expert for Local Economic Development	Rogatica Municipality
10				Mr. Dane Katanic	Head of Department of Economy	Srebrenica Municipality
11				Mr. Bego Bektic	Head of Department of Social Affairs and Public Services	Srebrenica Municipality
12				Mr. Radenko Radovic	Head of Department Economic and Social Affairs	Bratunac Municipality
13				Mr. Andrijana Markovic	Senior associate for project and agriculture development	Bratunac Municipality
14				Ms. Vesna Stevanovic	Project Officer	JICA Project

Annex 7 List of equipment supplied by Japanese side

KM : Convertible Marks

No.	Date of delivery	Equipment	Manufacturer / Model	Qty	Unit Price		Sub-total	Target group / Location of use
					KM	KM		
1	2014.12.25	Potato Digger	Tehnos/1K-1D	5	KM	2,650.00	KM	Potato Growers Association / Rogatica
2	2014.12.25	Sprayer	Agromehanika / AGS440 PR3CF, 4MB 105/20	3	KM	1,900.00	KM	Potato Growers Association / Rogatica
3	2015.01.30	Pickup Truck	NISSAN / NAVARA2.5 dCi XE	1	KM	53,550.90	KM	Project Office
4	2015.03.09	Tractor	IMT Beograd / IMT 539 2WD	1	KM	20,943.00	KM	Agriculture Association / Rogatica
5	2015.03.09	One-row forage harvester	SIP Slovenija / SILO 80D	1	KM	10,413.00	KM	Agriculture Association / Rogatica
6	2015.03.09	Hydraulic loader	Gramip Dubrava, Croatia / HU6C	1	KM	5,733.00	KM	Agriculture Association / Rogatica
7	2015.03.09	Manure spreader	"Majevica" Bačka palanka/4 ton	1	KM	10,413.00	KM	Agriculture Association / Rogatica
8	2015.03.09	Plough	IMT Beograd / IMT 755 NK	1	KM	1,755.00	KM	Agriculture Association / Rogatica
9	2015.05.28	Baler	WOLGARI / Mini R 500	1	KM	22,113.00	KM	Agriculture Association / Rogatica
10	2015.06.18	Bale wrapper	ABBRIATA / MF70	1	KM	13,104.00	KM	Agriculture Association / Rogatica
Grand Total							156,974.90	(Include VAT)

In addition to the equipment listed above, materials for agricultural and rural development were distributed to beneficiaries.

Annex 8 Local cost by Bosnia and Herzegovina side

		(BAM; convertible mark)			
Municipality	Activity	JFY2014* 01.01-31.12	JFY2015 01.01-31.12	JFY2016 01.01-30.06	JFY2017 (planned) 01.01-31.03
Srebrenica	Beekeeping				
	Blackberry production				
	Raspberry production				
	Raspberry production in the Nursery			Land for raspberry nursery (1ha, in-kind contribution)	
	Fruit trees production including Fruit trees pruning				
	Support of Green house				
	Vegetable production				
	Sheep production				
	Dairy production				
	Small infrastructure development	In-kind contribution	In-kind contribution	In-kind contribution	In-kind contribution
	D-HOPE activity				
	Support to Playroom in Skelani and Potocari				
	MZ Strategic planning activity				
Grass field recovery activity					
Training in Japan					
Other activities					
Bratunac	production of blackberries	selection of beneficiaries, distribution of seedlings	0 BAM	0 BAM	0.00
	Raspberry production	70,200.00 BAM -as raspberry seedlings OPZ "Srebrenica"	112,320.00 BAM-as raspberry seedlings "ITC"	26,500.00-BAM as 2,000 pcs of rasp. Seedlings	265,000.00-BAM as 250,000 pcs of seedlings
	Production of raspberries in the nursery	0 BAM	12,500.00-BAM as establishment of nursery + salary	140,000.00-BAM as land +staff salaries	140,000.00-BAM as land + salaries
	Beekeeping, including the distribution of honey trees	3,500.00 BAM -as procurement of kit and materials	0 BAM	1,300.00-BAM as participation at the fair	1,500.00-BAM as participation at the fair
	Development of infrastructure	118,786.00-BAM as installation of materials	102,759.00- BAM as installation of materials	120,000.00-BAM as installation of materials	120,000.00-BAM as installation of materials
	D-HOPE activity	0 BAM	0 BAM	organizing the training for program providers	0 BAM
	Training in Japan	0 BAM	2,718.72-BAM as wages for participants	2,500.00-BAM as wages for participants	2,500.00- BAM as wages for participants
	Other activities				

Annex 8 Local cost by Bosnia and Herzegovina side

Municipality	Activity	JFY2014*			JFY2015			JFY2016			JFY2017 (planned)		
		01.01-31.12			01.01-31.12			01.01-30.06.			01.01-31.03		
Rogatica	Activities by Potato grower association and agriculture association provided Agricultural machines	Training for potato producers and agricultural producers - 550 BAM from MoA, renting of the venue - in kind contribution	Training for potato producers and agricultural producers - 1,200 BAM from MoA, renting of the venue - in kind contribution	Training for potato producers and agricultural producers - 300 BAM from MoA, renting of the venue - in kind contribution (01.01.-30.06.) * Trainings for potato producers and agricultural producers - 500 BAM from MoA, renting of the venue - in kind contribution (30.06-31.12 (planned))	* Trainings for potato producers and agricultural producers - 300 BAM from MoA, renting of the venue - in kind contribution (01.01.-30.06.) * Trainings for potato producers and agricultural producers - 500 BAM from MoA, renting of the venue - in kind contribution (30.06-31.12 (planned))							Trainings for potato producers and agricultural producers - 200 BAM from MoA, renting of the venue - in kind contribution	
	Beekeeping	In kind contribution 7,920 BAM, distribution, monitoring, organization of trainings, visit to the apiculture fairs etc	In kind contribution 7,920 BAM, distribution, monitoring, organization of trainings, visit to the apiculture fairs etc	* In kind contribution 3,960 BAM, distribution, monitoring, organization of trainings, visit to the apiculture fairs etc (01.01.-30.06.) * In kind contribution 3,960 BAM, distribution, monitoring, organization of trainings, visit to the apiculture fairs etc (30.06-31.12 (planned))	* In kind contribution 3,960 BAM, distribution, monitoring, organization of trainings, visit to the apiculture fairs etc (01.01.-30.06.) * In kind contribution 3,960 BAM, distribution, monitoring, organization of trainings, visit to the apiculture fairs etc (30.06-31.12 (planned))							In kind contribution 1,000 BAM, nitoring, organization of trainings, visit to the apiculture fairs etc	
	Fruit trees production including Fruit trees pruning	Trainings for fruit trees growers - 5*300 BAM =1,500 BAM financed by MoA, renting of the venue - in kind contribution	Trainings for fruit trees growers - 5*300 BAM =1,500 BAM financed by MoA, renting of the venue - in kind contribution	* Trainings for fruit trees growers - 5*300 BAM =1,500 BAM financed by MoA, renting of the venue - in kind contribution (30.06-31.12 (planned))	* Trainings for fruit trees growers - 5*300 BAM =1,500 BAM financed by MoA, renting of the venue - in kind contribution (30.06-31.12 (planned))								
	Raspberry production by farmers			* Training for raspberry producers - financed by MoA, 350 BAM, renting of venue - in kind contribution (01.01.-30.06.) * Training for raspberry producers - financed by MoA, 350 BAM, renting of venue - in kind contribution (30.06-31.12 (planned))	* Training for raspberry producers - financed by MoA, 350 BAM, renting of venue - in kind contribution (01.01.-30.06.) * Training for raspberry producers - financed by MoA, 350 BAM, renting of venue - in kind contribution (30.06-31.12 (planned))							Training for raspberry producers - financed by MoA, 200 BAM, renting of venue - in kind contribution	
	Grass field recovery activity	In kind contribution 1,200 BAM - distribution and monitoring											
	Sheep production	Training 550 BAM - financed by MoA, renting of the venue - in kind	Training 600 BAM - financed by MoA, renting of the venue - in kind	Training 550 BAM - financed by MoA, renting of the venue - in kind (30.06-31.12 (planned))	Training 550 BAM - financed by MoA, renting of the venue - in kind (30.06-31.12 (planned))								
	Sheep breeding center			In kind contribution - 5,000 BAM Co-financing 10,000 BAM (30.06-31.12 (planned))	In kind contribution - 5,000 BAM Co-financing 10,000 BAM (30.06-31.12 (planned))								
	Dairy production	Selection of the beneficiaries - in kind contribution 1,500 BAM	Selection of the beneficiaries - in kind contribution 1,500 BAM	Selection of the beneficiaries - in kind contribution 1,500 BAM (30.06-31.12 (planned))	Selection of the beneficiaries - in kind contribution 1,500 BAM (30.06-31.12 (planned))								
	Small infrastructure		20,000 BAM	7,000 BAM(30.06-31.12 (planned))	7,000 BAM(30.06-31.12 (planned))								

(BAM: convertible mark)

Annex 8 Local cost by Bosnia and Herzegovina side

Municipality	Activity	JFY2014* 01.01-31.12	JFY2015 01.01-31.12	JFY2016 01.01-30.06.	JFY2017 (planned) 01.01-31.03
	D-HOPE activity			* 2,500 BAM Two workshops organized - in kind contribution, renting of venue, visiting the field (01.01 -30.06.) * 2,500 BAM - in kind contribution, renting of venue. Cofinancing 3,000 BAM for the central exhibition (30.06-31.12 (planned))	
	Training in Japan {Other activities	1000 BAM	2,800 BAM	2,800 BAM (30.06-31.12 (planned))	

(BAM: convertible mark)

Explanation of In kind contribution by Rogatica Municipality

Rogatica Municipality appointed four people from the Department of Economic and Social Affairs to work on JICA project. They work from 10% to 30% of their working hours on JICA project and they are paid from the Municipality Rogatica. Therefore, the certain amount of their salaries (from 10% to 30%) is calculated as in kind contribution.

Annex 9 Local cost by Japanese side
As of July 31, 2016

						KM
Site	Item	JFY* 2013	JFY 2014	JFY 2015	JFY 2016	Grand Total
Srebrenica	Agriculture Fair				30,000.00	30,000.00
	Bank commission		591.18	608.01	48.80	1,247.99
	Beekeeping		18,095.90	19,190.43	17,687.09	54,973.42
	Blackberry		17,058.60			17,058.60
	Cow			72,540.00		72,540.00
	Cow (2nd batch)			5,793.90		5,793.90
	Cow (returned)				333.45	333.45
	D Hope(Srebrenica)				8,380.00	8,380.00
	Fruit trees (Apple, Plum, Pear)		8,024.00	8,299.50	8,014.50	24,338.00
	Fruit trees pruning		6,400.00			6,400.00
	Green house		19,496.06	8,629.91		28,125.97
	MZ Strategic Planning (Follow-up)			3,785.02	6,400.00	10,185.02
	MZ Strategic Planning (Planning)			4,584.20	15,280.00	19,864.20
	Raspberry for beneficiaries		152,422.50	85,000.00	83,160.00	320,582.50
	Raspberry (2nd batch)		200.00	60.00		260.00
	Raspberry manual				5,291.20	5,291.20
	Raspberry nursery				39,487.50	39,487.50
	Sheep		24,607.82	43,326.45	16,589.35	84,523.62
	Sheep (returned)					
	Small infrastructure			15,806.70		15,806.70
Small infrastructure (2nd batch)		110,550.74	89,632.77	11,671.48	211,854.99	
Study tour for Agriculture			912.00	828.25	1,740.25	
Vegetable seeds		715.20	729.10		1,444.30	
Sub-total			358,162.00	358,897.99	243,171.62	960,231.61
Bratunac	Bank commission		404.39	755.13	446.57	1,606.09
	Beekeeping		1,170.00	16,650.70	23,747.60	41,568.30
	Blackberry		11,583.00			11,583.00
	D Hope(Bratunac)			250.00	8,287.90	8,537.90
	Raspberry Fair			2,232.00	259.15	2,491.15
	Raspberry for beneficiaries		171,315.00	116,730.75		288,045.75
	Raspberry (2nd batch)			20,000.00		20,000.00
	Raspberry manual				18,035.13	18,035.13
	Raspberry nursery			37,071.00	118,755.00	155,826.00
	Raspberry nursery (2nd batch)			27,231.89	27,000.00	54,231.89
	Small infrastructure		112,731.85	139,683.99	67,643.55	320,059.39
	Study tour for Agriculture			1,170.00	1,100.00	2,270.00
	Sub-total			297,204.24	361,775.46	265,274.90
Rogatica	Agricultural machines			1,714.05		1,714.05
	Bank commission		198.84	225.79	106.22	530.85
	Beekeeping		18,079.02	26,810.90	14,685.44	59,575.36
	Cow		200,772.00	198,437.57	149,175.00	548,384.57
	Cow (2nd batch)		2,597.40	3,561.71	3,500.00	9,659.11
	D Hope(Rogatica)				7,000.00	7,000.00
	Fruit trees (Apple, Plum, Pear)		19,075.00	18,914.22		37,989.22
	Grass seeds		10,764.00			10,764.00
	Raspberry for beneficiaries				66,006.65	66,006.65
	Raspberry manual				3,527.47	3,527.47
	Sheep		24,392.00	25,418.00	24,800.00	74,610.00
	Sheep (imported)				20,000.00	20,000.00
	Small infrastructure		11,140.78	9,039.82	6,712.60	26,893.20
	Study tour for Agriculture			1,200.00	1,200.00	2,400.00
Sub-total		287,019.04	285,322.06	296,713.38	869,054.48	
Others	Bank commission		222.12	647.82	357.58	1,227.52
	Grass field recovery		23,469.90	26,640.00	24,000.00	74,109.90
	Grass seeds		132,315.00	133,880.80	80,355.00	346,550.80
	Play room in Skelani		1,562.00	426.55	1,599.00	3,587.55
	Sub-total		157,569.02	161,595.17	106,311.58	425,475.77
Project management	Bank commission	72.77	2,500.39	1,648.47	745.19	4,966.82
	Fuel for the project vehicle	1,847.24	16,653.36	25,017.85	7,066.60	50,585.05
	Office supplies and other expenses	12,131.86	53,940.36	58,292.60	18,157.42	142,522.24
	Personel expenses	1,295.00	61,278.20	97,530.80	37,074.40	197,178.40
	Meeting expenses	195.04	1,557.20	316.80	205.90	2,274.94
	Air fares and other expenses for Training in Japan		12,022.75	12,722.50	13,000.00	37,745.25
Sub-total	15,541.91	147,952.26	195,529.02	76,249.51	435,272.70	
Grand Total		15,541.91	1,247,906.56	1,363,119.70	987,720.99	3,614,289.16

*JFY: Japanese Fiscal Year (April 1 to March 31)

Annex 10 List of beneficiaries (by ethnicities)

Bratunac Agriculture			
Activity	Bosniak	Serb	Total
Beekeeping	36	49	85
2015 Spring	14	19	33
2016 Spring	22	30	52
Blackberry		11	11
2014 Autumn		11	11
Raspberry	47	225	272
2014 Autumn	11	64	75
2015 Spring	8	76	84
2016 Spring	28	85	113
Grand Total	83	285	368

Rogatica Agriculture			
Activity	Bosniak	Serb	Total
Beekeeping	9	51	60
2014 Spring	3	17	20
2015 Spring	3	17	20
2016 Spring	3	17	20
Fruit tree	4	84	88
2014 Autumn	4	39	43
2015 Autumn		45	45
Heifer	23	57	80
2015 Winter	13	28	41
2016 Winter	10	29	39
Raspberry	3	30	33
2016 Spring	3	30	33
Sheep	12	28	40
2014 Autumn	7	13	20
2015 Autumn	5	15	20
Grass seed	1	54	55
2015 Winter	1	54	55
Grand Total	52	304	356

Srebrenica Agriculture			
Activity	Bosniak	Serb	Total
Beekeeping	24	24	48
2014 Spring	8	8	16
2015 Spring	8	8	16
2016 Spring	8	8	16
Blackberry		30	30
2014 Autumn		30	30
Fruit tree	49	54	103
2014 Autumn	23	27	50
2015 Autumn	26	27	53
Green house	50	87	137
2014 Autumn		1	1
2015 winter	30	54	84
2016 winter	20	32	52
Heifer	11	9	20
2015 Autumn	11	9	20
Raspberry	94	109	203
2014 Autumn	44	56	100
2015 Autumn	36	37	73
2015 Spring	14	16	30
Sheep	27	17	44
2014 Spring	6	4	10
2015 Spring	16	8	24
2016 Spring	5	5	10
Vegetable	21	21	42
2015 Spring	10	10	20
2016 Spring	11	11	22
Grand Total	276	351	627

Rogatica Infrastructure		Total*
2014		1000
2015 Jan- May		50
2015 Jul.		150
2016		35
Total		1235

*Breakdown of ethnicities not specified

Bratunac Infrastructure			
	Bosniak	Serb	Total
2014		518	785
2015	115	195	932
2016	72	400	752
Total	187	1113	2469

Srebrenica Infrastructure			
	Bosniak	Serb	Total
2014	60	97	157
2015	110	61	202
2016	9	9	9
Total	179	158	368

Annex 11 Seminar, Workshop, and Training

No.	Course title	Municipality	Lecturer/trainer/moderator	Year	Date (Started) (MM/DD)	Date (Finished) (MM/DD)	Duration (days)	Total Number of Participants			Number of Bosniak Participants			Number of Serb Participants		
								Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female
1	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2014	6.27	6.27	1	10	8	2	3	3	0	7	5	2
2	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2014	6.29	6.29	1	8	8	0	1	1	0	7	7	0
3	Training on beekeeping (Unexperienced)	Srebrenica	OSAT beekeeping Association	2014	7.04	7.04	1	8	8	0	5	5	0	3	3	0
4	Training on beekeeping (Preparation for winter)	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2014	8.30	8.30	1	7	5	2	1	1	0	6	4	2
5	Training on beekeeping	Srebrenica	OSAT beekeeping Association	2014	8.13	8.14	2	8	8	0	5	5	0	3	3	0
6	Training on beekeeping on the spot	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2014	8.90	8.21	4	10	9	1	3	3	0	7	6	1
7	Training on beekeeping (Bee Disease)	Rogatica	Ms. Violeta Santrac	2014	9.10	9.10	1	41	32	9	1	1	0	32	23	9
8	Training on beekeeping (Preparation for winter)	Srebrenica	SELANKA beekeeping Association	2014	9.12	9.12	1	8	7	1	3	3	0	5	4	1
9	Training on fruit tree	Rogatica	Mr. Marko Govodarica	2014	9.27	9.27	1	32	30	2	0	0	0	32	30	2
10	Training on beekeeping on the spot	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2014	9.17	9.30	7	20	18	2	2	2	0	18	16	2
11	Study tour for beekeeping (Beograd)	Bratunac	=====	2015	3.01	3.01	1	46	44	2	15	15	0	31	29	2
12	Study tour for beekeeping (Beograd)	Srebrenica	=====	2015	3.01	3.01	1	33	31	2	21	21	0	12	10	2
13	Study tour for beekeeping (Beograd)	Rogatica	=====	2015	3.01	3.01	1	40	34	6	2	2	0	38	32	6
14	Training on raspberry planting	Srebrenica	Prof. Adnan Malicevic	2015	3.09	3.09	1	30	27	3	17	14	3	13	13	0
15	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2015	3.10	3.10	1	10	6	4	1	1	0	9	6	3
16	Training on pruning of orchards on the spot	Srebrenica	Mr. Ilija Kohnemusser / Mr. Nedjeljko Ivanovic	2015	2.19	3.09	13	58	51	7	24	23	1	34	28	6
17	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2015	4.26	4.26	1	12	9	3	0	0	0	12	9	3
18	Study tour for Agriculture (Novi Sad)	Bratunac	=====	2015	5.10	5.10	1	54	46	8	8	8	0	46	38	8
19	Study tour for Agriculture (Novi Sad)	Rogatica	=====	2015	5.10	5.10	1	35	32	3	0	0	0	35	32	3
20	Study tour for Agriculture (Novi Sad)	Srebrenica	=====	2015	5.10	5.10	1	26	22	4	6	5	1	20	17	3
21	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2015	5.09	5.09	1	7	5	2	0	0	0	7	5	2
22	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2015	6.18	6.18	1	13	9	4	0	0	0	13	9	4
23	Training on beekeeping (Introduction and practice)	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2015	6.21	6.21	1	13	9	4	0	0	0	13	9	4
24	Training on beekeeping	Srebrenica	Mr. Mijo Salihovic and Mr. Salko Nukić	2015	7.03	7.03	1	16	15	1	8	8	0	8	7	1
25	Training on beekeeping on the spot	Srebrenica	Mr. Mijo Salihovic	2015	7.27	7.29	2	8	7	1	1	1	0	7	6	1
26	Training on beekeeping for winter	Rogatica	Mr. Mile Kalem	2015	8.05	8.05	1	14	6	8	0	0	0	14	6	8
27	Training on beekeeping on the spot	Rogatica	Mr. Dragisa Jovtice	2015	8.18	8.27	9	40	33	7	6	6	0	34	27	7
28	Training on beekeeping on the spot	Srebrenica	Mr. Mijo Salihovic	2015	9.10	9.10	1	6	5	1	3	3	0	3	2	1
29	Training on beekeeping on the spot	Srebrenica	Mr. Salko Nukić	2015	9.10	9.10	1	6	5	1	3	3	0	3	2	1
30	Training on beekeeping on the spot	Srebrenica	Mr. Salko Nukić	2015	9.21	9.23	3	16	16	0	12	12	0	4	4	0
31	Study tour for beekeeping (Beograd)	Bratunac	=====	2015	10.03	10.03	1	41	41	0	15	15	0	26	26	0
32	Study tour for beekeeping (Beograd)	Rogatica	=====	2015	10.03	10.03	1	34	29	5	2	2	0	32	27	5
33	Study tour for beekeeping (Beograd)	Srebrenica	=====	2015	10.03	10.03	1	16	16	0	11	11	0	5	5	0
34	Training on beekeeping on the spot	Srebrenica	Mr. Mijo Salihovic	2015	10.24	10.25	2	16	14	2	4	4	0	12	10	2
35	Training on beekeeping on the spot	Srebrenica	Mr. Salko Nukić	2015	11.17	11.18	3	8	7	1	3	3	0	5	4	1
36	Workshop on decoupage	Rogatica	Ms. Zorica Mirjanic	2015	12.12	12.12	1	5	0	5	0	0	0	5	0	5
37	Workshop on decoupage	Rogatica	Ms. Zorica Mirjanic	2015	12.13	12.13	1	8	0	8	0	0	0	8	0	8
38	Study tour for beekeeping (Beograd)	Bratunac	=====	2016	2.27	2.27	1	33	33	0	16	16	0	17	17	0
39	ID-Hope Workshop	Bratunac	PRIRODA	2016	3.25	3.25	1	40	19	21	15	4	11	25	15	10
40	ID-Hope Workshop	Rogatica	Ms. Snezana Kanostrevac-Cvijetic	2016	3.28	3.28	1	45	30	15	3	2	1	42	28	14
41	ID-Hope Workshop	Srebrenica	SARA	2016	4.04	4.04	1	28	23	5	14	12	2	11	8	3
42	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2016	4.07	4.07	1	10	5	5	0	0	0	10	5	5
43	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2016	4.17	4.17	1	11	8	3	0	0	0	11	8	3
44	ID-Hope Workshop	Bratunac	PRIRODA	2016	5.04	5.04	1	30	12	18	8	2	6	22	10	12
45	ID-Hope Workshop	Rogatica	Ms. Snezana Kanostrevac-Cvijetic	2016	5.09	5.09	1	25	12	13	1	1	0	24	11	13
46	ID-Hope Workshop	Srebrenica	SARA	2016	5.10	5.10	1	31	18	13	14	7	7	17	11	6
47	Study tour for Agriculture (Novi Sad)	Rogatica	=====	2016	5.15	5.15	1	40	38	2	0	0	0	40	38	2
48	Study tour for Agriculture (Novi Sad)	Bratunac	=====	2016	5.15	5.15	1	58	50	8	6	4	2	52	46	6
49	Study tour for Agriculture (Novi Sad)	Srebrenica	=====	2016	5.15	5.15	1	36	25	11	5	1	4	31	24	2
50	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2016	5.22	5.22	1	11	8	3	0	0	0	8	3	0
51	Lecture on raspberry production at raspberry fair	Bratunac	Mr. Adnan Mackovic	2016	6.24	6.24	1	86	73	13	6	5	1	80	68	12
52	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radoslav Jankovic	2016	6.24	6.24	1	9	7	2	0	0	0	9	7	2

No.	Course title	Municipality	Lecturer/trainer/moderator	Year	Date (Started) (MM,DD)	Date (Finished) (MM,DD)	Duration (days)	Total Number of Participants			Number of Bosniak Participants			Number of Serb Participants		
								Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female
53	Training on beekeeping	Srebrenica	Mr. Mijlo Salihovic and Mr. Salko Nuhic	2016	6.30	6.30	1	16	14	2	8	7	1	8	7	1
54	Training on beekeeping	Rogatica	Mr. Radostav Jankovic	2016	6.29	6.29	1	8	7	1	0	0	0	8	7	1
55	D-Hope Workshop	Srebrenica	SARA	2016	7.10	7.10	1	8	4	4	2	1	1	6	3	3
56	D-Hope Workshop	Srebrenica	SARA	2016	7.17	7.17	1	10	1	9	6	1	5	4	0	4
	- Excursion by Skelani Play Room-															
1	Excursion to zoo in Belgrade	Srebrenica	Skelani Play Room	2014	9.29	9.29	1									
2	Excursion to Mokra Gora	Srebrenica	Skelani Play Room	2015	10.06	10.06	1	13			1	1	0	12	8	4
	- Workshop for MZ strategic planning in Srebrenica-															
1	Workshop for MZ strategic planning (Sucevka MZ)	Srebrenica	SARA	2015	9.09	9.09	1	10	8	2	10	8	2	0	0	0
2	Workshop for MZ strategic planning (Sucevka MZ)	Srebrenica	SARA	2015	10.01	10.01	1	8	7	1	8	7	1	0	0	0
3	Workshop for MZ strategic planning (Sucevka MZ)	Srebrenica	SARA	2016	2.11	2.11	1	12	12	0	12	12	0	0	0	0
4	Workshop for MZ strategic planning (Raikovici MZ)	Srebrenica	SARA	2015	12.08	12.08	1	13	12	1	4	3	1	9	9	0
5	Workshop for MZ strategic planning (Raikovici MZ)	Srebrenica	SARA	2016	1.16	1.16	1	8	7	1	6	5	1	2	2	0
6	Workshop for MZ strategic planning (Raikovici MZ)	Srebrenica	SARA	2016	2.18	2.18	1	11	3	8	11	3	8	0	0	0
7	Workshop for MZ strategic planning (Potocari MZ)	Srebrenica	SARA	2015	12.02	12.02	1	26	12	14	24	10	14	2	2	0
8	Workshop for MZ strategic planning (Potocari MZ)	Srebrenica	SARA	2016	1.11	1.11	1	10	6	4	6	4	2	4	2	2
9	Workshop for MZ strategic planning (Potocari MZ)	Srebrenica	SARA	2016	2.16	2.16	1	19	14	5	18	13	5	1	1	0
10	Workshop for MZ strategic planning (Vijogor MZ)	Srebrenica	SARA	2015	12.04	12.04	1	10	5	5	5	1	4	5	4	1
11	Workshop for MZ strategic planning (Vijogor MZ)	Srebrenica	SARA	2015	1.13	1.13	1	7	5	2	2	1	1	5	4	1
12	Workshop for MZ strategic planning (Vijogor MZ)	Srebrenica	SARA	2016	2.20	2.20	1	8	5	3	5	3	2	2	1	1
13	Workshop for MZ strategic planning (Podravanje MZ)	Srebrenica	SARA	2015	9.11	9.11	1	16	14	2	11	10	1	5	6	1
14	Workshop for MZ strategic planning (Podravanje MZ)	Srebrenica	SARA	2015	10.04	10.04	1	8	7	1	1	1	0	7	6	1
15	Workshop for MZ strategic planning (Podravanje MZ)	Srebrenica	SARA	2016	2.10	2.10	1	8	7	1	2	2	0	6	5	1
16	Workshop for MZ strategic planning (Brezani MZ)	Srebrenica	SARA	2015	10.19	10.19	1	12	10	2	0	0	0	12	10	2
17	Workshop for MZ strategic planning (Brezani MZ)	Srebrenica	SARA	2015	11.01	11.01	1	9	9	0	7	7	0	2	2	0
18	Workshop for MZ strategic planning (Brezani MZ)	Srebrenica	SARA	2015	2.13	2.13	1	8	8	0	7	7	0	1	1	0
19	Workshop for MZ strategic planning (Luka MZ)	Srebrenica	SARA	2016	5.09	5.09	1	14	14	0	14	14	0	0	0	0

Annex 12 List of manual and catalogue

	Type	Title	Qty
1	Manual book on Raspberry	SA VREMENA TEHNOLOGIJA UZGOJA MALINE U SKLADU SA NAČERIMA INTEGRALNE PROIZVODNJE (Modern technologz of growing rapberry in accodance with the principals of integrated production) Mr. Adnan Maličević and Mr. Asad Jelešković	1,500
2	D Hope Catalogue (Bratunac)	Confidence building through rural development (To be finalized)	8,000
3	D Hope Catalogue (Srebrenica)	(To be finalized)	8,000*
4	D Hope Catalogue (Rogatica)	(To be finalized)	8,000*

*No. of copies planned

5. 終了時評価グリッド

Evaluation Grid: The Project for Confidence-Building through Rural Development

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Data needed/Data source	Evaluation results
	Main questions	Sub-questions (Indicators)		
1. Project Achievements	Input	Inputs levels and achievement	<p>Bosnia and Herzegovina side</p> <p>Are C/P being assigned as planned?</p> <p>Are budget and materials being provided as planned?</p> <p>Are project office and other facilities offered as planned?</p> <p>Japanese side</p> <p>Are experts dispatched as scheduled?</p> <p>Is C/P training conducted in Japan as planned?</p> <p>Is equipment supplied as planned?</p> <p>Is local cost born as planned?</p>	<p>Project reports, Questionnaire, Interview</p> <p>Project reports, Questionnaire, Interview</p>
		Activities	<p>Is project being implemented as planned?</p> <p>1-1. The number of activities implemented by the Municipalities and related organizations such as MZs and NGOs</p> <p>2-1. The number of applications for "subsidies" from the target areas to RS MOA is increased.</p> <p>2-2. The number of "project proposals" by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased.</p> <p>2-3. The number of approved proposals from the target areas is increased.</p> <p>2-4. Information of agriculture and rural development is collected and recorded by each Municipality.</p> <p>2-5. Information dissemination activities are conducted by Municipalities at least once a year.</p>	<p>Project reports, Questionnaire, Interview</p> <p>The activity plans and reports by related organizations, Monitoring report, Project reports, Questionnaire, Interview</p> <p>Record kept by Municipalities, Project reports, Questionnaire, Interview</p> <p>Record kept by RS MOA, Project reports, Questionnaire, Interview</p> <p>Record kept by RS MOA, Project reports, Questionnaire, Interview</p> <p>Project information record by Municipalities, Project reports, Questionnaire, Interview</p> <p>Report of information dissemination activities by Municipalities, Project reports, Questionnaire, Interview</p>
	Outputs	<p>Extent to which Output 1 is achieved.</p> <p>1. Agricultural and rural development activities for improved livelihoods are implemented based on community needs</p> <p>Extent to which Output 2 is achieved.</p> <p>2. Institutional capacities of the target municipalities in supporting agricultural and rural development are strengthened.</p> <p>Extent to which Output 3 is achieved.</p> <p>3. Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA</p> <p>Other output</p>	<p>3-1. Reporting and sharing information to RS MOA at regular basis.</p> <p>Are there any other achievements resulted from project activities?</p>	<p>Progress report, Project reports, Questionnaire, Interview</p> <p>Project reports, Questionnaire, Interview</p>

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Data needed/Data source	Evaluation results
	Main questions	Sub-questions (Indicators)		
2. Project implementation process	Project Purpose	Extent to which the Project Purpose is achieved. Implementation system for inclusive and fair community development is strengthened in each target area.	1. The number of cases and types of agricultural and rural development activities initiated by the municipalities are increased by the end of the Project period. 2. Satisfaction of community people in the target areas increased with public services (agricultural support, information service, others) relating to community development. 3. The income of the targeted population is increased.	The annual reports of the Project activities by related organization, Project reports, Questionnaire, Interview Monitoring report, Project reports, Questionnaire, Interview Financial and monitoring reports of the related organization, The result of the beneficiary survey on income, Project reports, Questionnaire, Interview
	Overall Goal	Extent to which the overall Goal is achieved. Confidence-building among the target population is promoted through strengthening the system of agricultural and rural development with inclusiveness and fairness.	1. Positive awareness changes of target population	The result of the beneficiary survey and information collected on good practices in the target areas, Monitoring report, Project reports, Questionnaire, Interview
	Project implementation process	Overall project implementation process	Is the Project implemented smoothly in general? What are promoting factors for smooth project implementation? What are inhibiting factors for smooth project implementation? What kind of mitigation measures are taken?	Project reports, Questionnaire, Interview Project reports, Questionnaire, Interview Project reports, Questionnaire, Interview
	Project management system	Project management system	Is project management system functioning appropriately? Is Joint Coordinating Committee held and functioning as planned?	Project reports, Questionnaire, Interview
	Project management system	Monitoring process	How is the project team monitoring project implementation process? Is the project team reviewing PDM-PO according to the needs?	Project reports, Questionnaire, Interview
	Communication	Communication among project team and with related organizations	How Japanese experts are transferring their knowledge and techniques to the Bosnia and Herzegovina C/Ps? Is communication among project team smooth? How is the project conducting communications with related organizations such as Ministry of Agriculture, other development organizations, and local communities?	Project reports, Questionnaire, Interview Project reports, Questionnaire, Interview
	C/Ps' recognition of the project	C/Ps' ownership of the project (C/P or target group: Bratunac Municipality, Rogatica Municipality, Srebrenica Municipality)	How are C/P organizations involved in the project's decision-making? How is the commitment of C/P members of each C/P organization? How are the community people involved in the project?	Project reports, Questionnaire, Interview

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Data needed/Data source	Evaluation results
	Main questions	Sub-questions (Indicators)		
3. Relevance	Raison d'être of the project	Consistency with needs of target area and society	Is the project in accordance with the needs of target area and society?	Policy paper, Project reports, Questionnaire, Interview
		Consistency with needs of target group (Target Group: 3 Municipalities Final beneficiaries: Returnees, Families with war victims, Single parent households, Poor, Small farmers)	Are the target group benefited from the result of the project? Are the final beneficiaries benefited from the result of the project?	Project reports and questionnaire, Interview
	Socio-economic change	Are there any political and social changes affecting the needs of target group and final beneficiaries?	Project reports and related documents, Project reports, Questionnaire, Interview	
	Consistency with Bosnia and Herzegovina development policy	Is the project consistent with Bosnia and Herzegovina development policy?	Policy paper, Questionnaire, Interview	
	Consistency with Japanese development policy	Is the project consistent with Japan's policies and priorities in assistance to Bosnia and Herzegovina?	Japanese ODA policy paper	
4. Effectiveness	Appropriateness of intervention	Has the project taken the appropriate planning process?	Is the project appropriately designed to achieve the Project Purpose?	Project reports, Questionnaire, Interview
		Is the project approach appropriate to contribute to the promotion of confidence-building?	Does Japan have comparative advantage to cooperate in this field? If yes, in which specific area?	Project reports, Questionnaire, Interview
	Extent to which the Project Purpose is achieved.	Is Project Purpose likely to be achieved?	Project reports, Questionnaire, Interview	
	Factors promoting the achievement of Project Purpose	Are there any promoting factors in achieving Project Purpose?	Project reports, Questionnaire, Interview	
	Factors inhibiting the achievement of Project Purpose	Are there any inhibiting factors in achieving Project Purpose? Is yes, what kind of mitigation measures are taken?	Project reports, Questionnaire, Interview	
Causality of Outputs and Project Purpose	Sufficiency of Outputs	Are Outputs sufficiently and appropriately designed to achieve Project Purpose?	Project reports, Questionnaire, Interview	
	Important Assumptions from Output to Project Purpose	Is there any influence of Important Assumptions?	Project reports, Questionnaire, Interview	
	The policy of agricultural and rural development by target Municipalities and RS MOA is not changed drastically.	Are there any other Important Assumptions existing in order to achieve the Project Purpose?	Project reports, Questionnaire, Interview	
Extent to which Outputs are delivered	Achievement level of Output	Is Output 1 likely to be achieved?	Project reports, Questionnaire, Interview	
		Is Output 2 likely to be achieved?	Project reports, Questionnaire, Interview	
		Is Output 3 likely to be achieved?	Project reports, Questionnaire, Interview	
		Are there any outputs other than those described in PDM?	Project reports, Questionnaire, Interview	

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Data needed/Data source	Evaluation results
	Main questions	Sub-questions (Indicators)		
5. Efficiency	Factors promoting the achievement of Outputs Factors inhibiting the achievement of Outputs	Are there any promoting factors in achieving Outputs?	Project reports, Questionnaire, Interview	
		Are there any inhibiting factors in achieving Outputs? Is yes, what kind of mitigation measures are taken?		
	Appropriateness of Activities	Are current activities sufficiently designed to produce Outputs?	Project reports, Questionnaire, Interview	
		Are there any activities implemented in addition to those described in PDM?		
	Causality between Inputs and Outputs	Are Inputs appropriate to produce Outputs?	Project reports, Questionnaire, Interview	
		Sufficiency of Important Assumptions to achieve Outputs – Natural disasters (i.e. drought) do not occur in the target areas. – Damage to crops by diseases and harmful insects do not occur largely in the target areas.		
	Timeliness, quality and quantity of Inputs	Are there any other Important Assumptions existing in order to achieve Outputs?	Project reports, Questionnaire, Interview	
		Are Japanese experts' number, dispatched timing and expertise appropriate?		
	Appropriateness of Inputs	Are the equipment's specification, selection, quantity and delivery timing appropriate?	Project reports, Questionnaire, Interview	
		Are C/P training program's timing, quantity and contents appropriate?		
Extent to which Overall Goal is achieved	Are amount and disbursement timing of local cost appropriate?	Project reports, Questionnaire, Interview		
	Are C/PS sufficiently and appropriately placed?			
Achievement of Overall Goal (expected)	Are the quality, timeliness and size of the facilities and equipment offered by the Bosnia and Herzegovina side appropriate?	Project reports, Questionnaire, Interview		
	Is the budget for project activities by the Bosnia and Herzegovina side appropriately and timely disbursed?			
Causality between Project Purpose and Overall Goal	Are there any Inputs not appropriately utilized?	Project reports, Questionnaire, Interview		
	Is Overall Goal likely to be achieved?			
Sufficiency of Important Assumptions from Project Purpose to Overall Goal	Factors promoting the achievement of Overall Goal	Project reports, Questionnaire, Interview		
	Factors inhibiting the achievement of Overall Goal			
Sufficiency of Important Assumptions from Project Purpose to Overall Goal	Appropriateness of project logic	Project reports, Questionnaire, Interview		
	Is there a wide gap between Project Purpose and Overall Goal? Can Overall Goal be achieved within 3 to 5 years after project completion?			
Sufficiency of Important Assumptions from Project Purpose to Overall Goal	Is there any influence of Important Assumptions?	Project reports, Questionnaire, Interview		

Evaluation Criteria	Evaluation Questions		Data needed/Data source	Evaluation results
	Main questions	Sub-questions (Indicators)		
6. Impact		- Budget allocation of the fund by RS MOA to Municipalities is maintained.	Are there any other Important Assumptions existing in order to achieve the Overall Goal?	Project reports, Questionnaire, Interview
		Positive impacts	Is the project likely to have positive impacts in confidence-building process? If so, in which way? Is the project likely to have positive impacts in reconciliation and/or peacebuilding process? If so, in which way?	Project reports, Questionnaire, Interview
	Extending effects		Are there any positive impacts towards policy, law, system, gender, human rights, technology, society, culture and target group/final beneficiaries?	Project reports, Questionnaire, Interview
		Negative impacts	Are there any negative impacts towards policy, law, system, gender, human rights, technology, society, culture and target group/final beneficiaries?	Project reports, Questionnaire, Interview
	Policy sustainability	Policy support	Will policy support from the Bosnia and Herzegovina government continue to implement project activities after the project period?	Policy paper, Project reports, Questionnaire, Interview
	Organizational sustainability	C/P's organizational capacity	Is the capacity of C/P organizations improving? Is there any possibility of organizational change in C/P organizations?	Project reports, Questionnaire, Interview
Financial sustainability	C/P's financial capacity	Do C/P organizations have specific plan to continuously implement project activities to sustain project effects after the completion of the project period? Do community people have sufficient financial basis to continue activities introduced by the project?	Project reports, Questionnaire, Interview	
7. Sustainability			Are trained staff stably placed at C/P organizations?	
			Are knowledge and techniques transferred from Japanese experts effectively utilized at C/P organizations?	
	Technical sustainability	Extent to which knowledge and techniques transferred from Japanese experts are fixed and extended to staff at C/P organizations and other related stakeholders	Will activities supported by the project continue at C/P organizations? Will activities supported by the project continue in local communities?	Project reports, Questionnaire, Interview
	Promoting and inhibiting factors of sustainability	Promoting and inhibiting factors to sustain project effects	Are equipment and materials supplied by the project well maintained? What are the promoting factors to sustain project effects? What are inhibiting factors to sustain project effects?	Project reports, Questionnaire, Interview

